

全学共通科目:教養科目

科目	掲載ページ
哲学	2
心理学	3
日本国憲法	4
人権教育	5
地域と社会	6
芸術文化	7
歴史	8
香川学	9
人間と環境	10
ボランティア【保】	11

科目名： 哲学

担当教員： 赤松 孝章(AKAMATSU Kosyo)

【授業の紹介】

テーマ： 児童文学に見る日本人の生命観

概要： 「生と死」は、人間にとって永遠の課題です。そして哲学の歴史は「生と死」の探究であったともいえます。今年は児童文学の作品を通して「日本人の生命観」を哲学的に考察してみたいと思います。また、講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い、幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を取得します。

【到達目標】

1. 児童文学の名作の背景にある思想を知り、重要な東西の哲学について理解する。
2. 生きることの意味を考え、生命の尊さを再認識する。

【授業計画】

第1回	序 章	『いろはうた』	「雪山童子」の物語
第2回	第1章	『しゃぼん玉』	こわれる「いのち」
第3回	第2章	『彼岸花』	引き裂かれる「こころ」
第4回	第3章	『ササ・ジャータカ』	「月のうさぎ」の源流
第5回	第4章	『しあわせの王子』	「愛」の実践
第6回	第5章	『ほうこうさん』	「人形」の謎
第7回	第6章	『ペロ出しチョンマ』	「おもいやり」の心
第8回	第7章	『泣いた赤おに』	「鬼」の思想
第9回	第8章	『よだかの星』	「宮澤賢治」の世界
第10回	第9章	『私と小鳥と鈴と』	「金子みすゞ」の世界
第11回	第10章	『アンパンマン』	「やなせたかし」の世界
第12回	第11章	『かわいそうなぞう』	「平和」への願い
第13回	第12章	『もののけ姫』	「自然」との共存
第14回	第13章	『葉っぱのフレディ』	永遠の「いのち」
第15回	終 章	児童文学と生命観	

定期試験

【授業時間外の学習】

児童文学は、子どもを対象としたレベルの低い文学ではありません。作者の深い哲学的内面を表現した高度な作品がたくさんあります。授業で取り上げる作品以外にも多くの児童文学に親しみ、その作品が伝えようとした思想を探究してみてください。

【成績の評価】

期末試験で評価します（100％）。ただし欠席は減点の対象になります。

「出席表」の「記録事項等記入欄」に講義の感想や質問を書いてもらい、次の講義でフィードバックします。

【使用テキスト】

ありません。

【参考文献】

授業の中で紹介します。

科目名： 心理学

担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

心理学という学問はいろいろな分野の心理学が集まって成り立っている学問です。たとえば、知覚心理学や学習心理学、認知心理学、発達心理学、性格心理学、社会心理学、臨床心理学などがあり、ひとつひとつが適用範囲の異なる分野の心理学です。これらの心理学は方法や立場は違っても、人間の心のメカニズムを知るという点では共通しています。この授業では、心理学の歴史と研究法を交えながら、さまざまな心理学がどのような人間の心のメカニズムを解き明かしてきたのかについて授業を行います。

この授業では、保育学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある保育者としての資質能力を身に付けること、秘書科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある社会人としての幅広い教養と豊かな人間性を身に付けることを目指して学びます。

【到達目標】

- ・心理学の基礎知識を身につけ、人間の心のメカニズムを知ることができる
- ・さまざまな研究・調査・事例を通して、心理学を身近に感じ、自己や他者の心について考えることで、より深い人間理解につなげていくこともできる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション / 心理学の歴史と研究法
 - 第2回 感覚・知覚
 - 第3回 学習
 - 第4回 記憶
 - 第5回 思考
 - 第6回 動機づけ
 - 第7回 パーソナリティ
 - 第8回 発達 - 発達の定義と原理
 - 第9回 発達 - 胎生期・乳幼児期・児童期
 - 第10回 発達 - 青年期・成人期・高齢期
 - 第11回 対人
 - 第12回 社会
 - 第13回 無意識
 - 第14回 心の病理
 - 第15回 心の健康
- 定期試験

【授業時間外の学習】

返却された前回分の授業プリントはコメント等のフィードバックを確認し復習に役立てましょう。授業プリントはすべて保管し、毎時授業に持参できるよう整理整頓しておきましょう。

【成績の評価】

成績は授業への出席時に提出される学習シートの内容（10％）と定期試験の結果（90％）で評価します。学習シートは毎回点検し、コメント等を寄せて返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

大井晴策監修『プロが教える心理学のすべてがわかる本』（ナツメ社、2014年）

榎本博明著『はじめてふれる心理学[第2版]』（サイエンス社、2013年）

北尾倫彦・中島 実・井上 毅・石王敦子共著『グラフィック心理学』（サイエンス社、2013年）

科目名： 日本国憲法

担当教員： 井口 秀作(IGUCHI Shusaku)

【授業の紹介】

憲法という特殊な法の存在意義を確認したうえで、具体的な事例と関連づけながら、日本国憲法の基本的な構造について解説を行う。個人の尊厳を中核とする立憲主義がいかなるものであり、それが日本国憲法上でどのように具体化され、現実の社会でいかなる機能を果たしているかを確認していく。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。

【到達目標】

この授業によって

1. 「憲法」「立憲主義」という概念について理解し説明することができるようになる。
2. 国会、内閣、裁判所の権限や相互関係を憲法の条文に則して説明することができるようになる。
3. 人権にかかわる事例について、判例や学説を踏まえて、自分の見解を述べるようになる。

【授業計画】

第1回	憲法の存在意義	
第2回	憲法と法律の区別	
第3回	国民主権と政治制度	
第4回	法律の執行と行政権	
第5回	裁判所と司法権	
第6回	憲法改正と法律の改正	
第7回	基本的人権の意味	
第8回	精神的自由権(1)	内心の自由
第9回	精神的自由権(2)	表現の自由
第10回	経済的自由権	
第11回	人身の自由	
第12回	社会権	
第13回	法の下での平等と幸福追求権	
第14回	平和主義	
第15回	個人の尊厳と立憲主義	

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

新聞等で憲法にかかわる諸問題が扱われるときがある。日頃から、新聞などに目を通して、興味があることには主体的に調べてみるとよい。

【成績の評価】

授業中に行う、小テストの合計(100%)で成績判定を行う。小テスト終了後、その都度解説資料を配付する。

【使用テキスト】

必要な資料は適宜配布する。

【参考文献】

なし。

科目名： 人権教育

担当教員： 金子 匡良(KANEKO Masayoshi)

【授業の紹介】

私たちは「人権」という言葉をよく耳にしますが、では「人権」とはいったい何なのかと問われると、うまく説明できない人が多いのではないのでしょうか。そこでこの授業では、まず人権とは何かについて説明していきます。次に、女性の人権や外国人の人権といった具体的なテーマを取り上げ、日本や世界にどのような人権問題があるのかを考えていきます。また、古くから存在する同和問題（部落差別）についても取り上げます。

高松短期大学保育学科の「学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）では、「職業使命感と倫理観」「豊かな人間性」の涵養を謳い、また秘書科のディプロマ・ポリシーでは、「高い倫理観」「問題発見・解決力」の養成を掲げています。この授業は、こうした能力の向上を目指します。

【到達目標】

人権の意味や役割を正しく理解し、他人の権利や人格を尊重する態度を養う。

様々な人権問題の内容や沿革を正しく理解する。

現代社会を人権という観点から分析し、問題点を発見し、自分の頭でその解決策を模索できるようになる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方と授業内容の俯瞰）
 - 第2回 人権とはなにか（人権の定義）
 - 第3回 人権とはなにか（人権の内容）
 - 第4回 人権の歴史と種類
 - 第5回 平等と差別（平等の種類）
 - 第6回 平等と差別（差別の種類）
 - 第7回 人権侵害の内容と対象（人権侵害の内容）
 - 第8回 人権侵害の内容と対象（人権侵害の対象）
 - 第9回 人権侵害の要因（人権侵害の発生メカニズム）
 - 第10回 人権侵害の要因（ステレオタイプと偏見）
 - 第11回 女性の人権
 - 第12回 外国人の人権
 - 第13回 障害者の人権
 - 第14回 部落差別（同和問題）
 - 第15回 人権をめぐる今後の課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業中に配布したプリントや資料をよく読み直して復習をし、要点を整理するとともに、疑問点や問題点を明らかにしてください。また、ニュースなどを通して、人権に関わる現実の社会問題について知るとともに、その原因や解決策を自分なりに考えるようにして下さい。

【成績の評価】

授業中に行う小テスト（3回・30%）、および定期試験（70%）の点数を合計して、成績評価を行います。小テスト等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

特定のテキストは指定しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献】

阿久澤麻理子・金子匡良『人権ってなに？ Q & A』（解放出版社・2006年）

科目名： 地域と社会

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

【授業の紹介】

現在、様々な領域で「地域」の重要性が再認識されている。特に日本の地域社会では、経済のグローバル化や産業構造の変化等に伴って大きな社会変動が起こり、少子高齢化や地域経済の停滞などの多くの諸課題が山積している。現代社会の特徴は、過去の比較や将来への展望なくして、その本質や課題解決策を見付けることはできない。本授業では、地域社会の現状と課題を明らかにするとともに、地方創生や地域活性化に向けた新たな取り組みについて主体的に考える力を身に付けることで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法、態度を修得する。

【到達目標】

1. 自分たちが同時並行で体験している現代社会が、一体どのような時代的特色を持っているかについて、自ら多面的構造的に考えることができる。
2. 客観的なものの見方や自分の生き方と結び付けて将来を展望できる力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、現代社会とは何か
- 第2回 地域を考える：混乱する<地域>のイメージ～なぜ<地域>は重要なのか（P.3～P.20）
- 第3回 地域社会とはなんだろう～新しい地域社会の概念（P.21～P.43）
- 第4回 地域を枠づける制度と組織～政治とマスメディア（P.45～P.70）
- 第5回 地域に生きる集団とネットワーク～人と制度をつなぐもの（P.71～P.91）
- 第6回 地域の歴史を考える～調査研究の具体的な手続きと着手点（P.93からP.116）
- 第7回 地域がなぜ大切か：見直される地域～「共」の再構築（P.117～P.137）
- 第8回 地域を見る：子育てと地域社会～1980年代以降に見られる家族の変質（P.141～P.153）
- 第9回 1980年代以降の育児環境の変化～育児環境とその変革のさまざまな試み（P.154～P.170）
- 第10回 学校と地域：子どもを育てるといふこと～教育の自由化といふこと（P.171～P.196）
- 第11回 自営業者たちと地域社会：自営業者とは誰か～挑戦を続ける自営業者（P.197～P.220）
- 第12回 高齢化と地域社会：日本社会における高齢化の特徴～地域の重要性の増大（P.221～P.245）
- 第13回 エスニック集団と地域社会：地域社会における異質性の高まり～協働関係の模索（P.247～P.270）
- 第14回 地域社会の未来：コミュニティ行政の限界と遺産～新しいコミュニティ形成に伴う諸問題（P.271～P.296）
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答～少子高齢化とグローバル化の進展する地域社会は今後どうあるべきかを考える～
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回授業中に質問をするので、テキスト『地域の社会学』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。また、ユニットの区切り（原則として5回終了後）ごとに小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにしておくこと。本学図書館には、「地域と社会」に関する参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用して学習に役立てること。

【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容や主体的な学習状況の度合いなど（10%）に加え、毎授業時間後に提出するリフレクションシート（10%）、ユニットごとの小テスト（20%）及び学修ノート（20%）・レポート（40%）の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。遅刻2回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

森岡清志編『地域の社会学』（有斐閣、2008年、2,052円）

【参考文献】

大江正章『地域に希望あり、まち・人・仕事を創る』（岩波新書、2015年）袖井孝子編『「地方創生」へのまちづくり、ひとづくり』（ミネルヴァ書房、2016年）山田昌弘『少子社会日本—もうひとつの格差のゆくえ—』（岩波新書、2007年）鈴木浩『日本版コンパクトシティー—地域循環型都市の構築—』（学陽書房、2007年）藻谷浩介『デフレの正体—経済は「人口の波」で動く—』（角川新書、2010年）増田寛也『地方消滅・東京一極集中が招く人口急減』（中公新書、2014年）ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： 芸術文化

担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

この授業は、高松短期大学の秘書科及び保育学科の「学位授与の方針」(ディプロマブリシー)にある「幅広い教養」や「豊かな人間性」を習得することをめざす。

芸術文化と一口に言っても、音楽、美術、演劇、舞踊、映画、アニメーション、漫画等余りにもジャンルが広い。これら芸術文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらして人生を豊かにすると同時に、社会を活性化する上で大きな力となるものであり、その果たす役割は極めて重要である。

授業では、美術史を基軸に主な芸術作品を図版や映像から読み取り鑑賞する。しかし、単に鑑賞するだけでなく、時代背景を学びながらその作品に対して感じたことや、自分の考えを発表したり、想像したりしたことをワークシートに制作する。いわば、絵具等の道具を用いない美術の時間である。

【到達目標】

- 1 大まかな美術史の流れと、表現や技術の変遷を理解することができる。
- 2 作品に対して、複合的かつ重層的な見方や感じ方ができる。
- 3 作品を鑑賞して、自分の考えをまとめ発表することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、授業の内容と進め方、人類の出現と日本文化のあけぼの
第2回	日本美術(縄文~奈良時代) 鞍作鳥「釈迦三尊像」、興福寺「阿修羅像」他
第3回	日本美術(平安時代1) 鳥羽僧正 伝「鳥獣人物戯画」、常盤光長「伴大納言絵巻」他
第4回	日本美術(平安時代2) 定朝「平等院阿弥陀如来坐像」、両界曼荼羅図他
第5回	日本美術(鎌倉~室町時代) 藤原隆信 伝「源頼朝像」、長谷川等伯「松林図屏風」他
第6回	日本美術(安土桃山時代) 屏風と襖絵 狩野山雪「草花図」他
第7回	日本美術(江戸時代) 葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」、依谷宗達「風神雷神図屏風」他
第8回	日本美術(明治~現代) 八木一夫「ザムザ氏の散歩」、吉原治良「白い円」他
第9回	学外授業(香川県立ミュージアム視察と鑑賞)
第10回	西洋美術(ギリシャ~ローマ) ルーブル美術館「ミロのヴィーナス」他
第11回	西洋美術(ゴシック~ルネサンス) ダ・ヴィンチ「モナ・リザ」他
第12回	西洋美術(バロック) ベラスケス「ラス・メニーナス」他
第13回	西洋美術(ロココ~ロマン主義) ジェリコー「メデューズ号の筏」他
第14回	西洋美術(印象派~現代美術1) マネ「草上の昼食」他 デュシャン「泉」他
第15回	西洋美術(現代美術2) ゴームリー「反映/思索」他
定期試験	

【授業時間外の学習】

時に応じて小テストを実施するので、予習・復習を十分に行うこと。

【成績の評価】

期末試験 60%、小テスト 15%、ワークシート 15%、授業時の意欲・態度 10%

「古代」・「中世」・「近世」など單元ごとに振り返りを行い、確認のための小テストやワークシートを制作する。

なお、小テストやワークシートは添削の上、返却する。

【使用テキスト】

- ・辻 惟雄『日本美術の歴史』(東京大学出版会)3,024円
また別途資料を適宜、配布する。

【参考文献】

- ・守屋正彦・田中義恭・伊藤嘉章・加藤寛 監修『日本美術図解事典』(株式会社 東京美術、2014年) 4,104円
- ・高階秀爾『増補新装[カラー版]西洋美術史』(美術出版社、2002年) 2,052円

科目名： 歴史

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

【授業の紹介】

グローバル化が進展する中、今、「日本とは何か」が問われている。日本人一人ひとりへの問いかけである。「過去を知らなければ、未来を語ることはできない」とよく言われる。未来は、過去を振り返ることによってのみ明らかになってくる。日本には先人が生み育ててきた長い文化の歴史があり、本授業では、文化史の視点に立って改めて日本の歴史を振り返り、日本文化の特質とその歴史的な性格について学び理解することで、豊かな人間を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法、態度を修得する。

【到達目標】

1. 日本の身近な文化財や伝統文化を通して、それらが生まれてきた風土や歴史的な背景を理解できる。
2. 日本や日本文化に対する関心を高め、歴史的なものの見方や考え方を習得できる。
3. 新たな時代に相応しい日本文化を創造していく力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・文化史とは何か
- 第2回 日本文化の源流 (P.1~P.14)
- 第3回 古代国家の形成と日本神話 (P.15~P.39)
- 第4回 仏教の受容とその発展 (P.41~P.54)
- 第5回 漢風文化から国風文化へ (P.55~P.72)
- 第6回 平安時代の仏教文化 (P.73~P.83)
- 第7回 鎌倉仏教文化の成立 (P.85~P.110)
- 第8回 内乱期の文化 (P.111~P.124)
- 第9回 国民的宗教の成立 (P.125~P.136)
- 第10回 近世国家の成立と歴史思想 (P.137~P.156)
- 第11回 元禄文化 (P.157~P.173)
- 第12回 儒学の日本的展開 (P.175~P.185)
- 第13回 国学と洋学・明治維新における公論尊重の理念 (P.187~P.212)
- 第14回 近代日本における西洋化と伝統文化 (P.213~P.229)
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答～日本文化史から日本文化論へ～
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎時間中に質問をするので、テキスト『日本文化の歴史』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。また、ユニットの区切り(原則として5回終了後)ごとには小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにしておくこと。本学図書館には、日本文化史関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。

【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等(10%)に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー(10%)、ユニットごとの小テスト(20%)及び学修ノート(20%)・レポート(40%)の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。遅刻2回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

尾藤正英著『日本文化の歴史』(岩波新書、2000年、864円)

【参考文献】

家永三郎『日本文化史(第二版)』(岩波新書、1982年、886円) 佐々木高明著『日本文化の多重構造』(小学館、1997年、2,937円) 阿部猛・西垣晴次編『日本文化史ハンドブック』(東京堂出版、2002年、4,104円) 村井康彦著『日本の文化』(岩波ジュニア新書、2002年、449円) 大久保喬樹著『日本文化論の系譜』(中央新書、2003年、799円) 遠山淳他編『日本文化論キーワード』(有斐閣、2009年、1,944円)ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： 香川学

担当教員： 藤井 雄三(FUJII Yuzo)

【授業の紹介】

これからの社会を生きる者にとって、自己の立ち位置を知り、意識しておくことは、極めて重要です。今、香川県に住んでいる私たちにとって、そこがどのような場所であるのかを知ることは、避けて通ることができません。香川・高松の特色のある行事、地形、文化、歴史等を学び、社会人としての幅広い教養を身につけ豊かな人間性を育みます。

本授業では、1回の現地見学を予定しており、現地の息吹をじかに触れてください。その他は、基本的には講義形式ですが、授業全体では報告書、レポートの提出を求めます。

なお、現地学習等に要する経費は、各自の負担となります。

【到達目標】

- 1．香川県という地域を学び、地域に生きる意味を考えることができる
- 2．香川県という地域を愛することができる
- 3．多様化した社会において生き抜く自己のバックボーンにすることができる

【授業計画】

- 第1回 香川県を学ぶ
- 第2回 香川と地質
- 第3回 地名と香川
- 第4回 香川の歩み
- 第5回 香川の歩み
- 第6回 水と香川
- 第7回 水と香川
- 第8回 香川と環境
- 第9回 香川と交通
- 第10回 香川の祭礼
- 第11回 香川の芸術文化
- 第12回 香川の偉人
- 第13回 伝説と香川
- 第14回 現地見学
- 第15回 現地見学
- 定期試験

【授業時間外の学習】

どのような事でもいいですから、日頃から自分の住んでいる地域のことから、場所だけではなく、そこに住んでいる人々等も含めて、普段から複眼的な視野で学び、そして香川を見てください。

【成績の評価】

- 1．授業態度・レポート30%
- 2．試験等70%

試験の結果についてはオフィスアワーの際に説明します。

【使用テキスト】

毎回、配布するプリントもしくは資料を用います。

【参考文献】

特別なものはありませんが、必要な場合は講義中に随時紹介します。

科目名： 人間と環境

担当教員： 水口 裕之(MIZUGUCHI Hiroyuki)

【授業の紹介】

人間と環境との関わり合いを理解し、地球環境問題を考え、地球環境を考慮した生活を実践できる力を身に付けるための授業です。

地球上における人類を含めた生物の生存・活動の場としての環境の重要性は、広く認められています。現在の地球環境問題は、多くの要因が複雑に絡み合っています。このような中、「人類の生存の存続を可能とする持続可能な社会の構築」が必要であることが世界の共通認識となっています。

この授業は、地球環境問題の現状とその発生要因やメカニズムを理解し、今後の各個人の生活の在り方を考え、実践できる力を養成するものです。このため、個々人でいくつかのテーマの中から2つのテーマについて調査・考察し、それをまとめてパワーポイント等を用いて発表してもらい、全員で意見交換を行います(第7回～第14回(第11回を除く))。また、質問欄に記載された質問等には次の授業時に回答します。

【到達目標】

- (1) 人間と環境との関わり合いについて理解し、それを他の人に説明できる。
- (2) 持続可能な社会を実現するために、今、私たちが考えなければならないこと、しなければならないことについて、自分なりの見解を持ち、それを他の人に説明することができるとともに実践できる素養を身に付ける。
- (3) 授業は正しい解が教えられるものではなく、考える習慣や感性を身に付けるものであることを理解し、実践する。

【授業計画】

- 第1回 授業のガイダンス(授業の目的・進め方)、環境とは何か?
 - 第2回 社会と環境との関わり、持続可能な社会と環境学、発表テーマと発表方法の説明
 - 第3回 日本の環境問題小史
 - 第4回 大気汚染・水質汚濁問題
 - 第5回 土壌汚染・廃棄物問題、その他の地域環境問題
 - 第7回 地球温暖化・気候変動と私たちの生活(個人発表)
 - 第8回 オゾン層の破壊・酸性雨とその影響(個人発表)
 - 第9回 生物多様性の意義とその保全、水資源問題(個人発表)
 - 第10回 再生可能エネルギー、砂漠化問題、その他の地球環境問題(個人発表)
 - 第11回 環境基本法と環境関連法の概要とこれらの法に込められた環境保全思想
 - 第12回 人口増加と貧困・食糧問題、生活スタイル・社会経済システムと環境との関わり(個人発表)
 - 第13回 持続可能な社会・低炭素社会に向けた環境施策、ゴミの収集とその処分法(個人発表)
 - 第14回 レッドデータブック、森林の保全、地域の環境保全問題(個人発表)
 - 第15回 環境アセスメントの概要、環境倫理・環境教育の必要性
- 定期試験

【授業時間外の学習】

7回目以降(11回目を除く)の授業においては、選択したテーマについて調査・考察したことを発表してもらいますので、その調査・考察、発表準備、発表、ならびに、これらの過程に関するレポート(個人別レポート)の作成が必要です。

【成績の評価】

成績の評価は、発表(個人別レポートを含む)40%、授業への参加状況(出席ではなく意見発表、質問など)20%、試験40%で行います。また、レポート、試験答案等は希望する者には返却します。

【使用テキスト】

田中修三・西浦定継著『基礎から学べる環境学』(共立出版、2013年)、その他必要に応じて資料を配付することがあります。

【参考文献】

- 日本化学会編『環境科学 - 人間と地球の調和をめざして - 』(東京化学同人、2004年)
- 左巻健男・平山明彦・九里徳泰著『地球環境の教科書10講』(東京書籍、2005年)
- 石 弘之著『地球・環境・人間』(岩波科学ライブラリー141、2008年)
- 渡辺信久・岸本直之・石垣智基著『図説わかる環境工学』(学芸出版社、2008年)
- 増田啓子・北川秀樹著『はじめての環境学』(法律文化社、2009年)
- 太田和子・白井宗一・山中冬彦著『イラスト私たちと環境』(東京教学社、2015年)、その他

科目名： ボランティア【保】
担当教員： 池内 裕二(IKEUCHI Yuji)

【授業の紹介】

保育学科では、自主的に一定期間ボランティア活動に参加し、地域社会に貢献した学生に単位を認定します。活動ではコミュニケーション能力を始め、高い倫理観、情報収集・分析力、問題発見・解決力を実地で経験のうえ、学びとることをめざします。なお、ボランティア受け入れ機関との交渉、実施は、学生自身が行います。ボランティア活動中には中間報告が必要です。活動終了後は、活動記録の提出、報告書の作成および報告を行います。

【到達目標】

1. 自ら考え行動できる。
2. 問題を発見し、他者と協力して解決できる。
3. 関わる人々と良好なコミュニケーションが取れる。
4. 高い倫理観と責任感、忍耐力を備え、礼節をわきまえた行動ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 ボランティア活動計画
 - 第3回 ボランティア活動計画書作成
 - 第4回 ボランティア活動
 - 第5回 ボランティア活動
 - 第6回 ボランティア活動
 - 第7回 ボランティア活動
 - 第8回 ボランティア活動
 - 第9回 ボランティア活動
 - 第10回 ボランティア活動
 - 第11回 ボランティア活動
 - 第12回 ボランティア活動
 - 第13回 ボランティア活動
 - 第14回 ボランティア活動
 - 第15回 ボランティア活動 中間報告
 - 第16回 ボランティア活動
 - 第17回 ボランティア活動
 - 第18回 ボランティア活動
 - 第19回 ボランティア活動
 - 第20回 ボランティア活動
 - 第21回 ボランティア活動
 - 第22回 ボランティア活動
 - 第23回 ボランティア活動
 - 第24回 ボランティア活動
 - 第25回 ボランティア活動
 - 第26回 ボランティア活動
 - 第27回 ボランティア活動
 - 第28回 ボランティア活動
 - 第29回 ボランティア活動 報告書作成
 - 第30回 ボランティア活動 報告
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

日々のボランティア活動について振り返り、問題発見、問題解決について考察し記録してください。次のボランティア活動に対する計画を立て、自分に何ができるか十分に考えてください。ボランティア活動で出会った他者と話し合いの時間を設け、様々な考え方、物の見方を学んでください。

【成績の評価】

ボランティア活動（80%）、ボランティア活動報告書（20%）
報告書にコメントをつけて返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

ボランティア先に関する資料を配布する。

【参考文献】

なし

全学共通科目:基礎科目

科目	掲載ページ
日本語表現基礎Ⅰ【保】	13
日本語表現基礎Ⅱ【保】	14
数学基礎	15

科目名： 日本語表現基礎 【保A】
担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

1. 学生が日本語の言語的特質や性格について、理解を深め、社会生活の各種の場や文書作成の際に必要な日本語による実用的表現能力を身につけることをねらいとした授業です。そのため、予習課題として短文を作成したり、毎授業時に保育・教育学関連の語句や漢字のトレーニングを実施します。
2. また、学生が保育者としての豊かな人間性や課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身につけるため、様々な教材を觀賞したり、主体的な読解を発表したりします。

【到達目標】

1. 学生が主体的に取り組み、日本語の言語学的な特質について理解を深め、実用的な表現能力を身につけます。
2. 学生が様々な演習を通じ、豊かな人間性や主体的に鯛的に生きる力を身につけます。
3. さまざまな社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身につけます。

【授業計画】

- 第1回 日本語について
 - 第2回 日本語の文字と表記
 - 第3回 仮名及び仮名遣い
 - 第4回 現代仮名遣い
 - 第5回 現代仮名遣いトレーニング
 - 第6回 日本語の音韻
 - 第7回 日本語の種類
 - 第8回 日本語の文法
 - 第9回 日本語の文法トレーニング
 - 第10回 敬語表現：尊敬語
 - 第11回 敬語表現：尊敬語トレーニング
 - 第12回 敬語表現：謙讓語
 - 第13回 敬語表現：謙讓語トレーニング
 - 第14回 敬語表現：丁寧語
 - 第15回 敬語表現：丁寧語トレーニング
- 定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

○授業の内容に応じた予習プリントを事前に配布します。学生は、毎授業の冒頭に提出しなければなりません。

【成績の評価】

1. 予習課題の提出状況の評価します。
 2. 授業に対する取組み姿勢の評価します。
 3. 期末考査の結果（70%）と1+2（30%）を合わせて総合的に評価します。
- なお、期末試験の結果については、考査終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○教材として、資料プリントを準備し、予習ができるよう、事前に配布します。
なお、毎時、国語辞書を持参すること。

【参考文献】

- 保育所保育指針（平成29年3月厚生労働省告示）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省告示）
- 小学校学習指導要領（平成29年3月文部科学省告示）
- 関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： 日本語表現基礎 【保A】
担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

1. 学生が日本語の言語的特質や性格について、理解を深め、社会生活の各種の場や文書作成の際に必要な日本語による実用的表現能力を身につけることをねらいとした授業です。そのため、予習課題として短文を作成したり、毎授業時に保育・教育学関連の語句や漢字のトレーニングを実施します。
2. また、学生が保育者としての豊かな人間性や課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身につけるため、様々な教材を觀賞したり、主体的な読解を発表したりします。

【到達目標】

1. 学生が主体的に取り組み、日本語の言語学的な特質について理解を深め、実用的な表現能力を身につけます。
2. 学生が様々な演習を通じ、豊かな人間性や主体的に鯛的に生きる力を身につけます。
3. さまざまな社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身につけます。

【授業計画】

- 第1回 漢字の特殊な読み・熟字訓・当て字
- 第2回 漢字の特殊な読み・文脈による読み
- 第3回 間違いやすい語句
- 第4回 間違いやすい重言
- 第5回 間違いやすい慣用句
- 第6回 間違いやすい類似語
- 第7回 間違いやすい外来語
- 第8回 アカデミックワード
- 第9回 アカデミックワードトレーニング
- 第10回 諺の世界
- 第11回 助数詞の使い方
- 第12回 簡潔な表現
- 第13回 故事成語の世界
- 第14回 形容詞の多義性
- 第15回 文章表現トレーニング
定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

○授業の内容に応じた予習プリントを事前に配布します。学生は予習をし、毎授業の冒頭に提出しなければなりません。

【成績の評価】

1. 予習課題の提出状況の評価します。
2. 授業に対する取組み姿勢の評価します。
3. 期末考査の結果(70%)と1+2(30%)を合わせて総合的に評価します。
なお、期末試験の結果については、考査終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○教材として資料プリントを準備し、予習ができるよう事前に配布します。
なお、毎時、国語辞書を持参すること。

【参考文献】

- 保育所保育指針(平成29年3月厚生労働省告示)
- 幼稚園教育要領(平成29年3月文部科学省告示)
- 小学校学習指導要領(平成29年3月文部科学省告示)
- 関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： 数学基礎

担当教員： 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

あなたが考え、あなたが解決する時間です。古くから、数と式と図形は数学の主役です。問題を解決していく中で、古典的課題から現代数学までの様々な発想や方法を学びます。その中で、数学の特徴である考え方から生きる力についても考えていきます。また、数学の基礎である計算力の定着を図るために演習の時間を確保していきます。

【到達目標】

- ・数計算の基礎力を高め、確実な計算力を見につける。
- ・基本的な問題を一つひとつ解決することによって、考える過程の楽しさやその理由が理解できる。
- ・各自の考えた解決策を相互に検討し、自分の解答をみんなに分かるように説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 数計算の約束
 - 第2回 数の大小とものの比較
 - 第3回 位取り記数法
 - 第4回 小数と分数
 - 第5回 文字式
 - 第6回 自然数の話題
 - 第7回 いろいろな方程式
 - 第8回 関数
 - 第9回 関数
 - 第10回 順列と組み合わせ
 - 第11回 確率
 - 第12回 集合
 - 第13回 図形
 - 第14回 図形
 - 第15回 統計
- 定期試験

【授業時間外の学習】

積み重ねのために毎回の復習が必要です。演習プリントを課題として渡しますので、定着を図ってほしい。

【成績の評価】

授業中の活動（10%）、演習（10%）、レポート（10%）、期末試験（70%）

- ・小テストを3回行うことで、個人の内容把握状況を確認し、指導する。
- ・答案用紙にコメントで、今後の対策について書くとともに、正解記入を行い、間違いが分かるように学生に返却する。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

なし

全学共通科目:コミュニケーション科目

科目	掲載ページ
情報機器演習Ⅰ【保】	17
情報機器演習Ⅱ【保】	18
英語Ⅰ【保】	19
英語Ⅱ【保】	20
英語Ⅲ【保】	21
英語Ⅳ【保】	22
ドイツ語Ⅰ【保】	23
ドイツ語Ⅱ【保】	24

科目名： 情報機器演習 【保A】
担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「保育学科のめざす保育者像（教育目標）の具体的到達目標として掲げた保育者としての資質能力（「職業使命感と倫理観」「豊かな人間性」「専門的知識と思考力」「保育実践力」）を身に付けた学生に卒業を認め、・・・の「資質能力」をICTを活用して高める情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことで、特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2013）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2013を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------|--------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、 | Windowsの基本操作と日本語入力 |
| 第2回 | 文書作成（1） | 基本操作と印刷 |
| 第3回 | 文書作成（2） | 表の作成 |
| 第4回 | 文書作成（3） | 書式の設定 |
| 第5回 | 情報と社会（1） | 電子メールによるコミュニケーション |
| 第6回 | 情報と社会（2） | 個人情報保護 |
| 第7回 | 文書作成（4） | 図・画像などの挿入 |
| 第8回 | 文書作成（5） | アウトラインの設定 |
| 第9回 | 文書作成（6） | Webブラウザとの連携 |
| 第10回 | 情報と社会（3） | 情報倫理・情報モラル |
| 第11回 | 情報と社会（4） | 知的財産権 |
| 第12回 | 文書作成（7） | 図の作成と編集 |
| 第13回 | 文書作成（8） | 縦書き、PDF変換 |
| 第14回 | 情報と社会（5） | ネット犯罪 |
| 第15回 | 情報と社会（6） | 未来の情報化社会 |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年）ISBN:9784407332537

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

田中亘，できるシリーズ編集部著『できるWord 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333487

購入義務はありません。

科目名： 情報機器演習 【保A】
担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「保育学科のめざす保育者像（教育目標）の具体的到達目標として掲げた保育者としての資質能力（「職業使命感と倫理観」「豊かな人間性」「専門的知識と思考力」「保育実践力」）を身に付けた学生に卒業を認め、・・・の「資質能力」をICTを活用して高める情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2013）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2013）の機能について学習します。また、前期に学習したワープロ（Microsoft Word 2013）を含めて、ソフトウェア間のデータ関係についても学習します。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2013を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft Excel PowerPointを対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。

【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、表計算（1）	基本操作と印刷
第2回	表計算（2）	表の作成と基本編集
第3回	表計算（3）	表の書式設定と印刷（詳細）
第4回	表計算（4）	数式（1）絶対参照と相対参照、基本関数
第5回	表計算（5）	数式（2）順位取得、条件判断
第6回	表計算（6）	数式（3）表参照によるデータ取得、端数処理
第7回	表計算（7）	数式（4）エラー回避、文字列操作
第8回	表計算（8）	グラフと図形
第9回	表計算（9）	データベース機能
第10回	プレゼンテーション（1）	基本操作と印刷
第11回	プレゼンテーション（2）	図やオブジェクトの挿入
第12回	プレゼンテーション（3）	図の作成と編集
第13回	プレゼンテーション（4）	SmartArt、グラフ、表の挿入
第14回	プレゼンテーション（5）	特殊効果と自動実行
第15回	プレゼンテーション（6）	ソフトウェア間のデータ関係

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年）ISBN:9784407332537

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

小館由典，できるシリーズ編集部著『できるExcel 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333494

井上香緒里，できるシリーズ編集部著『できるPowerPoint 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333593

購入義務はありません。

科目名： 英語 【保A】

担当教員： 上村 秀樹(UEMURA Hideki)

【授業の紹介】

世界中の国々と文化や人物の交流が活発に行われている現代社会においては、多文化・多言語への対応が強く求められています。保育の現場においても、外国人の保護者や園児と接する機会が増えています。また、外国語活動が導入されつつある保育園も見受けられますが、そのような中、様々な状況下において英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と能力を養うことが大切になっています。本講座ではそのような現状を踏まえて、現在、保育園で行われている「新学期」「あそび」「けんか」「おはなし」「お昼寝」といった様々な状況を想定し、即戦力となる英語学習を進めていきます。併せて、公務員試験のための問題演習にも取り組んでいきます。そして、これらの活動を通して、保育士に必要とされる実践的指導力を総合的に養っていきます。

様々な課題が課されるので、受講生は家庭での予習・復習を中心として、継続的な学習が必要とされます。

なお、毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用するので必ず持参してください。

前期に英語・ の両方を履修することは可能ですが、後期に開講される英語 を必ず履修するものとしします。

【到達目標】

1. 保育の現場で外国人の保護者や園児にも対応できる、基礎的な英語力を身に付ける。
2. 園生活の様々な場面で使われる英語に親しむことができる。
3. 園児たちと簡単な英語を使って遊ぶことができる。
4. 保育士に必要とされる実践的指導力を総合的に身に付ける。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	Lesson 1	The School Year Begins
第2回	Lesson 1	The School Year Begins	
第3回	Lesson 2	Arrival	
第4回	Lesson 3	Playtime in the Classroom	
第5回	Lesson 3	Playtime in the Classroom	
第6回	Lesson 4	In the Sandbox	
第7回	Lesson 5	In the Playground	
第8回	Lesson 5	In the Playground	
第9回	Lesson 6	Lunchtime	
第10回	Lesson 7	Changing Clothes and Story Time	
第11回	Lesson 7	Changing Clothes and Story Time	
第12回	Lesson 8	Nap time	
第13回	Lesson 9	Blowing Bubbles	
第14回	Lesson 9	Blowing Bubbles	
第15回	English Song		

定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業の予習・復習を大切にし、英和辞典を使って様々な語彙や表現に慣れ親しみ、繰り返し英文を音読してください。公務員試験問題演習のための予習も必要です。また、英単語テストのための学習、英語の歌の歌唱練習、英文朗読練習なども求められます。

【成績の評価】

英単語テスト(10%)、提出課題(20%)、授業時間外の様々な課題(10%)、授業への取組みの姿勢や意欲(10%)、定期試験(50%)の5点を総合して評価します。授業時間外の様々な課題として、英語による歌唱発表や英文朗読課題などが課されることもあります。小テスト、その他の様々な課題、試験等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。なお、30分以上の遅刻は欠席として、また、遅刻3回で欠席1回として扱います。

【使用テキスト】

森田和子著『新・保育の英語』（三修社）

【参考文献】

なし

科目名： 英語 【保A】

担当教員： 上村 秀樹(UEMURA Hideki)

【授業の紹介】

世界中の国々と文化や人物の交流が活発に行われている現代社会においては、多文化・多言語への対応が強く求められています。保育の現場においても、外国人の保護者や園児と接する機会が増えています。また、外国語活動が導入されつつある保育園も見受けられますが、そのような中、様々な状況下において英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と能力を養うことが大切になっています。本講座ではそのような現状を踏まえて、現在、保育園で行われている「運動会」「散歩」「お絵かき」「工作」「降園」といった様々な状況を想定し、即戦力となる英語学習を進めていきます。併せて、公務員試験のための問題演習にも取り組んでいきます。そして、これらの活動を通して、保育士に必要とされる実践的指導力を総合的に養っていきます。

様々な課題が課されるので、受講生は家庭での予習・復習を中心として、継続的な学習が必要とされます。

なお、毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用するので必ず持参してください。

【到達目標】

1. 保育の現場で外国人の保護者や園児にも対応できる、基礎的な英語力を身に付ける。
2. 園生活の様々な場面で使われる英語に親しむことができる。
3. 園児たちと簡単な英語を使って遊ぶことができる。
4. 保育士に必要とされる実践的指導力を総合的に身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス Lesson 10 A Sick Child
 - 第2回 Lesson 11 Preparation for the Sports Day
 - 第3回 Lesson 12 The Sports Day
 - 第4回 Lesson 13 Going for a Walk
 - 第5回 Lesson 13 Going for a Walk
 - 第6回 Lesson 14 Discovering Autumn
 - 第7回 Lesson 14 Discovering Autumn
 - 第8回 Lesson 15 Drawing & Letter Writing
 - 第9回 Lesson 15 Drawing & Letter Writing
 - 第10回 Lesson 16 A Snowy Day
 - 第11回 Lesson 16 A Snowy Day
 - 第12回 Lesson 17 Leaving for Home
 - 第13回 Lesson 17 Leaving for Home
 - 第14回 Lesson 18 School Diary
 - 第15回 English Song
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業の予習・復習を大切に、英和辞典を使って様々な語彙や表現に慣れ親しみ、繰り返し英文を音読してください。公務員試験問題演習のための予習も必要です。また、英単語テストのための学習、英語の歌の歌唱練習、英文朗読練習なども求められます。

【成績の評価】

英単語テスト(10%)、提出課題(20%)、授業時間外の様々な課題(10%)、授業への取組みの姿勢や意欲(10%)、定期試験(50%)の5点を総合して評価します。授業時間外の様々な課題として、英語による歌唱発表や英文朗読課題などが課されることもあります。小テスト、その他の様々な課題、試験等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。なお、30分以上の遅刻は欠席として、また、遅刻3回で欠席1回として扱います。

【使用テキスト】

森田和子著『新・保育の英語』（三修社）

【参考文献】

なし

科目名： 英語 【保】

担当教員： 井上 浩巳(INOUE Hiromi)

【授業の紹介】

本講義は、海外旅行や留学の準備に役立つよう、海外旅行やホームステイに特化したテーマを扱い、様々な場面や困難を乗り越えるアクティビティを通して、コミュニケーション能力を高めます。特にリスニングとスピーキングに焦点をあて、授業はすべて平易な英語で行います。受講生もできる限り英語で受け答えることで、簡単な指示を理解したり、自分の考えを表現したりできることを目指しています。

さらに、授業では他の国の文化についても学ぶ機会が多く、異文化理解への関心を高めることにつながります。

【到達目標】

- ・ 英語を用いて、積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・ 身近なことについて英語で伝えることができる。
- ・ 海外旅行で必要とされる有用性の高い表現を習得し、実際に活用することができる。
- ・ 外国に興味を持ち、異文化への理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 My Suitcase Is Overweight
 - 第3回 I'm Suffering from Jet Lag
 - 第4回 Each Host Family Is Different
 - 第5回 I'm Experiencing Culture Shock
 - 第6回 My Dormitory Is too Noisy
 - 第7回 How Can I Make Friends?
 - 第8回 Review of Units 1-6
 - 第9回 What Should I Talk About?
 - 第10回 I Feel Homesick
 - 第11回 How Do I Order Food?
 - 第12回 I Lost My Passport
 - 第13回 I Need to Go to Hospital
 - 第14回 I Don't Want to Leave
 - 第15回 Review of Units 7-12
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として毎時間、次の2つの課題を課します。課題の方法や詳細については、授業中に説明します。

スピーキングテストに向けたトレーニング

各ユニットで役立つ情報の収集

【成績の評価】

「授業時間外の課題」「授業への取り組み」「定期試験」の3点を総合して評価します。なお、各評価項目の詳細や配点については、第1回のオリエンテーション時に説明します。

【使用テキスト】

Simon Cookson & Chihiro Tajima.(2016). Communicate Abroad. Cengage Learning.

【参考文献】

授業中にその都度紹介します。
英和辞典か英英辞典を持参してください。

科目名： 英語 【保】

担当教員： 井上 浩巳(INOUE Hiromi)

【授業の紹介】

本講義は、スピーキングとライティング能力の育成に重点を置いています。授業はすべて平易な英語で行い、受講生もできる限り英語で受け答えすることで、簡単な指示を理解したり、自分の考えを表現したりできることを目指しています。

ライティングに関しては、テキストに沿ってEメールや手紙、招待状といった様々な種類の文書の書き方を学習します。毎時間1ユニットずつ進め、各ユニットで必要とされる表現を習得し、アクティビティへと発展させていきます。

【到達目標】

- ・英語を用いて、積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・身近なことについて英語で伝えることができる。
- ・辞書等のツールを用いて、適切さと正確さに配慮しながら英文を書くことができる。
- ・モデルとして提示されたセンテンスを利用して、自分の文を生成することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 Thinking about writing
 - 第3回 Introducing
 - 第4回 Completing forms
 - 第5回 Thanking
 - 第6回 Requesting information
 - 第7回 Midterm Task
 - 第8回 Midterm Task follow-up
 - 第9回 Getting details
 - 第10回 Inviting and arranging to meet
 - 第11回 Making Christmas Cards
 - 第12回 Making and changing arrangements
 - 第13回 Giving instructions
 - 第14回 Dealing with problems
 - 第15回 Final Task and follow-up
- 定期試験

【授業時間外の学習】

各ユニットの内容に沿ったライティング課題を毎時間課します。課題の方法や詳細については、授業中に説明します。

【成績の評価】

「授業時間外の課題」「授業への取り組み」「定期試験」の3点を総合して評価します。なお、各評価項目の詳細や配点については、第1回のオリエンテーション時に説明します。

【使用テキスト】

Barnard, R., & Zemach, D.(2005). Writing for the Real World 1. Oxford University Press.

【参考文献】

授業中にその都度紹介します。
英和辞典か英英辞典を持参してください。

科目名： ドイツ語 【保】

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

【授業の紹介】

初めてドイツ語を学ぶにあたって、興味をもってもらえるよう、おもしろく、そしてゆっくりと授業を進めます。ネイティブの話す正しいドイツ語の発音に触れることもできます。授業では、初級的な教材を用い、主に口答練習によって実際に使えるドイツ語を習得していきます。また、対話練習を繰り返すことでドイツ語が口をついて出てきやすくなり、恐れずドイツ語を話せるようになるでしょう。

この講義では、高松短期大学保育学科の「学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)として、「豊かな人間性」を身に付けることをめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なドイツ語能力が身につける。

【授業計画】

- 第1回 発音練習(<名前、住所、歳、職業?>を話題した会話文)
 - 第2回 発音(アルファベット)、数字(1~20)
 - 第3回 簡単なあいさつ、キー・センテンス(第1課)、対話練習
 - 第4回 文法の説明、練習問題
 - 第5回 会話文<お名前は?>、練習問題、単語テスト
 - 第6回 キー・センテンス(第2課)、対話練習
 - 第7回 文法の説明、練習問題
 - 第8回 会話文<どこから来ましたか?>、練習問題、単語テスト
 - 第9回 キー・センテンス(第3課)、対話練習
 - 第10回 文法の説明、練習問題
 - 第11回 会話文<パーティーにて>、職業・国籍、練習問題、単語テスト
 - 第12回 キー・センテンス(第4課)、対話練習
 - 第13回 文法の説明、練習問題
 - 第14回 会話文<学生食堂にて>、練習問題、総まとめ
 - 第15回 試験対策
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

授業中	20%
学期末記述試験	80%

総合合格点は60点以上です。
書き込み式教科書、ノート等について添削している。

【使用テキスト】

大黒びるぎった・日野安昭・佐藤万代著『ともかく話そうドイツ語』(郁文堂)

【参考文献】

特になし

科目名： ドイツ語 【保】

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

【授業の紹介】

ドイツ語に興味をもってもらえるよう、おもしろく、そしてゆっくりと授業を進めます。ネイティブの話す正しいドイツ語の発音に触れることもできます。授業では引き続き、初級的な教材を用い、主に口答練習によって実際に使えるドイツ語を習得していきます。また、対話練習を繰り返すことでドイツ語が口について出てきやすくなり、恐れずドイツ語を話せるようになるでしょう。

この講義では、高松短期大学秘書科の「学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)として、コミュニケーション能力の養成を掲げ、また社会人としての幅広い教養や豊かな人間性を身に付けることをめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なドイツ語能力が身につける。

【授業計画】

- 第1回 キー・センテンス(第5課)、対話練習
 - 第2回 文法の説明、練習問題
 - 第3回 会話文<電車の中で?>、練習問題
 - 第4回 会話文についての質問に答える、時を表す表現
 - 第5回 数字(20~100)、単語テスト
 - 第6回 キー・センテンス(第6課)、対話練習
 - 第7回 文法の説明、練習問題
 - 第8回 ナレーション調のテキストを読む
 - 第9回 作文を書く
 - 第10回 練習問題、単語テスト
 - 第11回 キー・センテンス(第7課)、対話練習
 - 第12回 文法の説明、練習問題
 - 第13回 会話文<彼は車を持っている。>、練習問題
 - 第14回 会話文についての質問に答える、練習問題、総まとめ
 - 第15回 試験対策
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。 20%
学期末記述試験 80%

総合合格点は60点以上です。
書き込み式教科書、ノート等について添削している。

【使用テキスト】

大黒びるぎった・日野安昭・佐藤万代著『ともかく話そうドイツ語』(郁文堂)

【参考文献】

特になし

全学共通科目：健康とスポーツ科目

科目	掲載ページ
健康スポーツ論	26
スポーツ実習	27

科目名： 健康スポーツ論【保】

担当教員： 宮本 賢作(MIYAMOTO Kensaku)

【授業の紹介】

成長期から成人期に移行するこの時期に、正しいヘルスリテラシーを身につけるとともに、今後起こりうる健康問題について理解することで、その予防としての運動、食事、休養の重要性と、それをサポートする社会的なシステムについて理解する。またこれらを主体的かつ科学的に捉え、行動変容を意識した実践力と、その基盤となるエビデンスに基づいた健康づくりについて考察する。

【到達目標】

健康な生活を営む上で必要な基礎知識の理解を深める。
ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・健康（及び疾病）の概念とヘルスプロモーション
 - 第2回 健康を取り巻く環境についての理解
 - 第3回 健康情報とヘルスリテラシー
 - 第4回 幼少期～成長期の健康問題
 - 第5回 成人期～高齢期の健康問題
 - 第6回 死生観と生命倫理
 - 第7回 健康と運動・労働
 - 第8回 健康と食事・栄養
 - 第9回 健康と休養・睡眠
 - 第10回 喫煙，飲酒，薬物乱用，メディアリテラシーと健康
 - 第11回 運動の科学と健康
 - 第12回 体力の評価と分析
 - 第13回 エビデンスに基づいた医療と健康づくり
 - 第14回 持続可能な健康づくり
 - 第15回 まとめ（生涯にわたる健康増進とスポーツライフの継続を目指して）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート・出席確認のためのミニテスト（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

授業中に適宜資料を配付する。

科目名： スポーツ実習【保A】

担当教員： 池内 裕二(IKEUCHI Yuji)

【授業の紹介】

健康で毎日を過ごすためには運動、栄養、休養のバランスが大切である。学校体育（スポーツ）として、おこなわれてきた、テニス、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球等を、仲間と協力して、また、個人として楽しむ為の授業である。。また、インディアカ、ソフトバレー、キンボールなど生涯体育スポーツにつながるニュースポーツやあそびを行うことで、将来にわたって、運動を日常生活に取り入れることを構想できるようにするための授業である。

【到達目標】

スポーツに関する知識を深めるとともに技能を高め、スポーツの楽しさや喜びを深く味わうことができる。

自己の状況に応じて体力の向上を図ることができる。

公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって健康の維持増進のために豊かなスポーツライフを自律的に構想できる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 テニス・ソフトボール
第3回 テニス・ソフトボール
第4回 テニス・ソフトボール
第5回 バレーボール・バドミントン・卓球
第6回 バレーボール・バドミントン・卓球
第7回 バレーボール・バドミントン・卓球
第8回 バレーボール・バドミントン・卓球
第9回 バスケットボール・ニュースポーツ
第10回 バスケットボール・ニュースポーツ
第11回 バスケットボール・ニュースポーツ
第12回 昔あそび
第13回 フットサル・ニュースポーツ
第14回 フットサル・ニュースポーツ
第15回 フットサル・ニュースポーツ
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

スポーツ中継や新聞等を見て、興味関心を持ち、ルールを覚える。地域で開催されるスポーツレクの大会等に積極的に参加してみる。

【成績の評価】

取り組む態度20%、 技能50%、 レポート30%の総合評価

单元ごとにレポートを提出し、教員がコメントをつけて返却することでフィードバックする。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

なし

専門科目：保育・教育の本質と目的の理解

科目	掲載ページ
教師論	29
教育学原論	30
教育制度論	31
保育原理Ⅰ	32
保育原理Ⅱ	33
社会福祉	34
相談援助	35
保育相談支援	36
児童家庭福祉	37
社会的養護	38
保育環境論	39
幼保専門教養発展講義	40
幼保専門教養発展演習	41

科目名： 教師論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

あなた方が保育学科を受験したときに、面接で「どのような先生になりたいですか？」と質問された人はたくさんいますね。聞かれなくても、面接対策で自分なりの答えを用意したはずですが。その時に抱いていた先生のイメージは、今と同じでしょうか？それとも大きく変わったでしょうか？

本学で保育者になるために勉強してきたみなさんが、「子どもに対して責任をもてる保育者とはどうあるべきなのか」という間に自分なりの答えができるとともに、保育者としての自分の成長課題を発見できる授業を目指したいと思います。

この科目は、学修を通じて、学科のポリシーに掲げる、保育士及び幼稚園教諭をはじめ、広く子育て支援に資する人材に重要となる職業使命感と倫理観の涵養を目指します。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが学科のめざす保育者像に近づくことをめざします

- ・保育者の使命感・倫理観ならびに保育職の専門性を体系的に理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
- ・専門職保育者の在り方に関する継続的学習を通して人間性を育むことができる。
- ・保育者像ならびに保育職に関する専門的基礎知識や判断力を習得することができる。
- ・保育者として責任ある保育実践を成し得るための基礎を培うことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育者の存在と姿
- 第3回 保育学生の在り方を見直そう！
- 第4回 保育研究の意義
- 第5回 子どもが育つ環境の理解
- 第6回 子どもの「発達」を考える
- 第7回 遊びの中での保育者の役割
- 第8回 遊びを育む環境構成
- 第9回 少子化問題と保育者
- 第10回 子育て支援
- 第11回 保護者との連携
- 第12回 地域における子育て支援
- 第13回 組織人としての保育者の在り方
- 第14回 伝統的に求められる保育者の専門性
- 第15回 これからの時代に求められる保育者の専門性
期末試験

【授業時間外の学習】

各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

授業終了時のミニレポート(約3割)、レポート(約2割)及び試験(約5割)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

内閣府・文部科学省・厚生労働省「認定こども園保育・教育要領解説」2018.2.(予定)

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： 教育学原論

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本授業科目は、「教育」について考える授業です。教育に関する基礎知識を学習すると同時に、教育について、歴史を遡ったり、有名な教育学者の考えを学んだり、あるいは現実の事例について様々な立場から考えることを通して、皆さんが当たり前だと思っている「教育」や「保育」のイメージを相対化し、より良い教育・保育を考えていける思考力を涵養することを旨とします。

本科目は、卒業必修科目であると同時に、幼稚園教諭二種免許状、そして保育士資格取得のための必修科目です。当科目の単位を修得していることが、1年次後期の「保育実習」「観察参加」を履修するための条件になります。

【到達目標】

1. 教育の原理や教師のあり方についての考えることを通して、保育者として持つべき使命感・倫理観について考え、保育者を目指す者として、今の自分に欠けている事柄を自覚することができる。
2. 教育学的問いを追究し、様々な教育思想を理解することを通して、自分自身が当たり前のものとして抱えている教育・保育のイメージを再考し、教育・保育について多角的に考えることができるようになる。
3. 教育に関する諸概念や知識を習得する。
4. 教育について理論的に理解することを通して、より良い教育・保育実践を行うために必要な着眼点や思考法を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション + 教育の原風景
 - 第2回 教育は何のために必要なのか
 - 第3回 社会・国家は教育に何を求めているのか
 - 第4回 子どもとはどのような存在か
 - 第5回 なぜ公教育が必要なのか
 - 第6回 良い教師とはどのような存在か
 - 第7回 学校教育の歴史と原理
 - 第8回 学校教育と教育内容
 - 第9回 家庭教育の歴史と原理
 - 第10回 成人教育・社会教育の歴史と原理
 - 第11回 コメニウスの教育思想
 - 第12回 ルソー、ペスタロッチーの教育思想
 - 第13回 ヘルバルトの教育思想
 - 第14回 デューイの教育思想
 - 第15回 現代の教育思想
- 定期試験

【授業時間外の学習】

ほとんどの授業で、当日授業内容に関する予習確認テストと、前回の授業内容に関する復習確認テストを行ないます。次回授業する内容の箇所を事前に読んでおくと同時に、前回の授業内容に関する復習をしておくことを求めます。

【成績の評価】

毎回の授業で実施する小テスト(30%)、中間レポート(20%)、定期試験(50%)

小テストの解説は、各授業内で行います。レポートと試験については成績判定後にフィードバックを行います。

【使用テキスト】

勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015年。

【参考文献】

平成29年3月告示 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名： 教育制度論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが。また、制度や法規に関連することは難しいのでできれば避けて通りたい…と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

この科目は、保育学科の学位授与方針にある、幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたる人材に求められる資質を形成するための理論的科目として位置づけられます。

【到達目標】

・教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成する。

・教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション&教育制度を学ぶことの意味

第2回 教育法規の理論と体系

第3回 我が国の教育行政制度

第4回 我が国の教育行政の組織と機能

第5回 学校制度の歴史的発展過程（外国編）

第6回 学校制度の歴史的発展過程（日本編）

第7回 学校教育の法制

第8回 学校の制度と経営

第9回 教育課程の制度

第10回 教育の権利と義務

第11回 教職員の権利と義務

第12回 教職員の身分保障法制と研修

第13回 教育財政の法制

第14回 幼児・児童の管理

第15回 特別支援教育

定期試験

【授業時間外の学習】

各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

出席カードへのコメント(約3割)、レポート(約2割)及び試験(約5割)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』福村出版 2017年

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」2017

文部科学省「小学校学習指導要領」2017

その他、授業時に、適宜、紹介します。

科目名： 保育原理

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本科目では、保育に関する知識や心構えを習得する第一歩として、我が国の保育制度、保育の歴史や保育をめぐる思想について学習します。これらの事項の学習を通して、保育士に必要な基礎知識を習得しつつ、良い保育について考えるための思考力を養うことを目指します。

なお、本科目は卒業必修科目であり、かつ、保育士資格取得のための必修科目です。

【到達目標】

1. 保育の制度・思想・歴史などの基本的事項の学習を通して、保育者として持つべき使命感・倫理観について考え、保育者を目指す者として、今の自分に欠けている事柄を自覚することができる。
2. 保育の意義や目的、保育者に求められる資質能力について学習したことをもとに、自分自身が当たり前のものとして抱えている保育のイメージを再考し、保育について多角的に考えることができる。
3. 保育の制度・思想・歴史に関する専門的知識を習得する。また、より良い保育を考えるための「考え方」を身につけることができる。
4. 豊かな保育実践を展開するための基礎として、保育を支える原理や基礎理論を理解し、より良い保育実践を行うために必要な着眼点や思考法を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 本授業の目的・ルール・評価方法など + 保育の理念と概念
- 第2回 保育の社会的役割と責任
- 第3回 保育の制度
- 第4回 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- 第5回 発達過程と保育（1）3歳未満児
- 第6回 発達過程と保育（2）3歳以上児
- 第7回 子育てをめぐる問題と子育て支援
- 第8回 保育の目標・方法・内容
- 第9回 指導計画とカリキュラムのマネジメント
- 第10回 欧米の保育の思想・歴史
- 第11回 日本の保育の思想・歴史（1）大正期まで
- 第12回 日本の保育の思想・歴史（2）昭和期以降
- 第13回 諸外国の保育
- 第14回 保育の現代的課題
- 第15回 保育者の専門性
定期試験

【授業時間外の学習】

ほとんどの授業で、当日授業内容に関する予習確認テストと、前回の授業内容に関する復習確認テストを行います。次回授業する内容の箇所を事前に読んでおくと同時に、前回の授業内容に関する復習をしておくことを求めます。

【成績の評価】

小テストの成績（30%）、レポート（20%）、期末試験（50%）

小テストの解説は、各授業内で行います。レポートと試験については成績判定後にフィードバックを行います。

【使用テキスト】

天野珠路、北野幸子編『基本保育シリーズ1 保育原理 第2版』中央法規出版社、2017年。

【参考文献】

平成29年3月告示 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名： 保育原理

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本科目は、保育原理 を履修し、単位認定されている学生を対象としています。保育原理 で学習した事項を振り返りつつ、保育の重要概念に焦点を当てて探究することで、保育に対する理解を理論的に深めていきます。授業では、概念についての講義、課題文章について授業時間外で書いたエッセーの振り返り、そして特定テーマについてのディスカッションを行います。最終的に、受講生はそれぞれ自分なりの保育理念を執筆していきます。

なお、授業内容について、以下の授業計画で挙げたものを基本としますが、受講生の関心や卒業研究のテーマに応じて、柔軟に設計します。

【到達目標】

1. 保育に関わる概念について考察することを通して、保育実践の奥深さを知ると同時に、保育者として持つべき使命感・倫理観について考えを深めることができる。
2. ディスカッションにおいて、他者を尊重することができる。また、他者が持っている様々な意見や物の見方を知ることによって、自分自身の保育理念について考えることができる。
3. 保育に関わる概念について理論的に理解し、保育実践について多角的に考えることができる。
4. 保育実践を行うにあたっての、自分なりの保育理念を持つことができる。

【授業計画】

- 第1回 本授業の進め方を理解する、保育という概念(1)なぜ概念にこだわるのか
- 第2回 保育という概念(2)「保育」と「教育」「養護」
- 第3回 「遊び」をめぐる議論から保育を再考する。
- 第4回 「遊び」について書いたエッセーをレビューする。
- 第5回 「遊び」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。
- 第6回 「メディア」をめぐる議論から保育を再考する。
- 第7回 「メディア」について書いたエッセーをレビューする。
- 第8回 「メディア」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。
- 第9回 「物語」をめぐる議論から保育を再考する。
- 第10回 「物語」について書いたエッセーをレビューする。
- 第11回 「物語」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。
- 第12回 「理論と実践」をめぐる議論から保育を再考する。
- 第13回 「理論と実践」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。
- 第14回 これまでの授業をまとめ、自らの保育理念を考える。
- 第15回 フィードバックを踏まえて、自らの保育理念を深める。
定期試験は行いません。

【授業時間外の学習】

課題文章を指定した場合は、授業が始まる前までにそれを読んでおくこと。またエッセーや保育理念の執筆を数回求めるので、授業時間外を使って執筆すること。

【成績の評価】

課題エッセーの完成度(30%)、授業への参加度(30%)、最終レポート(40%)

すべての課題エッセーと最終レポートを提出していることが、評価の条件です。エッセーと最終レポートへのフィードバックは、各授業内で行います。

なお、「授業への参加度」とは、出席数のことではなく、授業に出席した上で、授業内活動にどれだけ参加し、貢献しているかを教員が判断し、評価したものです。

【使用テキスト】

テキストは指定しません。資料は適宜配布します。

【参考文献】

- ・日本保育学会編『保育学講座1 保育学とは 問いと成り立ち』東京大学出版会、2016年。
- ・小笠原道雄編『教育的思考の作法3 進化する子ども学』福村出版、2009年。

科目名： 社会福祉

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

社会福祉の基本「福祉とは何か」を共に考えていく。社会福祉の考え方や、社会福祉を取り巻く現状を理解したうえで、社会福祉全般に関する理解を深め、「専門的知識と思考力」「多様な専門家との協力・協働」「豊かな人間性」や専門職が順守すべき「倫理（望ましい態度）」などを身に付け、社会に貢献できることを目指す。

【到達目標】

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解できる。
2. 社会福祉と家庭福祉との関連性について理解できる。
3. 社会福祉の制度や実施体制について理解できる。
4. 社会福祉における相談援助や利用者保護にかかわる仕組みについて説明できる。
5. 社会福祉の動向や課題について説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 社会福祉の理念と概念
 - 第3回 社会福祉の歴史の変遷 - イギリス、アメリカ、スウェーデン
 - 第4回 社会福祉の歴史の変遷 - 日本
 - 第5回 現代社会と社会福祉 - 少子高齢化・ライフスタイルの変化等
 - 第6回 現代社会と社会福祉 - 家庭や地域社会の変容
 - 第7回 現代社会と社会福祉 - 貧困問題
 - 第8回 社会福祉の制度と法体系
 - 第9回 障害者福祉 - 基礎概念、動向、施策等
 - 第10回 高齢者福祉 - 理念、社会政策等
 - 第11回 社会福祉における援助技術 - 相談援助の意義と方法
 - 第12回 社会福祉における援助技術 - ソーシャルワーク、グループワーク等
 - 第13回 利用者保護に関する仕組み - 第三者評価、苦情解決等
 - 第14回 現代の福祉問題 - 障害者虐待、高齢者虐待、引きこもり等
 - 第15回 社会福祉の動向と課題 - 在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の動向等
- 定期試験

【授業時間外の学習】

定期的に、テーマに関するショートレポートを求める。

【成績の評価】

期末テスト（50％）ショートレポート（50％）

ショートレポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメ又はスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 平岡公一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人『社会福祉学』（有斐閣、2011年）
- 橋本好一・宮田徹（編著）『保育と社会福祉』（みらい、2014年）
- 小林育子・一瀬早百合（共著）『社会福祉と私たちの生活』（萌文書林、2016年）
- 小村昇・日開野博・山下政國（編著）『社会福祉概論』（中央法規 2013年）
- 稲沢公一・岩崎晋也（著）『社会福祉をつかむ』（有斐閣 2012年）
- 直島正樹・原田旬哉（編著）『社会福祉』（萌文書林 2015年）
- 吉田眞理（著）『社会福祉』（青鞥社 2014年）

科目名： 相談援助

担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

相談援助は、生活上のさまざまな困難や課題を抱える人々の相談に応じ、助言や関係機関への連絡、環境調整等の援助を行うことです。昨今は子どもを取り巻く問題が多岐に渡り、保育者にも保育領域におけるソーシャルワーク的機能を果たすことが求められています。

この授業では、相談援助に必要な態度・知識・技術を習得し、保育者の「子どもの保育」と「保護者への支援」の役割を果たす資質能力を高め、人々のウェルビーイング（よりよい生活と自己実現）の増進とエンパワメント（自助努力の獲得）を促すことができる保育者を目指します。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

- ・保育者が相談援助を行う意義を理解し、保育職の使命感や倫理観を高めることができる
- ・主として相談援助に関する継続的学習を通して献身的な人間性を育むことができる
- ・主として相談援助に関する専門的知識を身につけ、子どもの最善の利益を守り抜く思考力を深めることができる
- ・相談援助者（ソーシャルワーカー）としての保育実践の基礎を培うことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 相談援助の理論・機能
 - 第3回 相談援助とソーシャルワーク
 - 第4回 相談援助の対象
 - 第5回 相談援助の展開過程（計画・記録・評価）
 - 第6回 関係機関・専門職との連携
 - 第7回 社会資源の活用・調整・開発
 - 第8回 相談援助のための基本的技術
 - 第9回 相談援助のための実践アプローチ
 - 第10回 個別援助技術（ケースワーク）
 - 第11回 集団援助技術（グループワーク）
 - 第12回 地域援助技術（コミュニティワーク）
 - 第13回 事例分析 - 貧困
 - 第14回 事例分析 - 児童虐待
 - 第15回 事例分析 - 障害児保育
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業プリントに板書をまとめ、すべて保管しましょう。

また、必要に応じて復習・予習課題に取り組みましょう。

【成績の評価】

成績は授業への出席時に提出される学習シートの内容（10%）と期末試験の結果（90%）で評価します。学習シートは毎回点検し、コメント等を寄せて返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

笠師千恵・小橋明子『相談援助・保育相談支援』（中山書店、2014年）

【参考文献】

杉本敏夫・豊田志保編著『相談援助論』（保育出版社、2011年）

吉田眞理 著『生活事例からはじめる相談援助』（青踏社、2011年）

久保美紀・林 浩康・湯浅典人 著『相談援助』（ミネルヴァ書房、2013年）

科目名： 保育相談支援

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

【授業の紹介】

児童福祉法第18条の4に基づいた国家資格としての保育士には、子どもの保育と保護者に対する保育に関する指導も業務として要請される。保育相談支援の授業は、保育に関する専門的知識・技術や倫理・価値観等子どもの保育に関しての専門性に基礎をおいた保育士の保護者支援について学ぶものであり、保育所保育指針第6章保護者に対する支援について、理論的に実践的に検討する。演習やグループでワークショップをしながら、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を養い、保育相談支援の知識と技術を身に付けていただきたい。

【到達目標】

1. 保育相談支援の意義と原則についての理解を通して、保育者の使命感や倫理観を確かなものにできる。
2. 保護者支援の基本を理解することにより、保護者に寄り添うことができる豊かな人間性をめざす。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を習得し、保育士の専門的な知識に基づいた判断ができる。
4. 保護者支援の実際について理解し、保育所等の福祉施設や地域の機関との連携がとれるようになる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	保育相談支援とは	保護者に行うべき支援とは？
第2回	保育相談支援の意義		
第3回	保育相談支援の基本	子どもの最善の利益	
第4回	保育相談支援の基本	保育所の特性を生かした支援	
第5回	保育相談支援の基本	相談の対応 聴き方について考える	
第6回	保育相談支援の基本	地域の関係機関との連携・協力	
第7回	保育相談支援の実際	保育所保育指針第6章から考える	
第8回	保育相談支援の実際	保護者支援の内容	
第9回	保育相談支援の実際	事例 保護者の立場になって考えよう	
第10回	保育相談支援の実際	子どもの育ちを伝える	
第11回	保育相談支援の実際	子どもの育ちを伝える 連絡帳のかき方	
第12回	保育相談支援の実際	連絡帳のかき方 ワークショップ	
第13回	各実施機関における	保育の相談援助・支援の実際	
第14回	児童福祉施設における	保育相談支援	
第15回	保育士に求められる	保育相談支援のまとめ	学びの振り返りと質疑応答

定期試験

【授業時間外の学習】

関連するトピックについて教科書を予めよく読んでおいてください。また、配布される資料を整理して学習してください。

補講1回実施

【成績の評価】

授業中の態度（10%）、毎回の学習シートの記入内容（30%）、提出物（10%）、定期試験（50%）により、評価します。ワークショップ・発表などの協力姿勢や発言の仕方などは、授業態度（10%）に含みます。また、レポートは、内容、字数、提出日、体裁等を評価します。

期末試験の結果については、オフィスアワー時に解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

笠師千恵・小橋明子著『相談支援、保育相談支援』（中山書店、2014年）

【参考文献】

伊藤嘉余子著『子どもと社会の未来を拓く保育相談支援』（青踏社、2013年）

柏女霊峰監修・編著『保護者支援スキルアップ講座 保育者の専門性を生かした保護者支援 保育相談支援、保育指導の実際』（ひかりのくに株式会社、2011年）

岩間伸之著『対人援助のための相談面接技術』（中央法規、2013年）

科目名： 児童家庭福祉

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

児童家庭福祉は、児童福祉の増進とともに、「子どものより良き適応を援助する」だけでなく、児童の家庭を含めて支援する体制や仕組みが必要となっている。また、現代社会における子ども・家庭問題は、少子化の中で、児童虐待をはじめ、危機的状況に立たされている。このような時、子ども家庭福祉の専門職として、「職業使命感と倫理観」「専門的知識と思考力・判断力」や「豊かな人間性」などを身に付け、子どもや保護者に温かく適切に対応できるようになることを目指す。

【到達目標】

1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解できる。
2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について説明できる。
3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。
4. 児童家庭福祉の現状と課題について説明できる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	子ども家庭福祉の理念・概念	
第3回	子ども家庭福祉の歴史	- イギリス、アメリカ
第4回	子ども家庭福祉の歴史	- 日本
第5回	現代社会と子ども・家庭	- 少子高齢化社会と次世代育成支援
第6回	現代社会と子ども・家庭	- 子どもの育ち、子育て、ひとり親家庭
第7回	現代社会と子ども・家庭	- 虐待
第8回	現代社会と子ども・家庭	- 不登校、引きこもり
第9回	子ども家庭福祉にかかわる法体系	
第10回	子ども家庭福祉の機関と施設	
第11回	子ども家庭福祉のサービスの現状	- 母子保健、児童健全育成、保育
第12回	子ども家庭福祉のサービスの現状	- 発達障害
第13回	子ども家庭福祉のサービスの現状	- 反社会的行動
第14回	子ども家庭福祉のサービスの現状	- 相談援助活動
第15回	児童家庭福祉の専門職	児童指導員、ファミリー・ソーシャルワーカー等

定期試験

【授業時間外の学習】

定期的に、テーマに関するショートレポートを求める。

【成績の評価】

期末テスト(50%)、ショートレポート(50%)
ショートレポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメやスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 吉田眞理著『児童家庭福祉』（青鞥社、2014年）
吉田眞理著『児童家庭福祉』（萌文書林、2016年）
松本園子、堀口美智子、森和子著『子どもと家庭の福祉を学ぶ』（みなみ書房、2017年）
佐々木政人、澁谷昌史編著『子ども家庭福祉』（光生館、2011年）
新・社会福祉士養成講座「児童福祉論」（中央法規出版株式会社 2010年）

科目名： 社会的養護

担当教員： 植村 倫子(UEMURA Michiko)

【授業の紹介】

近年多様かつ複雑な家庭環境の増加及び社会全体における家庭の子育ての潜在力が小さくなり、社会的養護を必要とする子どもが増加しています。

本講義では、社会的養護を要する子どもの現状と課題及び施設養護の現状について学び、児童福祉施設の援助者としての基礎知識、技術、倫理観、特に福祉に関わる「思考力・判断力」や「保育実践力」を修得します。

【到達目標】

- ・社会的養護の歴史的返還のなかで重要な人物・施設を記述できる。
- ・社会的養護の基本原則を理解し、その内容を説明できる。
- ・施設養護や家庭養護に関する基本的な知識を身につけ、必要な用語について説明できる。
- ・社会的養護の現状と課題について考えを述べることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 社会的養護の歴史的変換
 - 第3回 児童の権利擁護と社会的養護
 - 第4回 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
 - 第5回 施設養護における養育
 - 第6回 児童相談所の役割と連携
 - 第7回 家庭からの保護
 - 第8回 虐待された子どもの理解と対応
 - 第9回 虐待された子どもの理解と対応 ・施設見学等
 - 第10回 社会的養護の制度と実施体系
 - 第11回 児童福祉施設援助者の資質
 - 第12回 施設養護の現状（乳児院・養護施設）
 - 第13回 施設養護の現状（障害児入所施設）
 - 第14回 家庭養護の実際
 - 第15回 社会的養護の現状と課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

次回の授業内容のテキスト範囲を読んでくることを求めます。

【成績の評価】

・レポート30%（授業時添削して返却します）、筆記試験70%（模範解答は教務課にて閲覧することでフィードバックします）、によって評価します。

【使用テキスト】

児童の福祉を支える社会的養護＜第3版＞ 吉田眞里編著 萌林書林 2,160円

【参考文献】

なし

科目名： 保育環境論

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

この科目は、1年次に履修した「保育の本質および目的の理解」に関する科目を発展的・応用的に学ぶ科目です。毎回、多彩な視点から保育の理解を深めていきます。たとえば、みなさんは保育者という視点で子どもや保育について考えますが、保育者ではないヒトは、子どもや保育、そして保育者をどのように見ているのでしょうか？このように、より客観的な立場から保育をとりまく「環境（人的、物的、自然や社会）」を理解しつつ、子どもの育ちを促す「環境」について深く考え（テキスト・資料等の精読+討議）ていきます。

【到達目標】

- ・ 保育や教育の思想的実践的原理の観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる
- ・ 保育や教育を支える基礎理論（保育の原理）に関する継続的学習を通して人間性を育むことができる
- ・ 保育や教育の原理に関する専門的知識や判断力を習得することができる
- ・ 保育や教育を支える基礎理論の習得により豊かな保育実践の基礎を培うことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 保育の環境を考えると何か？
 - 第2回 「保育の環境を考える」という捉え方の理解
 - 第3回 「保育の環境」を通して浮かび上がる問題の理解
 - 第4回 結婚と家族形成からみた保育の問題の理解
 - 第5回 結婚と家族形成からみた保育の問題をめぐる討議
 - 第6回 子育てからみた保育の問題の理解
 - 第7回 子育てからみた保育の問題をめぐる討議
 - 第8回 保育政策からみた保育の問題の理解
 - 第9回 保育政策からみた保育の問題をめぐる討議
 - 第10回 現代的な社会問題と保育との関連
 - 第11回 子どもの育ちを支える環境(構成)の意義理解
 - 第12回 子どもの育ちを支える環境の諸問題の理解
 - 第13回 子どもの育ちを支える環境の諸問題をめぐる討議
 - 第14回 子どもの育ちのためのよりよい環境に関する討議
 - 第15回 全体のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

この科目は、1年次に履修した「保育の本質および目的を理解」に関する科目を発展的（応用的）に学ぶ科目です。毎回、多彩な視点から保育の理解を深めていきます。授業時間外（予習/復習）では、テキストの精読や授業で出された課題に取り組んでもらうことを課し、高いレベルでの学習に臨んでもらいます。

【成績の評価】

希望者は、まず履修（授業開始）前に必ず相談に来てください。そして第一回目を必ず履修してください。無断欠席者には履修を認めません。授業臨む態度（討議内容）（40%）、課題の提出（40%）およびまとめの課題（20%）によって、成績を判断します。

期末試験の結果は、オフィスアワーに解説します。

【使用テキスト】

小堀哲郎編『（社会のなかの）子どもと保育者』（創成社、2012年）

【参考文献】

厚生労働省『保育所保育指針 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

科目名： 幼保専門教養発展講義

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane), 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

これまで学んできた保育・幼児教育の基礎理論を再確認し、相互に関連付けることで、知識として定着させることを目的とします。また、ディスカッションを通して、それら基礎理論を活用できる応用力の習得も目的とします。

なお、この授業は就職試験対策を意識した内容で構成されています。受講生には、授業への積極的な参加と自学自習など、高い意識が求められます。

【到達目標】

1. 保育を支える基礎理論に関する継続的学習を通して人間性を育むことができる。
2. 保育の原理に関する専門的知識や判断力を修得することができる。
3. 保育を支える基礎理論の修得により、豊かな保育実践の基礎を培うことができる。

【授業計画】

- 第1回 当科目の授業のルール、進め方、評価方法について理解する。
- 第2回 保育原理・教育原理に関するこれまでの学びを復習し、基礎理論としての位置付けを確認する。
- 第3回 子どもの発達や心理に関するこれまでの学びを復習し、基礎理論としての位置付けを確認する。
- 第4回 保育の制度に関するこれまでの学びを復習し、基礎理論としての位置付けを確認する。
- 第5回 子どもの保健・健康に関するこれまでの学びを復習し、基礎理論としての位置付けを確認する。
- 第6回 保育内容・保育実習に関するこれまでの学びを復習し、基礎理論としての位置付けを確認する。
- 第7回 保育・幼児教育の歴史や思想を理解する。
- 第8回 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の記述内容を復習し、理解する。
- 第9回 これまでの学びを振り返り、中間まとめの課題に取り組む。
- 第10回 保育・教育の原理や子どもの発達に関わる議題のディスカッションを通して、これまで学んできた基礎理論を発展・応用する。
- 第11回 保育の制度や社会的役割に関わる議題のディスカッションを通して、これまで学んできた基礎理論を発展・応用する。
- 第12回 子どもの保健・健康に関わる議題のディスカッションを通して、これまで学んできた基礎理論を発展・応用する。
- 第13回 保育内容・保育実習に関わる議題のディスカッションを通して、これまで学んできた基礎理論を発展・応用する。
- 第14回 保育・幼児教育の歴史や思想を発展的に理解する。
- 第15回 これまでの授業を総括し、まとめの課題に取り組む。
定期試験は行いません。

【授業時間外の学習】

使用テキストを使い、毎週一定量の予習・復習を行なってください。それを「学習の記録」としてまとめ、毎時提出することを求めます。

【成績の評価】

「学習の記録」による評価（40%）、中間まとめの課題（30%）、まとめの課題（30%）

提出された課題へのフィードバックは、授業内で行います。

【使用テキスト】

保育士採用試験情報研究会『スイスイわかる 保育士採用 専門試験 平成29年度版』一ツ橋書店、2017年。

【参考文献】

平成29年3月告示 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名： 幼保専門教養発展演習

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane),佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

これまで授業や実習等で学んできた知識、保育に関する自分の考え方を他の人に言葉で的確にわかりやすく伝えるため、思考力や社会的スキルを身に付ける授業です。また、伝える内容についてまとめる過程を通して、自身の保育者としての資質能力を確認します。なお、この授業は就職試験対策を意識した内容で構成されています。

受講生には、授業への積極的な参加と自主学習など、高い意識が求められます。

【到達目標】

1. 保育を支える基礎理論に関する継続的学習を通して人間性を育むことができる。
2. 保育の原理に関する専門的知識や判断力を修得することができる。
3. 保育を支える基礎理論の修得により、豊かな保育実践の基礎を培う。

【授業計画】

- 第1回 当科目の授業のルール、進め方、評価方法について理解する
- 第2回 基礎的所作を学ぶ。自分自身について振り返るための基礎的内容を理解する
- 第3回 自分自身について語る(1)自分を振り返り、まとめる
- 第4回 自分自身について語る(2)学生生活での取組
- 第5回 自分自身について語る(3)自分の良さと課題
- 第6回 公務員・保育者をめざすものとしての質問に答える(1)将来をイメージする
- 第7回 公務員・保育者をめざすものとしての質問に答える(2)目指す保育者像
- 第8回 公務員・保育者をめざすものとしての質問に答える(3)保護者支援
- 第9回 公務員・保育者をめざすものとしての質問に答える(4)公務員としての意義
- 第10回 保育の専門性に関する質問に答える(1)自分の目標
- 第11回 保育の専門性に関する質問に答える(2)具体的保育場面から
- 第12回 保育の専門性に関する質問に答える(3)保護者連携
- 第13回 保育の行政的取組に関する質問に答える(各市町での取組内容の確認)
- 第14回 保育の時事的話題に関する質問に答える(注目する話題への考え)
- 第15回 これまでの授業を通して自分に足りないものを再確認、検討する

【授業時間外の学習】

授業時に課題とされる学習ノートや資料・テキストを精読することによって、自分の考えをまとめ、正しく伝えられるようにしておいてください。

【成績の評価】

授業への参加意欲・態度(20%)授業内での質疑応答(70%)学習ノートの記入や提出(10%)で評価します。授業内での質疑応答について、その都度講評することでフィードバックします。定期試験は実施しません。

【使用テキスト】

平成29年3月告示 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

【参考文献】

適宜プリントを配布します

専門科目：保育・教育の対象の理解

科目	掲載ページ
教育心理学	43
発達心理学 I	44
発達心理学 II	45
子どもの保健 I - I	46
子どもの保健 I - II	47
子どもの保健 II	48
子どもの食と栄養 I	49
子どもの食と栄養 II	50
教育相談	51
子ども理解	52
家庭支援論	53

科目名： 教育心理学

担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

教育心理学とは、「子どもたちが生き生きと主体的に学ぶことを支える」ための学問です。特に、乳幼児期の子どものなかに遊びのなかで、できることを少しずつ増やして、自らの自由や可能性を大いに広げていきます。そんな子どもたちの主体性をもとに、豊かな知性や人間性を育むための専門的知識や保育実践力が保育者には必要です。この授業では、子どもの知的発達と学びのしくみを理解することはもちろん、それを阻む地域福祉問題の現状についても理解を深め、その上で「子どもたちが生き生きと主体的に学ぶことを支える」保育者を目指して学びます。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

- ・子どもの知的発達を支える保育者の使命感や倫理観を高めることができる
- ・主として人間の知的発達に関する継続的学習を通して保育者らしい人間性を育むことができる
- ・主として人間の知的発達、ならびに知的発達を支える保育に関する専門的知識や思考力を身につけることができる
- ・知的発達を支える保育実践の基礎を培うことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（子どもの発達と教育）
 - 第2回 保育者養成のための教育心理学 - 地域福祉問題の解決に取り組む専門職者による話題提供
 - 第3回 子どもの発達と教育 - 地域福祉問題の解決に取り組む保育について考えるグループワーク
 - 第4回 知的能力の発達
 - 第5回 行動主義からみた学習のしくみと保育的かかわり
 - 第6回 認知主義からみた学習のしくみと保育的かかわり
 - 第7回 記憶の成り立ち
 - 第8回 学びの動機づけ
 - 第9回 遊びの発達
 - 第10回 保育における評価
 - 第11回 発達理解の方法
 - 第12回 発達障害のある子どもの保育 - 発達障害の理解
 - 第13回 発達障害のある子どもの保育 - 障害児保育
 - 第14回 発達障害のある子どもの保育 - 保護者支援
 - 第15回 就学に向けて（幼・保・小連携）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業プリントに板書をまとめ、すべて保管しましょう。

また、必要に応じて復習・予習課題に取り組みましょう。

【成績の評価】

成績は授業への出席時に提出される学習シートの内容（10%）と期末試験の結果（90%）で評価します。学習シートは毎回点検し、コメント等を寄せて返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

- ・伊藤健次編『新時代の保育双書 保育に生かす教育心理学』（みらい、2008年）
- ・本郷一夫『シードブック 保育の心理学 第2版』（建帛社、2015年）
- ・本郷一夫・八木成和編著『シードブック 教育心理学』（建帛社、2011年）
- ・服部 環・外山美樹編『ライブラリスタンダード心理学6 スタンダード教育心理学』（サイエンス社、2014年）
- ・加藤義信編『資料でわかる 認知心理学入門』（ひとなる書房、2009年）

科目名： 発達心理学

担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

人間の心身は、生まれてから死ぬまでの一生を通じて発達（＝変化）しつづけます。特に、乳幼児期の発達は一生のなかで最も著しく、量的にも質的にも大きな変化を示します。将来、保育者を目指す学生にとって、乳幼児の心身の発達について正しい専門的知識を持っているかどうかは大変重要です。発達に応じた子どもへの働きかけや調和のとれた子どもの育ちを支える保育実践力を身に付けた保育者を目指して学びます。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

- ・子どもの健やかな心身の発達を支える保育者の使命感や倫理観を高めることができる
- ・主として人間の心身の発達に関する継続的学習を通して保育者らしい人間性を育むことができる
- ・主として人間の心身の発達、ならびに心身の発達を支える保育に関する専門的知識や思考力を身につけることができる
- ・健やかな心身の発達を支える保育実践の基礎を培うことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（子どもの発達と保育）
 - 第2回 生涯発達 - 胎生期から乳幼児期
 - 第3回 生涯発達 - 児童期から青年期
 - 第4回 生涯発達 - 成人期から高齢期
 - 第5回 身体・運動の発達
 - 第6回 認知の発達 - 乳幼児期
 - 第7回 認知の発達 - 児童期以降
 - 第8回 言語の発達
 - 第9回 感情の発達 - 成立と分化
 - 第10回 感情の発達 - 感情表出と調整
 - 第11回 気質・性格の発達
 - 第12回 親子関係の発達
 - 第13回 きょうだい・仲間関係の発達
 - 第14回 道徳性の発達
 - 第15回 自己の発達
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業プリントに板書をまとめ、すべて保管しましょう。

また、必要に応じて復習・予習課題に取り組みましょう。

【成績の評価】

成績は授業への出席時に提出される学習シートの内容（10%）と期末試験の結果（90%）で評価します。学習シートは毎回点検し、コメント等を寄せて返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

- ・青木紀久代編『新時代の保育双書 発達心理学』（みらい、2009年）
- ・本郷一夫『シードブック 保育の心理学 第2版』（建帛社、2015年）
- ・本郷一夫 編著『シードブック発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』（建帛社、2010年）
- ・櫻井茂男・佐藤有耕編『スタンダード発達心理学』（サイエンス社、2013年）
- ・若尾良徳・岡部康成編著『発達心理学で読み解く保育エピソード』（北樹出版、2012年）

科目名： 発達心理学

担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

この授業では、1年前期の発達心理学 を振り返りながら、人間の発達について生涯を通じた連続性ある全人的な知識へと深めていきます。また、発達上の問題や障害のある子どもについての専門的知識を習得し、子どもへの理解ある適切なかわり方や保護者への子育て支援等で発揮される保育実践力についても考えていきます。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

- ・子どもの健やかな心身の発達を支える保育者の使命感や倫理観をさらに高めることができる
- ・主として人間の心身の発達に関する継続的学習を通して全人的理解のある人間性を育むことができる
- ・主として人間の心身の発達、ならびに心身の発達を支える保育に関する専門的知識に基づき、個に応じた見通しある保育を考え抜く思考力を深めることができる
- ・個に応じた見通しある保育実践ができるようになる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 胎生期
 - 第3回 乳児期（新生児期を含む）
 - 第4回 幼児期
 - 第5回 児童期
 - 第6回 青年期
 - 第7回 成人期
 - 第8回 高齢期
 - 第9回 生涯発達における乳幼児期の意義
 - 第10回 乳幼児の発達上の問題と障害
 - 第11回 乳幼児の発達障害における支援と指導 - 自閉スペクトラム症
 - 第12回 乳幼児の発達障害における支援と指導 - 注意欠如多動性障害
 - 第13回 乳幼児の発達障害における支援と指導 - 学習障害
 - 第14回 乳幼児の発達障害における支援と指導 - 二次的障害・三次的障害の予防
 - 第15回 授業の振り返りと質疑応答
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業プリントに板書をまとめ、すべて保管しましょう。
また、必要に応じて復習・予習課題に取り組みましょう。

【成績の評価】

成績は授業への出席時に提出される学習シートの内容（10%）と期末試験の結果（90%）で評価します。
学習シートは毎回点検し、コメント等を寄せて返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

- ・青木紀久代編『新時代の保育双書 発達心理学』（みらい、2009年）
- ・本郷一夫『シードブック 保育の心理学 第2版』（建帛社、2015年）
- ・本郷一夫 編著『シードブック発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』（建帛社、2010年）
- ・櫻井茂男・佐藤有耕編『スタンダード発達心理学』（サイエンス社、2013年）
- ・若尾良徳・岡部康成編著『発達心理学で読み解く保育エピソード』（北樹出版、2012年）

科目名： 子どもの保健 -
担当教員： 磯部 健一 (ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

胎生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を対象としますが、特に胎生期から乳幼児までを重点的に扱います。成長発達の途上において各臓器にはさまざまな臨界期が存在しており、一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化が引き起こされます。子どもの健全な成長発達とその病的な面だけでなく、生理的な面の専門的知識と思考力を修得する。またこれらの知識を基本として、三つの健康（身体健康、心の健康、社会健康）を重視する職業使命感と倫理観を修得する。そして幼稚園・保育所で直接に子どもの保育にあたるための保育実践力を身につける。

【到達目標】

1. 胎児期より新生児期、乳児期、学童期、思春期の各時期の正常な成長、発達および生理を理解できる。
2. 特に母子相互作用の重要性と心の健康の問題について理解できる。
3. 三つの健康（身体健康、心の健康、社会健康）を重視する職業使命感を理解できる。

【授業計画】

- 第1回 小児保健の概念(少子化の現状と問題点、母子保健統計)
 - 第2回 子どもの成長と発達(胎児・新生児期、乳幼児期の成長)
 - 第3回 生理機能の発達 - 1
 - 第4回 生理機能の発達 - 2
 - 第5回 母子相互作用、親子の関係性障害
 - 第6回 母乳育児
 - 第7回 これまでの講義のまとめと質疑応答
 - 第8回 小児の栄養
 - 第9回 小児の生活習慣病
 - 第10回 子どもの精神保健(心身症・発達障害)
 - 第11回 子どもの精神保健(子どもの虐待)
 - 第12回 健康及び安全の実施体制(母子保健対策と保育)
 - 第13回 健康及び安全の実施体制(母子保健に関連する法規)
 - 第14回 健康及び安全の実施体制(乳幼児健診)
 - 第15回 これまでの講義のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

授業内容についてのレポート作成を課題とします。

【成績の評価】

授業参加状況・ミニレポート(10%)、小テスト(20%)、期末試験(70%)の成績により総合的に判断します。ミニレポートと小テストは授業時に返却し解説することでフィードバックする。

【使用テキスト】

佐藤益子、中根淳子編著『新版子どもの保健』(ななみ書房, 2017年)

【参考文献】

- 巷野悟郎監修・日本保育園保健協議会編『最新保育保健の基礎知識 第8版改訂』(日本小児医事出版社、2013年)
- 金子堅一郎編『イラストを見せながら説明する育児のポイントと健康相談』(南山堂、2015年)
- 金子堅一郎編『イラストを見せながら説明する子どもの病気とその診かた』(南山堂、2015年)

科目名： 子どもの保健 -

担当教員： 磯部 健一 (ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

子どもの成長と発達には、子どもの一生を決定づける臨界期があり、小児の疾患を取り扱う時の基本となっています。成長と発達の時期に合わせた生理的、心理的な面を理解した上で病気になった子どもに接することが重要です。大切なこととして、子どものおかれている環境をよく理解し、将来の発育にどのような影響を及ぼすかについての専門的知識と思考力を修得します。さらに、成長・発達的变化を時間軸にして、乳幼児期にみられる疾患と保育の場における疾患の予防法などについての専門知識と技能を修得し、保育実践力を身につけます。

【到達目標】

1. 予防小児科学（事故、生活習慣病、心身症）と予防接種、乳児健診、学校保健などの社会小児科学を理解できる。
2. 乳幼児施設で、子どもに見られる症状や病気、感染性疾患などの原因や症状についての専門知識を修得することができる。
また、保育施設で感染予防ができることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 小児の主な病気（感染症 - 1）
 - 第2回 小児の主な病気（感染症 - 2）
 - 第3回 小児の主な病気（感染症 - 3）
 - 第4回 免疫機能と予防接種
 - 第5回 小児の主な病気（先天異常、アレルギー性疾患）
 - 第6回 小児の主な病気（消化器、循環器、血液疾患）
 - 第7回 小児の主な病気（神経系疾患）
 - 第8回 これまでの講義のまとめと質疑応答
 - 第9回 環境と衛生管理・安全管理（保育の環境整備と衛生管理）
 - 第10回 環境と衛生管理・安全管理（事故防止と安全対策 - 1）
 - 第11回 環境と衛生管理・安全管理（事故防止と安全対策 - 2）
 - 第12回 環境と衛生管理・安全管理（突然死症候群）
 - 第13回 環境と衛生管理・安全管理（救急対応 - 1）
 - 第14回 環境と衛生管理・安全管理（救急対応 - 2）
 - 第15回 これまでの講義のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

授業内容についてのレポート作成を課題とします。

【成績の評価】

授業参加状況・ミニレポート（10%）、小テスト（20%）、期末試験（70%）の成績により総合的に判断します。ミニレポートと小テストは授業時に返却し解説する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説することでフィードバックする。

【使用テキスト】

佐藤益子、中根淳子編著『新版子どもの保健』（ななみ書房、2017年）

【参考文献】

- 巷野悟郎監修・日本保育園保健協議会編『最新保育保健の基礎知識 第8版改訂』（日本小児医事出版社、2013年）
- 金子堅一郎編『イラストを見せながら説明する育児のポイントと健康相談』（南山堂、2015年）
- 金子堅一郎編『イラストを見せながら説明する子どもの病気とその診かた』（南山堂、2015年）

科目名： 子どもの保健

担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi),三浦 浩美(MIURA Hiromi)

【授業の紹介】

乳児期・幼児期の発達段階に応じた子どもの健康の保持増進や保育現場において起こりうる健康上の問題についての専門的知識と思考力を修得します。また、乳児の抱き方や身体計測などの養護の方法についての技能を修得します。子どもの病気とその予防およびその対応、救急時の対応と事故防止、安全管理についての専門的知識を修得し、保育実践力を身につけます。なお、授業は、子どもの発達援助と保健活動の計画および評価を三浦が、子どもの疾病と事故防止を磯部が担当します。

【到達目標】

1. 子どもの成長発達と健康状態を把握するための計測や観察ができる。
2. 子どもの健康状態をもとに保健活動の計画やその評価ができる。
3. 救急時や病気・事故が発生した時に適切に対応することができる。

【授業計画】

- 第1回 小児保健の必要性，子どもの発達援助と保健活動（乳児の抱き方，寝かせ方，衣服交換）（三浦）
- 第2回 子どもの発達援助と保健活動（食事の与え方.1）（三浦）
- 第3回 子どもの発達援助と保健活動（食事の与え方.2）（三浦）
- 第4回 子どもの発達援助と保健活動（身体の清潔）（三浦）
- 第5回 保健活動の計画および評価（身体発育の測定方法と評価）（三浦）
- 第6回 保健活動の計画および評価（精神運動機能の発達と評価）（三浦）
- 第7回 保健活動の計画および評価（保育における看護）（三浦）
- 第8回 子どもの疾病と適切な対応（感染症の予防と対応）（磯部）
- 第9回 子どもの疾病と適切な対応（体調不良時の対応）（磯部）
- 第10回 子どもの疾病と適切な対応（個別な配慮を必要とする子どもへの対応）（磯部）
- 第11回 事故防止および健康安全管理（救急処置および救急蘇生法の習得1）（磯部）
- 第12回 事故防止および健康安全管理（救急処置および救急蘇生法の習得2）（磯部）
- 第13回 事故防止および健康安全管理（事故防止，安全教育）（磯部）
- 第14回 子どもの保健と環境（子どもの健康増進と保育の環境）（磯部）
- 第15回 これまでの講義のまとめと質疑応答
期末試験

【授業時間外の学習】

授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。

【成績の評価】

学習態度（10%）、レポート・演習記録などの提出物（20%）、定期試験（70%）などにより総合的に評価する。レポートは授業時に返却し解説することでフィードバックする。

【使用テキスト】

佐藤益子、中根淳子編著『新版子どもの保健』（ななみ書房，2017年）
教材として、皆さんが子どもの時の母子健康手帳を使用しますので持ってきてください。紛失等で準備できない場合はそれでも構いません。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科目名： 子どもの食と栄養

担当教員： 川染 節江(KAWASOME Setsue)

【授業の紹介】

「子どもの食と栄養」では、本学保育学科が目標とする「保育者像」の達成を目標とした授業内容とする。

子どもの発達に必要な食生活と栄養に関する専門的な知識を身につけ、保育者としての資質能力（職業使命感と倫理観、専門的な知識と思考力など）を身につけていくことを重視する。

また、食生活の実践力向上のため、調理実習も体験する。

【到達目標】

1. 人が生命を維持するための栄養の基礎を知ることができる。
2. 乳児期、幼児期の各成長段階に応じた食生活のあり方を知ることができる。
3. 子どもの食生活のあり方が将来の健康を確保する基本になることを理解し、学生自身の適正な食生活のあり方を考え、「豊かな人間性」を育む、「保育実践力」を身につけることができる。
4. 調理実習を体験することにより、実際に適正な食事および子どものおやつをつくる能力を習得することができる。

【授業計画】

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション、子どもの食と栄養とは何か、学ぶ目的は何か。 |
| 第2回 | 子どもの心身の健康と食生活の意義（発育・発達の評価方法）、食事の目的 |
| 第3回 | 子どもの食生活環境の現状把握と課題（世界の子どもの栄養状態） |
| 第4回 | 子どもの食と栄養の特徴、生涯発達と食生活 |
| 第5回 | 栄養の基本的概念、栄養素の種類と機能 |
| 第6回 | 栄養素の種類と機能、栄養素の消化・吸収の機能、ビデオによる学習 |
| 第7回 | 日本人の食事摂取基準（2015年度版）、PFCのエネルギーバランス、必要な栄養素 |
| 第8回 | 食品の基礎知識、食品の分類、市販食品の現状、食品の選び方 |
| 第9回 | 献立作成と調理の基本 |
| 第10回 | 調理実習 日常の望ましい食事づくり |
| 第11回 | 調理実習 子どものおやつづくり |
| 第12回 | 子どもの発育・発達と栄養生理 食欲・味覚の仕組みなど |
| 第13回 | 子どもの発育・発達と食生活（乳児期・離乳期） |
| 第14回 | 子どもの発育・発達と食生活（幼児期） |
| 第15回 | 重要項目について確認及びテストについて |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するように取り組んでください。

教育実習・保育実習時における食事場面をよく観察し、授業内容の理解にいかしてください。

【成績の評価】

授業態度（10%）、実習レポート（20%）、テスト結果（70%）を総合的に評価します。

講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出させて、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

小川 雄二編『子どもの食と栄養』（建帛社）

【参考文献】

到達目標に関連した新聞記事やデータなどの資料を配布し、保育者としての資質向上をはかる。

科目名： 子どもの食と栄養

担当教員： 川染 節江(KAWASOME Setsue)

【授業の紹介】

「子どもの食と栄養」では、「子どもの食と栄養」に引き続き、本学保育学科が目標とする「保育者像」の達成を目標とした授業内容とし、子どもの健全な成長・発達に、食生活と栄養が深くかかわっていることを理解し、食育の推進・子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けるような内容とする。

【到達目標】

1. 離乳期から乳幼児期に至る、実際の生活のあり方を知る。
2. それぞれ発達段階に応じた栄養および食生活の問題点と対応を知り、子育て支援に活かせることができる。
3. 幼稚園、保育所、小学校における食育推進の基本と実践力を身に付ける。
4. 子どもの食生活におけるアレルギー対策・障害のある子どもへの食事の支援などの知識を得る。
5. 上記のことを学ぶことで、「豊かな人間性」を育み、「保育実践力」を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 離乳期の意識と食生活
 - 第3回 離乳期の意識と食生活
 - 第4回 幼児期の食生活の特徴
 - 第5回 幼児期の食生活の特徴
 - 第6回 妊娠期の心身の発達と栄養・食生活
 - 第7回 調理実習、おやつづくり
 - 第8回 調理実習、幼児食、学童食
 - 第9回 食育の基本と内容 保育園の例、食育基本法、食育推進基本計画
 - 第10回 食育の基本と内容 食生活上の問題点、特に朝食の必要性
 - 第11回 家庭における食育（生活習慣病・肥満対策）
 - 第12回 児童福祉施設における食事と栄養
 - 第13回 食物アレルギー・障害がある子どもの食と栄養
 - 第14回 保育所・学校給食の変遷・現状・栄養教諭の役割・学校で食育活動
 - 第15回 各自の目標達成度の確認、及びテストについて
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するように取り組んでください。
教育実習・保育実習時における食事場面をよく観察し、授業内容の理解にいかしてください。

【成績の評価】

授業態度（10%）、実習レポート（20%）、テスト結果（70%）を総合的に評価します。
講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出させて、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

岡崎 光子 編『子どもの食と栄養』（光生館）

【参考文献】

到達目標に関連した新聞記事やデータなどの資料を配布し、保育者としての資質向上をはかる。

科目名： 教育相談

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

この授業は、カウンセリングの基礎理論を学ぶとともに、日常的なかかわりの中での子ども、保護者、職員間での教育相談の在り方を、具体的な場面を想定しながら学習し、専門的知識と思考力を身に付け、実践に生かしていく授業です。授業の中で、ロールプレイによる簡単なカウンセリング・エクササイズやグループ学習を行います。

【到達目標】

- 1 幼稚園等における教育相談の意義と理論を理解することによって、使命感や倫理観を高めることができる。
- 2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解し、保育者としての豊かな人間性を育むことができる。
- 3 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、幼児理解に基づいた適切な対応ができることをめざす。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、教育相談の意義及び基礎的理論・概念について
 - 第2回：基礎的知識と技法：傾聴と共感
 - 第3回：傾聴と共感の事例演習
 - 第4回：基礎的知識と技法：ポジティブメッセージとリフレーミング
 - 第5回：ポジティブメッセージおよびリフレーミングの事例演習
 - 第6回：基礎的知識と技法：メタフォリカルアプローチとチューニング
 - 第7回：メタフォリカルアプローチ及びチューニングの事例演習
 - 第8回：保護者面談の実際について
 - 第9回：保護者面談の事例演習(子どものことについて)
 - 第10回：保護者面談の事例演習(保護者間のことについて)
 - 第11回：発達に課題をもつ子どもとその保護者へのかかわり
 - 第12回：発達に課題をもつ子どもの保護者へのかかわりの事例演習
 - 第13回：職員間でのカンファレンス
 - 第14回：カンファレンスの事例演習
 - 第15回：時事的教育課題と、専門機関との連携
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業と関連する、カウンセリングや幼児教育に関する話題についての課題を適宜出します。自分なりの考えをまとめ、授業に臨んでください。

【成績の評価】

エクササイズ・グループ学習を含め、授業への参加意欲・態度(40%)
学習シート等の課題提出や期末試験(60%)を合わせ、総合的に評価します。
課題の返却により振り返りを行うことでフィードバックします。

【使用テキスト】

小田豊・秋田喜代美編 『子どもの理解と保育・教育相談』 (株)みらい

【参考文献】

菅野純著 『教師のためのカウンセリングワークブック』(金子書房)
授業の中で適宜紹介します。

科目名： 子ども理解

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

子どもやその保護者を多方面から捉えることができるよう、子どもをとりまく状況について、その背景を抑えながらすすめていきます。また、幼稚園に出向き子どもたちと関わりながら、実践的に子どもを理解する経験をします。さらに、幼稚園での経験を振り返ることにより、保育者自身（学生自身）の影響を意識した子ども理解に努めることができるようにしたいと考えています。

【到達目標】

- ・子どもの心身の特性ならびにその特性に応じた保育の観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
- ・子ども理解に基づく保育の継続的な学習を通して人間性を育むことができる。
- ・子どもの心身の特性に関する専門的知識や判断力について「実践の省察」を組み込みつつ習得することができる。
- ・子どもの理解に基づく保育の記録等、望ましい保育実践を支える業務上の技能を向上させることができる。

【授業計画】

- 第1回 子ども理解の必要性
 - 第2回 子ども理解に向けて（自分自身を見直そう）
 - 第3回 子ども理解に向けて（先輩からのアドバイス）
 - 第4回 子ども理解に向けて（基本姿勢を身に付けよう）
 - 第5回 保護者の現状
 - 第6回 子ども理解の方法-エピソード記録を用いて-
 - 第7回 親支援と子ども支援
 - 第8回 子どもの育ちと人のかかわり（観察参加を振り返りながら）
 - 第9回 子どもの育ちと人のかかわり（観察参加の振り返りと子ども同士のトラブル対応）
 - 第10回 子どもの育ちと人のかかわり（観察参加の振り返りと保育者の姿勢）
 - 第11回 子どもの育ちと人のかかわり（観察参加の振り返りと子ども中心の保育）
 - 第12回 子ども理解のまとめ
 - 第13回 子ども理解の共有
 - 第14回 幼保 - 小を見通した子ども理解
 - 第15回 全体のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

子ども理解を深めるにあたり、実習等での出来事を振り返りますので、観察記録・日誌などをしっかりと読み返しておいてください。

【成績の評価】

学習シートの記入・提出（30%）、エピソード記録の提出・発表（30%）および試験（40%）の総合点で評価し、単位認定します。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。

また、「子ども理解」と「観察参加」は形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら2つの科目はそれぞれ有機的に連動して学習成果が測られる性格を有するため、2つの科目のうち、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

使用しません。

【参考文献】

- 文部科学省『幼稚園教育要領 平成29年告示』
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』
- 森上史朗・浜口順子『幼児理解と保育援助』（ミネルヴァ書房）
- 松田茂樹『何が育児を支えているのか 中庸なネットワークの強さ』（勁草書房）
- 鯨岡峻・鯨岡和子『保育のためのエピソード記述入門』（ミネルヴァ書房）
- 池本美香『失われる子育ての時間 少子化社会脱出への道』（勁草書房）

科目名： 家庭支援論

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

家庭支援論では、私的領域であった家庭内の子育てを、社会全体で支えるようになった背景について理解し、職業使命感と倫理観を高めます。その上で、保育所を利用する親子のみならず、地域の親子までを視野に入れた支援のあり方に関する専門的知識を身に付け、保育実践力向上へと導いていきます。

【到達目標】

- ・学生は、子育て家庭への支援者としての保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
- ・学生は、家庭ならびに子育て家庭への支援に関する専門的知識や判断力を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 家族の今とむかし
 - 第2回 家族の機能
 - 第3回 現代家族の状況 (結婚)
 - 第4回 現代家族の状況 (家族の変化)
 - 第5回 現代家族の状況 (子育てにおける問題)
 - 第6回 子育て支援政策
 - 第7回 家庭支援の基本姿勢
 - 第8回 保育所保育指針における家庭支援
 - 第9回 保育所保育指針における地域の親子に対する支援
 - 第10回 その他の家庭支援
 - 第11回 子育て家庭の理解(専業主婦・働く母親)
 - 第12回 要保護児童・家庭への支援
 - 第13回 特別な支援を必要とする子ども・家庭への支援
 - 第14回 さまざまな子育て支援サービスが抱える問題
 - 第15回 全体のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

次回の授業範囲の予習として、本授業に関連する保育所保育指針を確認しておいてください。また、復習としては、授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し理解を深めてください。

【成績の評価】

毎回の学習シートの記入・提出(30%)、家庭支援の事例検討に関するレポート(10%)、試験(60%)の合計点で評価し、単位認定をします。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。期末試験の結果は、オフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

厚生労働省『保育所保育指針 平成29年告示』
全国社会福祉協議会『改訂2版新 保育士養成講座第10巻 家庭支援論』
松本園子・永井陽子・福川須美・堀口美智子『実践 家庭支援論』ななみ書房

専門科目：保育・教育の内容と方法の理解

科目	掲載ページ
乳児保育Ⅰ	55
乳児保育Ⅱ	56
障害児保育Ⅰ	57
障害児保育Ⅱ	58
社会的養護内容	59
保育メディア演習	60
保育方法論	61
保育課程論	62
保育内容－表現Ⅰ	63
保育内容－表現Ⅱ	64
保育内容－表現Ⅲ	65
保育内容－健康	66
保育内容－人間関係	67
保育内容－環境	68
保育内容－言葉	69
音楽Ⅰ	70
音楽Ⅱ	71
ピアノ特別演習	72
体育Ⅰ	73
体育Ⅱ	74
図画工作Ⅰ	75
図画工作Ⅱ	76
子ども文化	77
野外活動実習	78
保育内容総論	79
保育の表現技術発展演習A	80
保育の表現技術発展演習B	81

科目名： 乳児保育

担当教員： 武田 都(TAKEDA Miyako)

【授業の紹介】

本講は、保育士としての資質能力を身に付けるため必要な、知識と技術、態度を習得することを目的としています。乳児の発達保障、保護者の支援、地域社会の子育て支援を基本柱として学び、これからの社会における乳児保育のあり方を考察します。なお、乳児保育 では理論を中心に行います。

【到達目標】

1. 乳幼児の発達段階を理解し、必要な専門知識、技術を身につけ、子ども一人ひとりに応じた保育を主体的に取り組む力の育成。
2. 保育者としての倫理観、使命感を身につけ、現代の乳児保育を取り巻く環境の変化に、柔軟に対応できる力を身につけることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 乳児保育の変遷と意義
 - 第3回 乳児保育の基本 (生涯発達からみた乳児期について)
 - 第4回 乳児保育の基本 (保育士のあり方と子ども同士の関係について)
 - 第5回 発達の特徴とかがわり方の視点 (出生からおおむね六か月未満の保育)
 - 第6回 発達の特徴とかがわり方の視点 (おおむね六か月から一歳三か月未満の保育)
 - 第7回 発達の特徴とかがわり方の視点 (おおむね一歳三か月から二歳未満の保育)
 - 第8回 発達の特徴とかがわり方の視点 (おおむね二歳から三歳未満の保育)
 - 第9回 乳児保育を支えるもの 基本的生活を中心に
 - 第10回 乳児保育を支えるもの あそびを中心に
 - 第11回 特別な配慮を必要とする子ども
 - 第12回 乳児保育の日常の計画と評価
 - 第13回 乳児のあそび・環境について
 - 第14回 子育て支援 保育所と家庭との連携について
 - 第15回 乳児期の理解と保育者の役割等について、授業のまとめと事例研究
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業の中で次回授業の範囲を提示し、予習の指示や子ども観察等から課題の発見を促します。

【成績の評価】

評価は、提出物、授業態度等を総合的に判定して行います。

小テスト等(50%) 事例研究(25%) レポート(25%)

小テスト等は、添削して授業時に返却します。また、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

乳児保育研究会編『資料でわかる乳児の保育新時代』(ひとなる書房)

【参考文献】

厚生労働省著『保育所保育指針』

CHS子育て文化研究所『乳児保育』(萌文書林、2010年)

巷野悟郎・植松紀子編『0歳児・1歳児・2歳児のための乳児保育』(光生館、2010年)

科目名： 乳児保育

担当教員： 細谷 孝代(HOSOTANI Takayo)

【授業の紹介】

保育の現場で求められる保育者像を理解し、保育者として、乳児との生活を作り上げていくために必要な知識と技術を身につけることを目的とする。

演習形式をとり、ビデオ、写真等を使用し、いろいろな事例紹介をしていく中で、保育者の責務について具体的に学び、保育者としての資質能力を習得する。

【到達目標】

1. 事例研究や演習問題を通して、乳児保育の専門的な知識や技術などを理解し、保育実践力を高めることをめざす。

2. 乳児期の発達を踏まえ、乳児保育における課題を分析する中で、豊かな人間性を育み、援助となる具体的な手立てを習得することをめざす。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション		
第2回	乳児の発達	身体的発達について	ビデオ視聴・小テスト
第3回	乳児の発達	言葉の発達について	ビデオ視聴・小テスト
第4回	乳児のあそび	グループ活動	うたあそび創作
第5回	乳児のあそび	グループ活動	うたあそび発表
第6回	乳児のあそび	グループ活動	小麦粉粘土作製・製作活動
第7回	乳児のあそび	いないいないばあ	人形製作
第8回	乳児保育の内容と方法	グループ活動	人形を使って実技指導
第9回	乳児保育の環境	物的環境について	写真、ビデオ視聴・演習問題
第10回	乳児保育の環境	人的環境について	写真、ビデオ視聴・演習問題
第11回	施設・家庭の連携	連絡帳の書き方について	演習問題
第12回	乳児保育の計画と記録	指導計画・月案・日案について	
第13回	乳児保育の計画と記録	保育案作成	
第14回	乳児の健康と安全	病気、怪我の対応について	演習問題
第15回	まとめ	保育者と子どもの関係について	

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

第4回、5回、6回、7回の乳児のあそび、
、
、
では、具体的な乳児のあそびについて実技および演習、発表をするので、前もっての準備やグループでの練習を必要とします。

第13回の乳児保育の計画と記録では、保育案作成に向けて、資料収集などの準備が必要です。

【成績の評価】

小テスト・演習問題（40%）提出物（40%）授業態度（20%）の割合で総合的に判断します。

小テスト等は、添削して授業時に返却します。また、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

10分以上の遅刻は欠席とみなします。

【使用テキスト】

特に無し（随時、資料を配布します）

【参考文献】

川原佐公著『0・1・2歳児マニュアル』（ひかりのくに 2008年）

川原佐公著『発達がわかれば保育ができる』（ひかりのくに 2016年）

待井和江 福岡貞子編『現代保育学8 乳児保育』（ミネルヴァ書房 2012年）

科目名： 障害児保育

担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

保育者に必要な下記の4つの資質能力を身に付ける必要がある。子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観、自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性、高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力、多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力。その上で、障害児保育を実践するために、乳幼児期の定型発達のポイント(Key Month)を理解しておく必要がある。その上で、保育現場で出会うさまざまな障害について理解を深め、さらに各障害の特徴について学ぶことによって、保育実践力を身に付ける。また、現場での、質の高い障害児保育を行うためには、「専門的知識」と「豊かな人間性」の両輪をバランスよく身に付ける必要がある。

【到達目標】

1. 大学の教育目標である豊かな人間性や主体的に生きる力、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、学科が示す専門的知識や技能および実践的能力を培うことをめざす。
2. 特別支援を必要とする児が保育活動に参加していることを実感し、生きる力を身に付けていくことができるように、必要な知識や支援方法を理解できることをめざす。
3. インクルーシブ教育の視点を踏まえた上で、障害児の理解を深めるためには、まず、定型発達について学ばなければならない。特に、障害特性を理解するためには、発達5領域(聴覚・視覚、構音行動、認知、言語)に視点を置いて、しっかり学び、理解が深まることをめざす。
4. さまざまな障害の特徴について学ぶことによって、保育現場で出会う障害児について、的確な障害児像を描くことができるようになることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 障害児とは
 - 第3回 障害児保育実践のための基本的な考え方(1)(保育者側の視点)
 - 第4回 障害児保育実践のための基本的な考え方(2)(子ども側の視点)
 - 第5回 乳幼児期の定型発達(1)(聴覚・視覚)
 - 第6回 乳幼児期の定型発達(2)(構音 摂食・嚥下機能を含む)
 - 第7回 乳幼児期の定型発達(3)(行動)
 - 第8回 乳幼児期の定型発達(4)(認知)
 - 第9回 乳幼児期の定型発達(5)(言語)
 - 第10回 各種障害の概要(1)(聴覚障害、視覚障害)
 - 第11回 各種障害の概要(2)(知的障害、脳性麻痺、病弱)
 - 第12回 各種障害の概要(3)(自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、学習障害)
 - 第13回 各種障害の概要(4)(言語障害、情緒障害、摂食・嚥下障害、その他)
 - 第14回 障害児保育で求められる事柄(1)(症例を通して)
 - 第15回 障害児保育で求められる事柄(2)(症例を通して)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある。また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある。予習・復習を繰り返すことで、必要な専門的知識・技術が身に付けられる。必要に応じて、小テスト、ミニレポート課題を課すことがある。

【成績の評価】

毎回の講義に対する要点レポート(15%)、ミニレポート(15%)、定期試験(70%)を総合的に評価する。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

尾崎康子・他編『よくわかる障害児保育』(ミネルヴァ書房 2010年)

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

科目名： 障害児保育

担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

保育者に必要な下記の4つの資質能力を身に付ける必要がある。子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観、自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性、高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力、多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

。その上で、保育現場で、正確な検査・評価ができるように、スクリーニング検査を使用できるようにすることで、専門的な知識の向上に繋がるようにする。また、各障害別のより実践的な支援のあり方を教授することで、専門性の高い保育実践力を身に付けられるようにする。

【到達目標】

1. 大学の教育目標である 豊かな人間性や主体的に生きる力、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力、 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力を培うことをめざす。
2. 特別支援を必要とする児が保育活動に参加していることを実感し、生きる力を身に付けていくことができるように、必要な知識や支援方法を理解できることをめざす。
3. インクルーシブ教育の視点を踏まえた上で、障害特性の理解を深めるとともに、具体的な支援（合理的配慮を踏まえて）が行えるようになることをめざす。
4. 保護者に対しても、子どもの状態像を具体的に説明でき、家庭での関わり方についても一緒に考えられることをめざす。
5. 地域の他の専門機関とも連携が取れるようになることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 保育現場でできる検査・評価
 - 第3回 聴覚障害児に対する具体的な支援
 - 第4回 視覚障害児に対する具体的な支援
 - 第5回 構音障害児（吃音を含む）に対する具体的な支援
 - 第6回 知的障害児に対する具体的な支援
 - 第7回 脳性麻痺児（後天性脳障害児を含む）に対する具体的な支援
 - 第8回 学習障害児に対する具体的な支援
 - 第9回 注意欠陥多動性障害児に対する具体的な支援
 - 第10回 自閉症スペクトラム障害児に対する具体的な支援
 - 第11回 保護者支援
 - 第12回 地域の専門機関（保健、医療、福祉、その他）との連携
 - 第13回 障害児への関わり方の具体的なポイント（症例を通して）
 - 第14回 障害児への関わり方の具体的なポイント（症例を通して）
 - 第15回 障害児保育の今後の課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある。また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある。予習・復習を繰り返すことで、保育者として必要な専門的知識・技術が身に付けられる。

【成績の評価】

毎回の講義に対する要点レポート（15%）、ミニレポート（15%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

小野次郎・他編『よくわかる発達障害 第2版』（ミネルヴァ書房 2012年）

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

科目名： 社会的養護内容

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

従来、家庭福祉・家庭養護が子どもの生存・成長を担ってきたが、現代では家庭だけでは十分にその機能が果たせないために、多くの子どもに社会的養護が必要になってきている。子どもや成人の施設で暮らす人たちにどのような支援がおこなわれているかを学び、保育者としての資質能力、特に～事例検討を通して～福祉に関わる「思考力・判断力」「多様な専門家との協力・協働」や「保育実践力」を身に付ける。

【到達目標】

1. 福祉施設で暮らす子どもや成人について理解できるようになる。
2. 福祉施設で暮らす人たちにどのような支援が必要か理解し、支援技術を身につけることができる。
3. 子ども理解に基づく記録等、福祉実践を支える業務上の技術を向上させることができる。
4. 事例についての自分なりの理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（児童福祉施設の体系と概要）
 - 第2回 家庭で生活できない人々
～入所施設各論「乳児院、児童養護施設」～
 - 第3回 家庭で生活できない人々
～入所施設各論「児童自立支援施設」～
 - 第4回 家庭で生活できない人々
～入所施設各論「児童自立支援施設」～
 - 第5回 家庭で生活できない人々
～入所施設各論「知的障害児施設」～
 - 第6回 家庭で生活できない人々
～入所施設各論「その他の障害児施設」～
 - 第7回 養護の具体的内容・方法
～入所前後の支援～
 - 第8回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「日常生活」～
 - 第9回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「こころの支援」～
 - 第10回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「親子関係の調整」～
 - 第11回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「地域・学校との関係づくり」～
 - 第12回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「自立への支援」～
 - 第13回 施設職員の資質と倫理
 - 第14回 子どもの最善の利益と権利
 - 第15回 専門的支援技術
- 定期試験

【授業時間外の学習】

定期的に事例に関するショートレポートを求める。

【成績の評価】

期末テスト（50%）、ショートレポート（50%）
ショートレポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメやスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 辰巳隆・岡本眞幸（編）「保育士を目指す人の社会的養護内容」（株）みらい 2011年
- 福永博文（編著）「社会的養護内容」北大路書房 2013年
- 吉田眞理（編著）「演習 社会的養護内容」萌文書林 2016年
- 犬塚峰子（編）「子どもの発達・アセスメントと養育・支援プラン」明石書店 2013年

科目名： 保育メディア演習
担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

この授業では、パソコンを使って文書作成、画像編集、動画・webページ作成を行います。いまや保育現場でもメディア活用は保育者に必要な専門的知識と保育実践力になっています。園だよりや行事の案内・プログラムの作成、アルバムやムービーの編集、園HPの管理等、「分からない」「できない」ではとても困ります。また、それらメディア活用を適正に行うことも非常に重要です。個人情報保護のもと、著作権や肖像権等にも十分配慮した倫理的なメディア活用についても学びます。

【到達目標】

- 次の4つの目標で、みなさんが学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。
- ・倫理的なメディア活用を通じて、保育の質を向上させようと思う使命感・倫理観を高めることができる
 - ・メディアに対する苦手意識を克服し、メディア活用に意欲的な人間性を育むことができる
 - ・保育現場におけるメディア活用の実際を知り、適切な文書作成やweb活用ができるようになる
 - ・保育現場で役立つ文書作成やweb活用の基本操作を身につけ、保育素材を作ることができる

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：保育に役立つWeb活用と注意点（情報モラルを含む）
 - 第3回：画像やイラストを使ったアルバム作成 - 画像編集の基本
 - 第4回：画像やイラストを使ったアルバム作成 - 画像処理と加工
 - 第5回：画像やイラストを使ったアルバム作成 - 動画作成
 - 第6回：画像やイラストを使ったアルバム作成 - 動画編集
 - 第7回：画像・イラストや罫線を使った文書作成 - 文書作成の基本
 - 第8回：画像・イラストや罫線を使った文書作成 - レイアウトとデザイン
 - 第9回：画像・イラストや罫線を使った文書作成 - 画像の挿入
 - 第10回：画像・イラストや罫線を使った文書作成 - 文書入力
 - 第11回：画像・イラストや罫線を使った文書作成 - 文書アレンジ
 - 第12回：Webページ作成のための準備 - 教員紹介・研究室紹介の作成
 - 第13回：Webページ作成のための準備 - 後輩へのメッセージの作成
 - 第14回：Webページ作成のための準備 - アルバム作成・挿入
 - 第15回：ホームページビルダーでWebページ作成 - アレンジメント
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

課題を期限内に、かつ完成度の高いものを提出できるように、計画的に課題制作に励みましょう。また、授業に必要な材料や情報の収集・整理も必要に応じて準備しましょう。

【成績の評価】

成績は、授業への出席時に送信されるメールの内容（20%）、課題の期限内提出（20%）とその出来栄（60%）で評価します。課題は保育学科オリジナルホームページに公開できるかどうかを点検してフィードバックとします。必要に応じて調整・修正を繰り返し、順次公開していきます。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

- ・堀田博史・松河秀哉・森田健宏編著『保育・幼児教育に携わる人の情報処理テキスト 幼稚園・保育所の保育実践とメディアの活用』（みるめ書房、2013年）
- ・阿部正平・阿部和子・ホソノヨーコ著『保育者のためのパソコン講座 保育事例で習得するワープロ・表計算・プレゼンテーションからホームページ作成』（萌文書林、2006年）

科目名： 保育方法論

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

本授業では、保育を行う上での基礎的事項や指導上の留意点を取り上げる。ここでの学びを今後の実習等に生かすことができるようすすめていく。

【到達目標】

- ・ 子どもの発達に影響を及ぼす保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる
- ・ 保育者としての継続的学習を通して人間性を育むことができる
- ・ 保育者に関する専門的知識や判断力を習得することができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 一人ひとりに応じた保育
 - 第3回 生活の指導（片づけ、排泄）
 - 第4回 生活の指導（食事）
 - 第5回 保育のすすめ方（設定保育）
 - 第6回 保育のすすめ方（自由保育）
 - 第7回 保育のすすめ方（異年齢保育）
 - 第8回 環境の構成
 - 第9回 子どもの理解
 - 第10回 導入・展開・まとめ
 - 第11回 計画・記録の作成の基本
 - 第12回 計画・記録の作成の実践
 - 第13回 保育者の姿勢
 - 第14回 環境としての保育者
 - 第15回 全体のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

次回の授業範囲の予習として、テキストを読んでおいてください。また、復習としては、授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し理解を深めてください。

【成績の評価】

毎回の学習シートの記入・提出（30%）、試験（70%）の合計点で評価し、単位認定をします。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。期末試験の結果は、オフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】

小田豊・神長美津子『新保育シリーズ 保育方法』光生館

【参考文献】

文部科学省『幼稚園教育要領 平成29年告示』

厚生労働省『保育所保育指針 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

科目名： 保育課程論

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

幼稚園等では、保育者が子どもたちと楽しそうに遊び、生活が展開されていますが、すべての活動は、教育・保育課程に基づいて行われています。この授業では、各幼稚園等において編成される教育・保育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、実態に応じてカリキュラム・マネジメントしながら豊かな保育実践が行えるよう、学んでいきます。幼稚園教諭免許状及び保育士資格には必修科目です。

【到達目標】

「保育学科のめざす保育者像」に基づき、次の3つを到達目標と設定します。

- 1 幼児教育において、教育・保育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解することによって、使命感や倫理観を高めることができる。
- 2 教育・保育課程編成の基本原則、並びに幼稚園等の保育実践に即した教育・保育課程編成の方法を理解することができる。
- 3 園の教育・保育課程全体をマネジメントすることの意義を理解し、豊かな保育実践の基盤を培うことをめざす。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」とは
- 第2回：保育をめぐる環境・現代の保育事情
- 第3回：幼稚園・保育所・こども園の歴史の変遷の概要
- 第4回：教育要領・保育指針等における保育のねらい・内容及び内容の取扱い
- 第5回：教育・保育課程の基礎的概念
- 第6回：保育の循環と評価の意義
- 第7回：子どもの発達過程の概要
- 第8回：子どもの発達特性や発達過程を指導計画に生かす方法の理解(総合的な遊びを通して)
- 第9回：幼稚園、保育所、こども園における教育・保育課程の実践
- 第10回：幼稚園、保育所、こども園における指導計画の実践
- 第11回：教育・保育課程の編成と展開について
- 第12回：指導計画の作成と展開について(月の指導計画)
- 第13回：指導計画の作成と展開について(週の指導計画)
- 第14回：指導計画の作成と展開について(週案から保育指導案へ)
- 第15回：幼稚園、保育所、こども園における保育の評価の実践
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時に示されたテキストの次時予告部分の精読と本時の振り返りにより自分の理解度を確認する予習や復習を必ずして下さい。この努力がないと単位の修得が困難となります。

他の授業科目と関連させながら、理解の深化に努め、目指す保育者像に近づけるよう感性を磨き、使命感や倫理観、判断力や実践力を養うよう常に心がけてください。

【成績の評価】

授業に取り組む意欲・関心・態度(20%)、学習シート等の課題の記入や提出(40%)、期末試験(40%)で評価します。

課題の返却により振り返りを行うことでフィードバックします。

【使用テキスト】

- ・加藤敏子・岡田耕一『保育課程論』(萌文書林) 2013年
- ・平成29年3月告示 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： 保育内容 - 表現

担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

保育士としての資質能力の一つである子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得する。絵具、クレパス、紙などを使ってモダンテクニックなど主に平面的な作品制作をする。また、子どもの発達段階に応じた指導法も学習する。

【到達目標】

- ・造形表現の基礎的な知識と技能を身につける。
- ・子どもの作品を受け入れ、理解しようとすることができる。
- ・素材を活かした表現や、発展させる思考力を身につける。
- ・造形表現の準備やプロセスを理解し、計画することができる。

【授業計画】

- 第1回 子どもの発達段階と表現、折り紙の基礎、モダンテクニックとは
- 第2回 モダンテクニック（スクラッチ、バチック）の制作
- 第3回 モダンテクニック（ステンシル、スタンプ）の制作
- 第4回 モダンテクニック（マーブリング、にじみ、デカルコマニー）の制作
- 第5回 モダンテクニックでコラージュ制作
- 第6回 モダンテクニックでコラージュ制作
- 第7回 学外授業（高松市美術館視察と鑑賞）
- 第8回 折り紙
- 第9回 折り紙
- 第10回 紙の切れ目を活かして
- 第11回 紙を切ることからの発展
- 第12回 シルエット絵本の制作
- 第13回 シルエット絵本の制作
- 第14回 折り紙
- 第15回 折り紙

【授業時間外の学習】

テキスト「四季のたのしいおりがみ事典」から、指定された折り紙（50点）を解説を見ずに作ることができるようにする。

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況を70%、学外授業レポート10%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげることによってフィードバックする。

【使用テキスト】

山口 真著「四季のたのしいおりがみ事典」（（株）ナツメ社 2006年） 1,404円

【参考文献】

随時紹介する。

科目名： 保育内容 - 表現

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に係わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力を育成する。またほぼ毎回行う発表や模擬授業の場で保育者としての音楽的な実践力を高めると同時に、観察と評価の力を養う。保育現場における多彩な音楽活動に十分に対応できる専門的知識と技能を修得する。

【到達目標】

1. 領域「表現」のねらいと内容を理解(筆記試験で7割正答)できる。
2. 保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力(楽しんで発表できる力)を身に付ける。
3. 子ども発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
4. レパートリーの習得(15曲)とともに、自由な発想による振付が短時間でできる。
5. 子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
6. 音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション 幼稚園教育要領の領域「表現」の概要 音楽表現の芽生えと発達
 - 第2回：手遊び歌・体遊び歌(1)「季節の歌」
 - 第3回：手遊び歌・体遊び歌(2)「園生活の歌」
 - 第4回：手遊び歌・体遊び歌(3)「人気のダンス」
 - 第5回：わらべ歌をはじめとする音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作
 - 第6回：リズム遊び(1)「ボディー・パーカッション」
 - 第7回：リズム遊び(2)「簡単なクラッピング・ミュージック」
 - 第8回：リトミック(1)「さまざまなリズムを聴きとり、反応する」「リズムカード」
 - 第9回：リトミック(2)「さまざまな音の表情を聴き取り、反応する」「ドレミカード」
 - 第10回：音楽を聴いて全身で動く「模倣」「創作ダンス」「ボディサイン」
 - 第11回：簡単な楽器を使った合奏(鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等)
 - 第12回：簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテーション、素材や手法の説明、計画の立て方
 - 第13回：音楽劇の準備・練習(1)(小道具の製作、楽器伴奏、振り付け)
 - 第14回：音楽劇の準備・練習(2)(総合的な練習)
 - 第15回：音楽劇の発表会、相互評価と検討
- 定期試験

【授業時間外の学習】

指定された曲の予習、また復習を行う。詳細はその都度教員が説明する。

【成績の評価】

定期試験(35%)、授業における発表(35%)、課題に取り組む姿勢・提出物(30%)
定期試験については採点基準を説明し、授業における発表に対してはその都度講評する。
また提出物は添削の上、返却することによりフィードバックをおこなう。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」ドレミ楽譜出版社

【参考文献】

- 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
- 保育所保育指針(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： 保育内容 - 表現

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

幼稚園・保育園の保育の基本理念をふまえ、「子どもにとって表現とは何か」「保育における表現とは何か」さらには「人間にとって表現とは何か」を考察した上で、“動きのスケッチ”による表現の方法を身につけます。

この授業では、今までにみなさんが行ってきた“創作ダンス”とは一味違う身体運動を行います。踊ることが“キライ”という人、からだは“カタイ”という人、人前でパフォーマンスをするのは“ニガテ”という人...も安心して授業を受けてください。この授業をとおして、豊かな人間性を高め、保育実践力を身につけ、保育者としての素養を獲得します。

【到達目標】

1. 自分が見たこと、感じたこと、考えたこと、想像したことなどを自分の身体を媒体にして自由に伸び伸びと動きで表現することができる。
2. 子どもの身体表現の基礎的知識を理解し、実践できる。
3. 表現活動をとおして、豊かな心と創造力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 人間と表現の関係 《講義》
 - 第2回 子どもと表現の関係 《講義》
 - 第3回 保育の基本と表現（子どもにとって表現とは何か）《講義》
 - 第4回 保育の基本と表現（子どもの表現活動の実際）《講義》
 - 第5回 身体の部分を使ってのいろいろな動き 《実技》
 - 第6回 身体の全体を使ってのいろいろな動き（2人組での動き）《実技》
 - 第7回 身体の全体を使ってのいろいろな動き（音楽に合わせての動き）《実技》
 - 第8回 主題に対する表現（小さな動物）《実技》
 - 第9回 主題に対する表現（大きな動物）《実技》
 - 第10回 主題に対する表現（小さな乗り物）《実技》
 - 第11回 主題に対する表現（大きな乗り物）《実技》
 - 第12回 作品の分析（創作した作品を分析する）《講義》
 - 第13回 作品の分析（舞台作品を分析する）《講義》
 - 第14回 総括（子どもの生活における表現活動）
 - 第15回 総括（作品づくりのまとめ）、最終レポート
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください。

【成績の評価】

授業時間内での作品評価：70%

授業態度：20%

最終レポート：10%

* 全体の60%以上の得点で合格とします。

* 授業内で発表する作品の評価は、ビデオ等により振り返り、フィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

杉浦 とく他 『子どもの表現力を高める舞踊』（明治図書、1988年）

黒川 健一他 『表現』（ミネルヴァ書房、1990年）

高橋 和子他 『表現 - 風の卵がころがったとき - 』（不昧堂出版、1995年）

科目名： 保育内容 - 健康

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

本授業では、子どもたちの健康で安全な生活を作り出す専門的知識や判断力を習得し、保育者として保育実践を成し得る基盤を培えるよう取り組んでいきます。

【到達目標】

- ・学生は、子ども自らが「健康で安全な生活を作り出す」ために必要な保育者としての専門的知識や判断力を習得することができる。
- ・学生は、豊かな保育実践を成し得る、「子ども自らが健康で安全な生活を作り出す」ための基盤を培うことができる。

【授業計画】

- 第1回 乳幼児の発達の見方・捉え方
 - 第2回 安定感を持った行動へと導くために
 - 第3回 領域「健康」の変遷
 - 第4回 食を営む力
 - 第5回 施設の安全管理
 - 第6回 基本的生活習慣の獲得
 - 第7回 戸外での遊び
 - 第8回 保育における健康を実習から振り返る
 - 第9回 ケガの対応（応急手当）
 - 第10回 ケガの対応（年齢における安全）
 - 第11回 病気の対応
 - 第12回 運動意欲を育む指導
 - 第13回 保育実践から見えてくること（鬼遊び）
 - 第14回 保育実践から見えてくること（行事）
 - 第15回 全体のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

次回の授業範囲の予習として、本授業に関連する幼稚園教育要領および保育所保育指針を確認しておいてください。また、復習としては、授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し理解を深めてください。

【成績の評価】

毎回の学習シートの記入・提出（30%）、保育現場における健康の実践健康のを検討するレポート（10%）、試験（60%）の合計点で評価し、単位認定をします。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。
期末試験の結果は、オフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省『幼稚園教育要領 平成29年告示』
厚生労働省『保育所保育指針 平成29年告示』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』
河邊貴子・柴崎正行・杉原隆『保育内容「健康」』（ミネルヴァ書房、2009年）

科目名： 保育内容 - 人間関係
担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

人間は、誰かとつながることで生かされている存在です。つまり、人間関係は「生きる力」の原点と言ってもよいでしょう。人間関係が希薄化する現代社会の中、幼稚園や保育所は、乳幼児期の子どもたちにとって、人とかかわりを経験する貴重な場になりつつあります。この窮状に対して、保育者には子どもたちに「人とかかわる力」を育てること、子どもたちの人間関係を家庭や園から地域に向けて押し広げていくことが求められています。子どもたちがより豊かで強くつながり合える人間関係をつくり、それを社会のなかで役立て、幸福に生きることを実現させるための専門的知識と思考力を習得し、保育実践力を発揮できる保育者を目指して学びます。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

- ・子どもの「人とかかわる力」を育てることの重要性を理解し、領域「人間関係」に基づく幼稚園・保育所の役割を果たそうと思う使命感・倫理観を高めることができる
- ・長期的な視点に立って、子どもの「基礎的な人とかかわる力」を育てようとする子ども-保育者関係を構築できる人間性を育むことができる
- ・領域「人間関係」に関するねらいと内容に関する専門的知識を身につけ、子どもの「人とかかわる力」の発達とその育て方についての思考力を深めることができる
- ・子どもの「人とかかわる力」を育て伸ばすための保育実践力を発揮できるようになる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人間関係とは
- 第3回 領域「人間関係」と保育
- 第4回 0歳児の人とかかわりと保育
- 第5回 1歳児の人とかかわりと保育
- 第6回 2歳児の人とかかわりと保育
- 第7回 3歳児の遊びと人間関係
- 第8回 4歳児の遊びと人間関係
- 第9回 5歳児の遊びと人間関係
- 第10回 気にかかる子どもへの援助
- 第11回 特別な支援を必要とする子どもへの援助
- 第12回 育ちを支える保育者同士の間関係
- 第13回 育ちを支える保護者と保育者の人間関係
- 第14回 育ちにかかわる「私たち」の人間関係
- 第15回 さらに学ぶに向けて：まとめ

定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業プリントに板書をまとめ、すべて保管しましょう。
また、必要に応じて復習・予習課題に取り組みましょう。

【成績の評価】

成績は授業への出席時に提出される学習シートの内容（10%）と期末試験の結果（90%）で評価します。
学習シートは毎回点検し、コメント等を寄せて返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

田代和美・松村正幸 編著『演習 保育内容 - 人間関係』（建帛社、2010年）
幼稚園教育要領（平成30年施行、文部科学省）
保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成30年施行、厚生労働省）

科目名： 保育内容 - 環境

担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

子どもは、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わります。子どもにとってのよりよい環境作りや保育者が果たす役割などについて、具体的指導場面を想定しながら考え、子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を培っていく授業です。

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解することができる。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本について
 - 第2回 保育内容「環境」のねらいと内容
 - 第3回 0歳児から3歳未満児の育ちと環境とのかかわり
 - 第4回 3、4歳児の育ちと環境とのかかわり
 - 第5回 5歳児、幼小接続期の育ちと環境とのかかわり
 - 第6回 遊びや生活の中での興味や関心（好奇心・探究心）
 - 第7回 遊びや生活の中での興味や関心（数量や図形、文字等）
 - 第8回 遊びや生活の中で思考力の芽生えを培う
 - 第9回 遊びや生活の中で自然とのかかわりをつくる
 - 第10回 社会生活とのかかわりをつくる
 - 第11回 子どもの育ちをつなぐ（スタートカリキュラムとアプローチカリキュラム）
 - 第12回 物や人とのかかわりを深める環境の構成と保育の展開（春・夏）
 - 第13回 物や人とのかかわりを深める環境の構成と保育の展開（秋・冬）
 - 第14回 保育の構想の実際（指導案作成）
 - 第15回 保育者に求められる専門性
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・課題について関連する情報を次回の授業までに収集する。
- ・授業の振り返りやまとめから、新たな疑問や気付き等を記録する。

【成績の評価】

関心・態度（20%）、ワークシート等への記入や提出（40%）、定期試験（40%）
授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりすることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

神長美津子・堀越紀香・佐々木晃編著
『乳幼児 教育・保育シリーズ』『保育内容 環境』光生館（2018年2月発行予定）

【参考文献】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

科目名： 保育内容 - 言葉
担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

【授業の紹介】

乳幼児期における言葉の発達について学び、保育者は、どのように子どものことばをとらえ、援助していくことができるかを学びます。講義（演習）では、子どものことばの実際と保育者の援助の実際について事例を読むことやVTRを通して学び、その援助の背景にあることばの理論や保育の考え方について議論し考えていくことを通して、総合的に学科の目ざす保育者像に近づくことをめざします。

保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領では、話すこと、聞くことへの「意欲」を高めることが「言葉」の基本とされています。この基本から言葉の発達に関する保育者の役割を学びます。

【到達目標】

1. 乳児が言葉を獲得し、豊かに表現し書き言葉までの成長の過程を理解するとともに保育者の使命感を身につけることができる。
2. 言葉が育つための環境の条件の保育者であることを理解し、語彙数も表現力も豊かで温かく信頼される人間性をめざす。
3. 子どもや保護者の表現や仕草から伝えたいことを受け止め確かな洞察力や知識や判断力を身につけることができる。
4. 大切な言葉を幼児が主体的に獲得し、心豊かに発達するためには保育者の言葉環境のあり方を知ることができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|---------------------------|-------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | 保育内容「言葉」を学ぶ |
| 第2回 | 言葉をめぐるワークショップ | |
| 第3回 | 言葉のそだつ道すじ | |
| 第4回 | 言葉の前の言葉 | |
| 第5回 | 一つ言葉で | |
| 第6回 | 人とつながる言葉 | 人とかかわる言葉 |
| 第7回 | 人とつながる言葉 | つながりたい思い出し方 |
| 第8回 | 人とつながる言葉 | 困った時が知恵を出し合う時 |
| 第9回 | 言葉で考える | |
| 第10回 | 言葉で表現する | 遊びからうまれる表現 |
| 第11回 | 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども | |
| 第12回 | 言葉をめぐる相談の実際と対応 | |
| 第13回 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」 | |
| 第14回 | 児童文化財で広がる世界 | |
| 第15回 | まとめ | 子どもの言葉に心をよせて 質疑応答 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時に紹介した本や興味のある本を探して親しみ、自分の言語力や知識を深める。

【成績の評価】

授業中の態度 10%、毎回の学習シートの記入内容 20%、提出物 10%、期末試験 60%評価をします。

ワークショップ・発表の仕方やレポートは、内容・字数・提出日の厳守を評価します。

1回目の授業で詳しく説明します。

定期試験の結果については、オフィスアワーの時間に解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

戸田雅美 編著 『演習保育内容「言葉」』（建帛社、2009年）

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）

厚生労働省 『保育所保育指針解説』（フレーベル館）

科目名： 音楽

担当教員： 音楽Ⅰ担当教員全員

【授業の紹介】

少人数クラス、個人レッスンの形態で行う授業です。学生相互に学びあう場ともなるこの授業では、音楽を通して保育者の資質能力を様々な面から身に付け、学科のめざす保育者像をめざします。

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育園、幼稚園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園教諭を目指す者にとって、音楽的技能の習得は不可欠です。保育園、幼稚園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽の基本的技術を習得し、感性豊かにすることで保育実践力を高めます。

【到達目標】

1. 音ならびに音楽作品が子どもの感性や情操に与える意義の理解、また音楽的調和が社会的調和と相通じることの理解を通して、使命感や倫理観を高めることができる。
2. 音楽作品の鑑賞・演奏トレーニング等の音楽活動に対する継続的な取り組みを通して、人間性を育むことができる。
3. 音楽ならびに保育における子どもの音楽活動に関する専門的知識や判断力を習得することができる。
4. 多様な音楽表現技能の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 音楽の基礎知識確認のためのワークシート
各自のピアノ技術能力を調査し最初に取り組み曲を決定する
これ以降、個々に弾き歌いの曲に取り組みと共に、以下のテーマで歌のレパートリーを増やす
- | | | | |
|------|-----------------------|-----------------------------|----------------|
| 第2回 | 春の歌を歌おう | | |
| 第3回 | 動物の歌を歌おう | 「ぞうさん」「こぎつね」他7曲 | |
| 第4回 | 動物の歌を歌おう | 「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」他7曲 | |
| 第5回 | 生活の歌を歌おう | 「おべんとう」「おかえりのうた」他7曲 | |
| 第6回 | 生活の歌を歌おう | 「思い出のアルバム」「一年生になったら」他7曲 | |
| 第7回 | 子どもの好きな歌 | 「アイ・アイ」「かもつれっしゃ」他10曲 | |
| 第8回 | 子どもの好きな歌 | 「さんぽ」「小さな世界」他10曲 | |
| 第9回 | 子どもの好きな歌 | 「手をたたきましょう」「ミッキーマウスマーチ」他10曲 | |
| 第10回 | 夏の歌を歌おう | | |
| 第11回 | 自分が好きな歌を歌おう | | |
| 第12回 | 弾き歌いを相互に発表する（人前で歌う）練習 | | 相手に声が届くように歌おう |
| 第13回 | 弾き歌いを相互に発表する（人前で歌う）練習 | | ピアノの音をよく聴いて歌おう |
| 第14回 | 弾き歌いを相互に発表する（人前で歌う）練習 | | 表現豊かに歌おう |
| 第15回 | 発表会による全体の振り返りおよびまとめ | | |
- 期末試験

【授業時間外の学習】

次の授業までの一週間に与えられた曲を自分で練習して、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日鍵盤に触れる習慣をつけましょう。また、テキスト以外にも様々な楽譜が出版されており、新しい曲も次々と出てくるので、積極的にそういう曲も練習してみてください。

【成績の評価】

実技試験90%、日常の取り組み10%。課題曲すべてに加えて、担当教員と相談の上、自由曲1曲を選択し、授業担当教員全員の前で演奏する実技試験を行います。評価の観点としては、ピアノの技術だけを重視するのではなく、（保育室にいる子どもたちに届くような）明るい声で歌詞の場面が表現できているかが大きな要素となります。また、発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

小川宜子他編『子どものうた村 保育の木』（ドレミ楽譜出版社、2008年）
上記のテキストを基本に、子どもの歌、アニメソングなど保育の現場で用いられる楽曲を個々の技術に応じたアレンジで使用します。また、教員の指示により、ピアノの基本的技術習得のための教材も用いることがあります。（電子ピアノで使用するヘッドフォンを最初の授業前に販売します。）

【参考文献】

子どもの歌の様々な楽譜

科目名： 音楽

担当教員： 音楽Ⅱ担当教員全員

【授業の紹介】

音楽 に準じ、学科の目ざす保育者像を見据えて、子どもに寄り添った保育実践をめざします。レパートリーを増やすとともに、ピアノの演奏技術のさらなる向上をめざします。音を単にたどるだけでなく、一歩踏み込んで音楽表現の方法に関しても考え、その歌に合った弾き歌いになることが、子どもの音楽環境を豊かにします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして、模擬的な歌唱指導に取り組むことで、各自の保育実践力を高めることも出来る授業です。

【到達目標】

音楽 で挙げた目標にさらに近づくことを目指して取り組みましょう。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション - の問題点を振り返り、 - で目ざすことを各自が明らかにする
担当教員と相談の上各自が取り組む曲を決定し、これ以後毎回、課題を練習して弾き歌いのチェックを受ける
- 第2回 秋の歌を歌おう
- 第3回 季節感のある歌
- 第4回 伴奏の形に注目しよう
- 第5回 人前で弾き歌いをする練習
- 第6回 夏休みの成果を振り返る中間発表会
- 第7回 実習に向けて 子ども相手の弾き歌い
- 第8回 実習に向けて 子どもの生活、季節
- 第9回 冬の歌を歌おう
- 第10回 クリスマスの歌を歌おう コードネームの基礎
- 第11回 様々な演奏を生で聴くことによって自らの表現の幅を広げる
- 第12回 聴いた音楽を振り返り、自分の表現につなげる
- 第13回 人前で表情豊かに歌う練習
- 第14回 発表会 保育実習に向けて、歌唱指導の可能性
- 第15回 全体の振り返りとまとめ、弾き歌い以外の音楽的関わりについて
実技試験

【授業時間外の学習】

音楽 と同時に音楽 の課題曲も発表してあります。自由曲と合わせて夏休み中に自発的・積極的に練習しておきましょう。授業開始後、順次、教員の前で演奏します。夏休みの成果をチェックする機会を設け、一定の成果が認められた場合には弾き歌いと併せてピアノ独奏曲に取り組みます。短い時間でも毎日鍵盤に触れる習慣をつけましょう。

【成績の評価】

実技試験90%、日常の取り組み10%。音楽 に準じ、実技試験による評価です。1月に課題曲・自由曲の弾き歌い試験を行いますが、日常的な努力を評価するという意味で、夏休み中に音楽 の課題曲すべてと自由曲1曲に取り組んだ人は10月末頃のチェック（試験形式）を受けることができます。合格すれば、それ以後、より高度な弾き歌いに加えてピアノ独奏曲に取り組み、1月試験で独奏曲を演奏します。10月に合格し、独奏曲も評価に値する演奏であった場合、優以上の評価を与えます。

【使用テキスト】

音楽 に準じます。

【参考文献】

音楽 に準じます。

科目名： ピアノ特別演習
担当教員： ピアノ特別演習担当教員全員

【授業の紹介】

音楽 に引き続き、総合的に学科の目ざす保育者像への前進となる授業です。原則として、学外の先生に指導を受けていない学生のために個人レッスン形態で行います。保育の現場で実際に役に立つ実力を身につける方法は時間をかけて個々に練習することしかありませんが、曲の選び方やちょっとした練習法のコツなど、的確な助言があると能率的に正しい方向へ進めることができます。ピアノの演奏に関しては、授業開始時点で個々に技術や表現力が大きく異なっています。一人ひとりの進路に合わせて課題を設定し、就職試験、そして現場で実力が発揮できるよう、計画的に授業を進め、さらに高い保育実践力をめざします。

【到達目標】

- 1．保育の現場で役立つ技術や表現力を獲得することができる
- 2．場面に合わせてより高度な音楽的表現で対応できる能力を身につけることができる
- 3．実習や就職試験に自信を持って臨むことができる

【授業計画】

第1回：オリエンテーション及び演奏曲の決定
第2回～第12回：個人指導による演奏技術の向上及び音楽性の向上
第13回～第14回：複数クラス合同による発表の練習
第15回：発表会形式によるまとめ
期末試験

【授業時間外の学習】

毎日の練習が指のいっそうなめらかな動きにつながります。

【成績の評価】

担当教員全員の前で演奏することによる実技試験90%、各担当教員による、普段の取り組みの姿勢に対する評価10%。演奏発表内容に関して教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

ソナチネアルバム、ソナタアルバム、その他

【参考文献】

なし

科目名： 体育

担当教員： 池内 裕二(IKEUCHI Yuji)

【授業の紹介】

子どもの発育・発達に体育が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育園、幼稚園において体育(運動遊び)は生活の一部として取り入れられている。保育士、幼稚園教諭を目指す者にとって、体育的技能の習得は不可欠である。保育園、幼稚園で日常的に取り組んでいる運動遊び・伝承遊びのレパートリ-を増やすし、感性豊かにすることで、保育実践力を高める。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが保育学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

1. 運動遊びが子どもの身体発達ならびに感性や情操に与える意義の理解を通して使命感や倫理観をたかめることが出来る。
2. 運動遊びのルールを順守し、仲間と協力し、真摯な運動遊びへの取り組みを通して人間性を育むことが出来る。
3. 運動機能及び競技種目、ならびに保育における子どもの運動活動(とりわけ安全性)に関する専門的知識や判断力を習得することが出来る。
4. 多様な運動技能(筋力・身体感覚等)の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想することが出来る。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	運動遊びの実際と保育者の援助	鬼ごっこ
第3回	運動遊びの実際と保育者の援助	伝承あそび 屋外
第4回	運動遊びの実際と保育者の援助	伝承あそび 屋内
第5回	運動遊びの実際と保育者の援助	かけっこあそび
第6回	運動遊びの実際と保育者の援助	リレーあそび
第7回	運動遊びの実際と保育者の援助	マットあそび
第8回	運動遊びの実際と保育者の援助	とび箱あそび
第9回	運動遊びの実際と保育者の援助	ボールあそび 屋外
第10回	運動遊びの実際と保育者の援助	ボールあそび 屋内
第11回	運動遊びの実際と保育者の援助	まねっこあそび
第12回	運動遊びの実際と保育者の援助	手あそび・うたあそび
第13回	運動遊びの実際と保育者の援助	表現あそび 幼児体操
第14回	運動遊びの実際と保育者の援助	表現あそび 創作体操
第15回	運動遊びの実際と保育者の援助	水あそび

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

身近にいる子どもを観察し、どんな運動遊びを展開しているか、発育・発達に関連づけて見ていく。

【成績の評価】

取り組む態度30%、 技能40%、 レポート30%の総合評価
単元ごとにレポートを提出し、教員がコメントをつけて返却することでフィードバックする。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

学校体育研究同志会編集『種目別・年齢別指導 乳幼児の体育あそび』(草土文化、1999年)
黒井信隆『体育遊び・ゲームワンダーランド』(株式会社いかだ社、2000年)
石井美晴ほか『保育の中の運動あそび』(萌文書林、2000年)
保育所保育指針
幼稚園教育要領

科目名： 体育

担当教員： 池内 裕二(IKEUCHI Yuji)

【授業の紹介】

子どもの発育・発達に体育が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育園、幼稚園において体育(運動遊び)は生活の一部として取り入れられている。保育士、幼稚園教諭を目指す者にとって、体育的技能の習得は不可欠である。保育園、幼稚園で日常的に取り組んでいる運動遊び・伝承遊びのレパートリ-を増やし、感性豊かにすることで、保育実践力を高める。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが保育学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

1. 運動遊びが子どもの身体発達ならびに感性や情操に与える意義の理解を通して使命感や倫理観をたかめることができる。
2. 運動遊びのルールを順守し、仲間と協力し、真摯な運動遊びへの取り組みを通して人間性を育むことができる。
3. 運動機能及び競技種目、ならびに保育における子どもの運動活動(とりわけ安全性)に関する専門的知識や判断力を習得することができる。
4. 多様な運動技能(筋力・身体感覚等)の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	運動遊びの実際と保育者の援助	鬼ごっこ
第3回	運動遊びの実際と保育者の援助	屋内伝承あそび
第4回	運動遊びの実際と保育者の援助	屋外伝承あそび
第5回	運動遊びの実際と保育者の援助	かけっこあそび
第6回	運動遊びの実際と保育者の援助	リレーあそび
第7回	運動遊びの実際と保育者の援助	竹馬
第8回	運動遊びの実際と保育者の援助	一輪車
第9回	運動遊びの実際と保育者の援助	なげっこボールあそび
第10回	運動遊びの実際と保育者の援助	けりっこボールあそび
第11回	運動遊びの実際と保育者の援助	集団ボールあそび
第12回	運動遊びの実際と保育者の援助	ナワトビあそび
第13回	運動遊びの実際と保育者の援助	フープあそび
第14回	運動遊びの実際と保育者の援助	氷上あそび
第15回	運動遊びの実際と保育者の援助	スケートあそび

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

観察参加や身近にいる子どもたちを観察し、子どもがどんな運動遊びができているかをみていく。

【成績の評価】

取り組む態度30%、技能50%、レポート20%の総合評価
単元ごとにレポートを提出し、教員がコメントをつけて返却することでフィードバックする。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

学校体育研究同志会編集『種目別・年齢別指導 乳幼児の体育あそび』(草土文化、1999年)
黒井信隆『体育遊び・ゲームワンダーランド』(株式会社いかだ社、2000年)
石井美晴ほか『保育の中の運動あそび』(萌文書林、2000年)
保育所保育指針
幼稚園教育要領

科目名： 図画工作

担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

本科目は、保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目であり、卒業必修科目でもある。

- ・ 保育士としての資質能力の一つである子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得する。
- ・ 特に描写力や観察力を身につけることを主としている。

【到達目標】

- ・ 造形表現の基礎的な知識と技能を身につける。特に、立体感覚や描写力を身につける。
- ・ 素材を活かした表現や、発展させる思考力を身につける。
- ・ 造形表現の準備やプロセスを理解し、計画することができる。

【授業計画】

- | | | | |
|------|-----------------------|-----------------------|------------|
| 第1回 | 立体物からのイメージ表現 | ケント紙を使って立体物制作 | 「美しい鳥を作ろう」 |
| 第2回 | 立体物制作 | 「美しい鳥を作ろう」 | |
| 第3回 | 立体物制作 | 「美しい鳥を作ろう」 | |
| 第4回 | 立体物制作 | 「美しい鳥を作ろう」 | |
| 第5回 | 立体物にイメージ表現 | カラードフォルムやトータルカラーなどで表現 | |
| 第6回 | カラードフォルムやトータルカラーなどで表現 | | |
| 第7回 | カラードフォルムやトータルカラーなどで表現 | 講評 | |
| 第8回 | アクリル絵具による音楽からのイメージ画 | 絵具の特性や構図について | |
| 第9回 | アイデア、構想 | 「花の街」を聞いてイメージ画 | |
| 第10回 | 下描き | 「花の街」を聞いてイメージ画 | |
| 第11回 | 着彩 | 「花の街」を聞いてイメージ画 | |
| 第12回 | 着彩 | 「花の街」を聞いてイメージ画 | |
| 第13回 | 着彩 | 「花の街」を聞いてイメージ画 | |
| 第14回 | 着彩 | 「花の街」を聞いてイメージ画 | |
| 第15回 | 着彩 | 「花の街」を聞いてイメージ画 | 講評 |

【授業時間外の学習】

美術館や博物館などに出かけ美術作品を鑑賞したり、画集を見たりして様々な表現があることを知る。

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況を70%、学外授業レポート10%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品お全体的な傾向や作品個々の良い点をあげることによってフィードバックする。

【使用テキスト】

槇 英子著「保育をひらく造形表現」((株) 萌文書林 2016年) 2,484円

【参考文献】

随時紹介する。

科目名： 図画工作

担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、保育士資格の選択科目であり、卒業必修科目でもある。

保育士としての資質能力の一つである子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得する。特に観察力や立体感覚を身につけることを主としている。

【到達目標】

- ・造形表現の基礎的な知識と技能を身につける。特に観察力や立体感覚を身につける。
- ・素材を活かした表現や、発展させる思考力を身につける。
- ・図画工作の準備やプロセスを理解し、計画することができる。

【授業計画】

第1回	石紛粘土を使ってカブトムシの制作	粘土の素材の特性と扱い方	芯材制作
第2回	カブトムシ制作		
第3回	カブトムシ制作		
第4回	カブトムシ制作		
第5回	カブトムシ制作		
第6回	カブトムシ制作		
第7回	カブトムシ制作		
第8回	学外授業（香川県立ミュージアム視察と鑑賞）		
第9回	しかけ絵本制作	しかけ絵本の基礎	
第10回	しかけ絵本の基礎		
第11回	好きな絵本から構想を練る	試作	
第12回	しかけ絵本制作		
第13回	しかけ絵本制作		
第14回	しかけ絵本制作		
第15回	しかけ絵本制作	講評	

【授業時間外の学習】

夏休みにカブトムシを観察して、スケッチをする。また和洋問わずしかけ絵本を見て様々な表現やしかけがあることを知る。

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況を70%、学外授業レポート10%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげることによってフィードバックする。

【使用テキスト】

槇 英子著『保育をひらく造形表現』（（株）萌文書林、2016年） 2,484円

【参考文献】

菊地 清 著者『ポップアップカード入門』（遊友出版（株）、2011年） 1,620円

科目名： 子ども文化

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

【授業の紹介】

子ども文化は、大きな目で見れば子どもを取り巻く生活文化の広がりであり、生活の全体である。子どもにかかわる「児童文化」について整理し、知識として蓄え、さらに子どもと実際に行動できるようになっていただきたい。そのための児童文化の基本を学び、保育者としての専門的知識と保育実践力を身に付けていただきたい。

保育は保育者の文化的な知識と実践力が求められる。この授業では例えば、地域の子育て中の親子や保育所・幼稚園の子どもたちが利用する「さぬきこどものくに」において子どもの遊びや遊びの環境等を実際に観察したり遊んだりして教材や遊びの種類を知りフィールドワークすることなども行う。それを通して保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領で言われる保育者の専門性、子どもにとって最もふさわしい環境とは何かを意識して学びたい。

【到達目標】

1. 多様な文化財が子どもの感性や情操に与える意義の理解を通して、確かな使命感や倫理観をめざす。
2. 文化財の鑑賞ならびに文化活動への継続的な取り組みによって人間性を育むことができる。
3. 文化財ならびに保育における子どもが文化に触れる保育活動に関する専門的基礎知識を持つことができる。
4. 多様な文化財技能（読み聞かせ・手あそび等）の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践ができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	子ども文化とは
第2回	子どもにとっての遊び	
第3回	子どもの遊びの変化	
第4回	保育における児童文化	さぬきこどものくにで学ぶ
第5回	児童文化財の保育への展開	さぬきこどものくにで学ぶ
第6回	児童文化財の保育への展開	見学の話し合いと発表
第7回	児童文化財の保育への展開	絵本の読み語り
第8回	児童文化財の保育への展開	絵本リストを作ろう
第9回	児童文化財の保育への展開	紙芝居の演じ方と紙芝居
第10回	児童文化財の保育への展開	人形あそび・劇遊び
第11回	玩具・遊具	伝承遊び、子どもと行事
第12回	伝承遊びと行事	
第13回	あやとり・絵描き歌・おりがみ	
第14回	子どもに伝えたい文化に関する発表と討議	
第15回	子どもの文化の現状と展望	（授業のまとめと質疑応答）

定期試験

【授業時間外の学習】

図書館・美術館・さぬきこどものくに、で子どもの文化を探そう。

【成績の評価】

授業中の態度10%、提出物10%、発表10%、学習シートの記述内容10%、定期試験60%を評価し、単位認定をします。

詳しいことは第1回目の授業で説明します。履修期末試験の結果は、オフィスアワーの時間に解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

皆川恵美子 武田京子 編編 『新版 児童文化』（ななみ書房、2016年）

【参考文献】

松本峰雄編著 『保育における子ども文化』（わかば社、2014年）

科目名： 野外活動実習

担当教員： 池内 裕二(IKEUCHI Yuji)

【授業の紹介】

保育士、幼稚園教諭を目指す皆さんが、夏の自然の中で2泊3日の共同生活をおくることで、保育者の素養として求められる自主性を養い、規律を守り、友情を深め、感性磨き、保育実践力を身につけ、学科のめざす保育者像に近づくための授業である。

【到達目標】

- 1．自然や水遊び・外遊びが子どもの感性や情操に与える意義が理解でき、使命感や倫理観を高めることが出来る。
- 2．自主的に行動し、規律を守り、感性を高め、仲間と協力し、友情を深め、豊かな人間性を獲得することが出来る。
- 3．水遊び・外遊びなどを安全に援助する専門的な知識・技能を理解出来る。

【授業計画】

事前指導

余島野外活動センターで2泊3日のキャンプをする。

潮時、天候等により適宜以下のプログラムを組み合わせて実施する。

水泳

ウォータフロントプログラム ウィンドサーフィン、ヨット、ボート、カヌー

オリエンテーリング

テント設営

キャンプファイヤー

野外炊飯

ネイチャゲーム

*事前指導を含め、全てのプログラムに参加し、なおかつレポートを提出すること。

【授業時間外の学習】

各々のプログラムのねらい・特性を配布資料等で理解しておく。

【成績の評価】

取り組む態度80%、 レポート20%の総合点
レポートに教員がコメントし、返却することでフィードバックする。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

なし

科目名： 保育内容総論

担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

保育の基準である「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解きながら、幼児の自発的な活動を通しての総合的な指導の在り方を学んでいきます。また、事例研修を通して、幼児を理解する目を養っていき、実態に応じてカリキュラム・マネジメントできる豊かな保育実践的能力を培っていきます。

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容を理解できる。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児理解に根ざした保育を構想する力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・保育の基本とその内容
 - 第2回 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育・保育の内容の考え方
 - 第3回 遊びを通じた総合的な指導
 - 第4回 保育内容の変遷
 - 第5回 幼児教育と小学校教育の接続（アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム）
 - 第6回 幼児理解に基づく保育の展開
 - 第7回 指導計画作成の考え方と作成の実際
 - 第8回 指導計画の評価・改善と保育者の役割
 - 第9回 物や人との関わりを深める環境の構成と教材研究
 - 第10回 保育記録を書くことの意義と実際
 - 第11回 模擬保育の実際
 - 第12回 幼児理解に基づく保育の展開（事例研修）
 - 第13回 遊びと幼児理解（事例研修）
 - 第14回 幼児理解を深める保育者の基本的な姿勢（事例研修）
 - 第15回 保育内容の現状と課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・課題について関連する情報を次回の授業までに収集する。
- ・授業の振り返りやまとめから、新たな疑問や気付き等を記録する。

【成績の評価】

関心・態度（20％）ワークシート等への記入や提出（40％）定期試験（40％）
授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりすることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
神長美津子・堀越紀香・佐々木晃編著「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育内容総論』」光生館（2018年2月発行予定）

【参考文献】

適時紹介

科目名： 保育の表現技術発展演習 A

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi), 柴田 玲子(SHIBATA Reiko), 池内 裕二(IKEUCHI Yuji), 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

子どもは様々な形で自分の思いや感動を表現します。保育者がそれを敏感に受け止め、他の子どもと共有できる形に増幅することで、その子どもは「表現の喜び」を体験し、表現することへの意欲を高めるのです。この授業では、音楽・造形・身体表現を総合的に含む「音楽劇」を創作し演ずることを通して、表現技術応用の可能性を体験し、保育実践力に繋げることができます。グループ活動であるため、保育者同士がどのように話し合い、協力・分担してひとつのことを達成できるかといったシュミレーションとして位置づけたいと思います。

【到達目標】

1. 子どもと誠実に向き合い、温かい気持ちで、わずかな表現も受け止めることができる。
2. 総合的な視点で表現をとらえ保育活動に活かすことができる。
3. 子どもの発達に適合した表現活動を企画・創作できる。
4. 人前で自信をもって演技することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション グループ分け、取り組む演目の決定
- 第2回 グループ毎に台本の大筋を決定し、活動計画を立てる
- 第3回 音楽面から必要な準備についてのオリエンテーションと活動
- 第4回 美術面から必要な準備についてのオリエンテーションと活動
- 第5回～第8回
グループ活動により、台本の決定、場面の設定、歌詞の抽出、作曲、歌の練習
- 第9回 歌を入れた読み合わせと修正点の抽出
- 第10回 上演に向けて、舞台道具・衣装、振り付けの計画と分担、練習
- 第11回～第13回
グループ活動 セリフ・歌に振りをつけた練習、役割を分担して大道具・小道具・衣装の制作
- 第14回 上演1 振り返り 子どもが演ずる場合の工夫について
- 第15回 上演2 振り返り 表現活動を豊かにするには

【授業時間外の学習】

ひとつの劇を創造するため、空き時間に個々で練習したり、グループ練習することが必要です。

【成績の評価】

上演の完成度(70%)、取組の姿勢(30%)で評価します。なお、上演内容に関して教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

授業ごとに、関連するプリントを配布します。

【参考文献】

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名： 保育の表現技術発展演習 B
担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

【授業の紹介】

子ども文化は、大きな目で見れば子どもを取り巻く生活文化の広がり全体である。そこには子どものための児童文化財を築き上げてきた人々、児童文化施設を支えてきた人々、児童文化活動に邁進してきた人々など、歴史とともに多くの人々のかかわりがあった。それらの人物にスポットを当てながら、子ども文化の世界から子どものしあわせを考えていく。保育所保育指針・幼稚園教育要領では、園内の行事や地域の文化財とのかかわりが保育内容全般で伺える。保育者としての基本的知識・技術を学び保育者としての専門的知識と保育実践力を身につけることを目指す。

【到達目標】

1. 「子ども文化」の到達目標に加え、こどもに文化財を伝える技術を深め保育者としての使命感、人間性を深めることができる。
2. 子どもの育ちに大切な文化について考えどのようにかかわり、深めていくか、その方法や内容を理解をめざす。
3. 子ども文化への興味・関心を広げ、知識を獲得し現代社会における子ども期の意味、子どもの生活に関わる役割、文化の伝承と創造の重要性を理解することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	子ども文化とは
第2回	子ども文化とは	「児童文化」の現代
第3回	子どもの生い立ちから見る	子ども文化 胎児の世界から
第4回	子どもの生い立ちから見る	子ども文化 子どもにとっての遊びは
第5回	伝承文化と子ども	生育儀礼と子ども
第6回	伝承文化と子ども	年中行事と子ども
第7回	子どもの生活と子ども文化	子ども服・食事・子ども部屋
第8回	子どもの生活と子ども文化	子どもの生活変容と世代文化
第9回	玩具・遊具と子ども	玩具の歴史
第10回	玩具・遊具と子ども	教育玩具と遊具の歴史
第11回	子どもと文学	わらべ歌
第12回	子どもと文学	おはなし 人形劇
第13回	子ども文化を支える活動	絵本と子ども
第14回	子ども文化を支える活動	児童文化財を支える活動
第15回	まとめ	作品発表 質疑応答

期末試験

【授業時間外の学習】

図書館・美術館で子どもの文化を探そう。

【成績の評価】

授業中の態度（10%）、提出物（10%）、期末試験（80%）の合計点で評価します。
期末試験の結果は、オフィスアワーの時間に解説します。

【使用テキスト】

片岡輝・今井和子・佐々木由美子編『保育者のための児童文化』（大学図書出版、2009年）

【参考文献】

青木実他『児童文化』（学芸図書）

専門科目:教育実習、保育実習

科目	掲載ページ
観察参加	83
教育実習事前事後指導	84
教育実習	85
保育実習指導Ⅰ－Ⅰ	87
保育実習Ⅰ	88
保育実習指導Ⅰ－Ⅱ	89
保育実習指導Ⅱ	90
保育実習Ⅱ	91
保育実習指導Ⅲ	92
保育実習Ⅲ	93

科目名： 観察参加

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko),佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

観察参加は、本学の特色的授業の1つです。本授業の目的・目標・方法等の概要、現場に出る心得等の理解および子どもや保育の観察の仕方を学内で学んだ後、幼稚園に出向きます。そして、保育者と子どもたちのやりとりを見たり、子どもと接する時間を持ちます。その中で、子どもの思いを理解することや、保育者の援助にはどのようなことがあるのか、さらにはその援助の意図を考え、記録にまとめます。

【到達目標】

- ・保育者の職務や役割等の専門性についての観点から、保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
- ・子ども理解に基づく保育の継続的な学習を通して人間性を育むことができる
- ・子どもの心身の特性に関する専門的知識や判断力について「実践の省察」を組み込みつつ習得することができる
- ・保育者の職務や役割および保育の記録等、望ましい保育実践を支える業務上の技能を向上させることができる

【授業計画】

- 第1回 観察参加実習の概要説明
 - 第2回 幼稚園における心得・態度
 - 第3回 幼稚園の1日・実習園理解
 - 第4回 観察記録の必要性
 - 第5回 観察記録の書き方（注意事項をまとめる）
 - 第6回 観察記録の書き方（サンプルを用いて再確認）
 - 第7回 保育の流れを把握する
 - 第8回 保育の流れを把握し、援助に加わる
 - 第9回 子どもの遊びに入り、個々の子どもの特性を理解する
 - 第10回 年齢による違いに触れる
 - 第11回 保育者の援助とその意図を探る
 - 第12回 保育者の援助とその意図を理解する
 - 第13回 屋内外の道具と環境整備（安全管理）を理解する
 - 第14回 観察参加の振り返り・今後の課題
 - 第15回 全体のまとめと質疑応答
- 定期試験

【授業時間外の学習】

現場で学んだ内容を観察記録にまとめ、さらに次の観察参加における各自の課題を見出しておいてください。

【成績の評価】

観察参加実習を履修するにあたり、身だしなみ等の事前指導を行います。これを誠実に守ることが、履修の条件となります。

学習シートの記入・提出（10%）観察記録の提出（50%）まとめの課題及び定期試験（40%）の総合点で評価し単位認定します。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。

また、「観察参加」と「子ども理解」は形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら2つの科目はそれぞれ有機的に連動して学習成果が測られる性格を有するため、2つの科目のうち、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

定期試験の結果は、オフィスアワーの際に解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省『幼稚園教育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

科目名： 教育実習事前事後指導

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko),佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるため設定されています。まず、学内において、幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、現場に出る心得等の理解および子どもや保育の観察の仕方を学びます。また、幼稚園へ出向き、教育現場での実践活動の状況を観察したり、参加することにより子どもの状況や園の実体について体験を通して学びとります。

本学の場合、実習園の協力を得て長期にわたる（1年後期から2年の教育実習開始直前まで）現場体験を可能にしているため、幼児の実態・幼稚園の保育状況を十分理解した上で実習し、質の高い実践力を身に付けることができますようにしています。

【到達目標】

- ・幼稚園教諭の業務や職業倫理について理解し、保育者としての使命感や倫理観を培うことができる
- ・自己評価および自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる
- ・保育活動に必要な知識や判断力を習得することができる
- ・指導計画の作成・実践・記録・評価を通して保育者として必要な技能、実践力を習得することができる

【授業計画】

- 第1回 教育実習の概要
 - 第2回 教育実習の心得・態度
 - 第3回 日誌・指導案の書き方
 - 第4回 教材研究の方法
 - 第5回 実習園の概要を知る
 - 第6回 保育の流れを把握する
 - 第7回 保育者の援助とその意図を理解する
 - 第8回 前期教育実習の省察を行う（部分・研究保育）
 - 第9回 前期教育実習の省察を行う（生活・遊びの援助）
 - 第10回 課題に対する対応（部分・研究保育）
 - 第11回 課題に対する対応（生活・遊びの援助）
 - 第12回 教材研究
 - 第13回 全日指導実習に向けて
 - 第14回 後期教育実習の概要
 - 第15回 後期教育実習の省察を行う
- 定期試験

【授業時間外の学習】

現場で学んだ内容を観察記録にまとめ、さらに次の観察参加における各自の課題を見出しておいください。

【成績の評価】

教育実習事前事後指導を履修するにあたり、身だしなみ等の事前指導を行います。これを誠実に守ることが、履修の条件となります。学習シートの記入・提出（30%）、観察記録の提出（20%）、指導案の提出（20%）、まとめの課題及び定期試験（30%）の総合点で評価します。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。また、「教育実習事前事後指導」と「教育実習」は形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら2つの科目はそれぞれ有機的に連動して学習成果が測られる性格を有するため、2つの科目のうち、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省『幼稚園教育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

科目名： 教育実習

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko),佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

教育実習では、毎日決められた幼稚園に行き、保育の内容・方法、保育者の役割や子どものこと等、子どもと関わりながら学びます。本学の場合「教育実習事前事後指導」の中で実習幼稚園での事前学習を行うため、子どもや園の様子をある程度認識した上での実習となります。殊に建学の精神にある「理論と実践の接点を開拓する」ために、事前に立てた実習課題の究明に良い機会であり、しっかりとした理論に根差した実践力を身につけることができます。学生にとっては見習い中の実習生であっても、幼稚園は、子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識しておかなければなりません。そのためにも、事前研究も去ることながら体調に留意し、自己管理を怠り無く実習に臨めるよう敢えて付しておきます。

【到達目標】

- ・幼稚園教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、保育者としての使命感や倫理観を培うことができる
- ・常に自己省察し、課題や新たな目標の明確化を通して、豊かな人間性を育むことができる
- ・保育者の職務や役割等教職の専門性について理解し、必要な知識を習得することができる
- ・子どもの実態を把握し、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して、指導力や保育の構築力を養うことができる

【授業計画】

- 前期 < 第1週 >
1. 実習園の概要を知る、1日の流れを把握する
 2. 幼児の遊びの状況を理解し参加する
 3. 年齢段階により遊び、生活、課題への取り組みの違いを知る
 4. 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ
 5. 実習記録のとり方、反省、評価について学ぶ
 6. 安全に対する配慮、清掃、環境整備のしかたを知る
- < 第2週 >
1. 年間指導計画の中での現在の保育を理解する
 2. 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る
 3. いろいろな子どもとの関係を深める
 4. 保育の中の指導と援助のあり方を探る
 5. 部分実習をする
 6. 保育実践の反省、評価を受ける、園行事に参加し、行事の在り方について考える
- 後期 < 第3週 >
1. 前期から比べて子どもの成長発達を理解する
 2. グループダイナミックスの様子を知る
 3. 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む）
 4. 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る
 5. 季節の行事についての保育を知る
 6. 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する）
 7. 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する
 8. 園と家庭のとの連携についてその意義と方法を知る
- < 第4週 >
1. 保育室の環境整備・経営について知り実践する
 2. 幼稚園教諭について職務内容を理解する
 3. 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する
 4. 園の特色ある保育についての理解を深める
 5. 子育て支援についての特別保育（預かり、延長、未就園児保育等）の現状を知る
 6. 全日保育の計画、実践をする
 7. 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する
 8. 実習反省会、お別れ会、これからの課題についてまとめ、助言を受ける
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

様々な保育技能を実習現場で生かすことができるよう、各種おもちゃの作製やピアノ等の練習をしっかりと行ってください。

【成績の評価】

実習園からの評価（教育実習評価報告票）に基づき、評価します。幼稚園からの評価に基づいて成績評価する。具体的には、実習への取り組み（10%）、幼児理解（15%）、幼児との関わり（15%）、指導の立案（15%）、指導の実際（15%）、環境整備（15%）、勤務態度（15%）である。また、教育実習および教育実習事前事後指導は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら2つの科目はそれぞれ有機的に連動して学習成果が測られる性格を有するため、2つの科目のうち、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。成績等に関する質問は、事後指導およびオフィスアワー等を行うことでフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

科目名： 保育実習指導 -

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo), 樋本 美恵子(HIMOTO Mieko)

【授業の紹介】

「保育実習」を受講する前に、保育実習にあたっての知識・技能・態度を学ぶファースト・ステップであり、保育士資格を取得するための必須科目です。この授業では、保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って実習に取り組めるように学んでいきます。観察や記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技術を習得します。保育の専門的知識や思考力を保育実践力につなぐために、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、保育所や施設の機能、保育者の役割や職務内容など具体的・総合的に学んでいきます。

保育所保育指針における保育所の役割、保育内容を具体的に学ぶ授業です。

【到達目標】

1. 実習の意義・目的・内容を理解し、保育実習の心得を深め保育者として誠実に向き合う使命感・倫理観を高めることができる。
2. 実習において自らの達成すべき課題を明確にできる。
3. 信頼される保育者として、保育者の資質・知識技術など実習に必要な能力を身につけることができる。
4. 子どもの最善の利益を学び、子どもとのコミュニケーション能力を身につけ、保育実践に結び付けることができる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス ~ 保育実習の目的・内容・意義 |
| 第2回 | 保育実習の進め方・保育実習の位置づけ |
| 第3回 | 保育実習の進め方・保育所の理解・保育所の実習の一日 |
| 第4回 | 子どもの最善の利益・施設の理解・施設実習の一日 |
| 第5回 | 実習園における実習生の立ち位置 |
| 第6回 | 実習生の心構え・実習の方法・実習園を理解 |
| 第7回 | 実習生のマナー・子どもの世界をどう見るか |
| 第8回 | 保育実習 保育実技の関する基本的な考え方(1) |
| 第9回 | 保育実習 保育実技の関する基本的な考え方 乳児保育 (2) |
| 第10回 | 保育実習 保育実技の関する基本的な考え方 保育所施設 (3) |
| 第11回 | 地域に役立つ保育者を目指して・保育所・施設のマップをつくろう |
| 第12回 | 園マップで理解を深めよう |
| 第13回 | 施設マップで理解を深めよう |
| 第14回 | 実習にあたっての心構え ~ 守秘義務・人権意識などの職業論理 |
| 第15回 | 実習に向けての準備・諸注意 授業のまとめ 質疑応答 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

関連するトピックについて教科書を予めよく読んでおいてください。

【成績の評価】

授業中の態度10%、提出物20%、定期試験70%

ただし、欠席・遅刻が多い者、また実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先との交渉上、実習を取りやめることがあるので、授業には緊張感を持ってのぞんでください。

また、この科目はカリキュラム編成上、「保育実習」「保育実習指導 - 」と同時期に単位認定をします。

なお、「保育実習」「保育実習指導 - 」「保育実習指導 - 」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。期末試験の結果は、オフィスアワーの時間に解説することによってフィードバックします。

【使用テキスト】

阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編 『保育実習』（ミネルヴァ書房、2014年）

【参考文献】

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』（フレーベル館、2008年）

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、2015年）

その他、適宜紹介します。

科目名： 保育実習

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo), 樋本 美恵子(HIMOTO Mieko)

【授業の紹介】

保育実習は、保育所実習と施設実習からなります。それぞれ、約2週間にわたり実際に保育所、福祉施設において乳幼児(利用者)とかかわり、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合をはかる科目です。

具体的な実習の目標は以下の5点です。乳幼児(利用者)に対する理解を深める 施設運営を理解する 保育士の職務内容を理解し保育(養護)技術を習得する 福祉施設の意義と今日的役割を理解する 保育士を志すものとして自覚を高める。保育学科がめざす保育者像の子どもの命と成長に対し誠実に向き合う、使命感と倫理観を養います。

なお、施設実習は、児童養護施設、知的障害児施設、難聴幼児通園施設、知的障害者更生施設、知的障害者授産施設などの施設で実施します。

保育所保育指針では、「子どもの最善」が示されています。保育の実際に子どもや利用者さんの実際に学んでほしい。

【到達目標】

保育所実習では、部分実習を行うことを最終目標として課しています。これにより、主に保育と子どもについて実践的に学んでください。また、乳幼児とのかかわりを通して子ども理解を確かなものに行うことができる。

保育の実践を通して、保育士の役割や専門性を知り必要な知識や技術を習得できる。福祉施設の実習では施設の概要を把握し、施設の実践を理解する。さらに、利用者や施設の意義などを学ぶことができる。

【授業計画】

「事前・事後指導」
「保育実習指導 - 」及び「保育実習指導 - 」で実施します。

「観察実習」
この期間に保育所(施設)の概要や、一日の(保育の)流れ、また子どもたち(利用者)の氏名や発達的特徴などを把握します。

「参加、助手実習」
担当者にならって、助手的な役割を果たしながら、保育(養護)の実践について学びます。

「部分実習」(保育所実習のみ)
生活面の一部、あるいは遊び場面において、事前に指導案を作成し、実習生が保育者の役割をとり、実際に保育を行うことを通して子どもの発達段階、また援助の在り方に関する理解を深めます。

【授業時間外の学習】

さまざまな保育技能を実習現場で生かすことができるよう、制作物の準備等を進めておきましょうさらに、実習中は、現場で学んだ内容を記録にとどめ、日誌を毎日丁寧に書き、次の日への課題を見出しておきましょう。

【成績の評価】

保育所、福祉施設それぞれの実習評価を元に、評価します。
なお、この科目の単位が認定されるためには、「保育実習指導 - 」および「保育実習指導 - 」を履修し、それぞれの定期試験を受験しておく必要があります。

なお、「保育実習 - 」、「保育実習指導 - 」、「保育実習指導 - 」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

事後指導やオフィスアワー時にて評価の解説をすることでフィードバックします。

【使用テキスト】

『保育実習の手引き』(高松短期大学保育学科)
厚生労働省著『保育所保育指針解説書』(フレーベル館)

【参考文献】

随時紹介します。

科目名： 保育実習指導 -

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo), 樋本 美恵子(HIMOTO Mieko)

【授業の紹介】

保育実習は保育所実習と施設実習から成ります。いよいよ保育実習を間近に控える後期では、実習における業務内容を実践的に学びます。それにより、実習の際、保育所保育指針の内容をより具体的に、保育所の社会的責任役割等を保育の現場から観て、触れ、体験をして保育の奥深さを知り、職業使命感と倫理観を身に付けることができます。また、実習における自己の課題を見つけ、保育実習に向けて準備を行います。

【到達目標】

1. 実習の意義・目的・内容を理解し、保育実習の心得を深め保育者として誠実に向き合う使命感・倫理観を高めることができる。
2. 実習において自らの達成すべき課題を明確にさせ、保育者として豊かな人間性をめざす。
3. 信頼される保育者として、保育の資質・知識技術などの能力を実習を通して身につけることができる。
4. 子どもの最善の利益を学び、子ども・保護者・同僚とのコミュニケーション能力を身につけ実践力を養い、家庭や地域を理解することをめざす。

【授業計画】

- | | |
|------|------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション・保育実習とは |
| 第2回 | 施設とは 施設を理解しよう |
| 第3回 | 施設のマップ作り |
| 第4回 | 保育環境 子どもの生活や遊びと保育環境 |
| 第5回 | 施設では「ゲストレクチャーをお招きして」 |
| 第6回 | 実習の課題とは 実習の課題を明確に |
| 第7回 | 養護内容 子どもの健康・管理と安全対策の理解 |
| 第8回 | 生活環境 子どもの遊びと生活の環境 |
| 第9回 | 生活環境 子どもの健康管理と安全対策の理解 |
| 第10回 | 保護者の支援とは |
| 第11回 | 実習の計画と記録 実習における計画と実践 |
| 第12回 | 保育環境としての保育者 |
| 第13回 | 保育マインドと保育技術 |
| 第14回 | 授業のまとめ(実習直前のマナー等のチェック) |
| 第15回 | 実習に向けて 最終チェック まとめの質疑応答 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

関連するトピックについて教科書を予めよく読んでおいてください。

【成績の評価】

授業中の態度10%、提出物20%、定期試験70%で評価します。
ただし、欠席・遅刻が多い者、また実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先との交渉上、実習を取りやめることがあるので、授業には緊張感を持ってのぞんでください。
この科目は「保育実習指導 - 」を履修し、かつその定期試験を受験した学生のみ、履修することができます。また、この科目の単位認定は、「保育実習 - 」の単位認定を条件とします。
なお、「保育実習 - 」、「保育実習指導 - 」、「保育実習指導 - 」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のためどちらか1つが単独で単位認定されることはありません。事後指導、定期試験の結果は、オフィスアワーの時間に解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

前期のテキストを継続して使用します。また、適宜、資料を配布します。

【参考文献】

厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館、2008年）
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、2015年）

科目名： 保育実習指導

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo), 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

この授業は「保育実習 / 」を受講する前に保育実習にあたっての知識・技能・態度を学ぶファーストステップであり、保育士資格を取得するための必須科目です。保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、保育所の役割、保育の内容の改善、保育の質について明確になっており、それを理論的に実践的に理解しなければなりません。保育学科の目ざす保育者像にさらに近づいた形で実習に取り組むことができる基礎となる授業です。

具体的には、保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。観察や記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技能を習得します。また、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、保育所や施設の機能、保育者の役割や職務内容などを総合的に学んでいきます。

【到達目標】

1. 実習の意義・目的・内容を理解し保育実習の心得を深め保育者として誠実に向き合うことができる。
2. 実習において自らの達成すべき課題を明確にさせ、保育者として豊かな人間性をめざす。
3. 信頼される保育の資質・知識技術などの能力が身に着くことをめざす。
4. 子どもの最善の利益を学び、子ども・保護者・同僚とのコミュニケーション能力を身につけ実践力を養い、家庭や地域を理解する。さらに特別保育メニューの種類とその役割を理解し実践できる。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション 保育実習 における保育所の機能の理解 |
| 第2回 | 保育課程 保育課程の理解・実習園の保育課程 |
| 第3回 | 保育所の危機管理・リスクマネジメント・ヒヤリハット |
| 第4回 | 特別保育・早番を経験・遅番を経験・土曜保育を経験 |
| 第5回 | 保育所実習と障害児保育・障害児保育・巡回相談 |
| 第6回 | 保育実習と地域・子育て支援活動への参加・小学校との連携・保育と食育 |
| 第7回 | 実習における話し言葉～敬語表現 |
| 第8回 | 実習における話し言葉～応用編 |
| 第9回 | 実習における書き言葉～日誌・記録にふさわしい表現 |
| 第10回 | 文書を用いた連絡 |
| 第11回 | 実習の保育日誌をなぜ書くのか？ |
| 第12回 | 部分実習指導計画案 |
| 第13回 | 責任実習指導計画案 |
| 第14回 | 子どもの活動を予想する |
| 第15回 | 授業のまとめと質疑応答（実習直前のチェック指導） |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

関連するトピックについて教科書を予めよく読んでおいてください。

【成績の評価】

授業中の態度10%、提出物20%、学習シートの記述内容と定期試験70%で評価します。ただし、欠席・遅刻が多い者、また実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先との交渉上、実習を取りやめることがあるので、授業には緊張感を持ってのぞんでください。

また、この科目はカリキュラム編成上、「保育実習」と同時期に単位認定をします。さらに「保育実習」「保育実習指導 - 」「保育実習指導 - 」の単位認定がされていることが条件です。

なお、「保育実習」「保育実習指導」は、形式上、それぞれ個別に単位認定されます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

定期試験の結果は、オフィスアワー時に解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

1年次に使用したテキストを再度使用します。

本学作成の『保育実習の手引き』

【参考文献】

厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）

その他、適宜紹介します。

科目名： 保育実習

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

【授業の紹介】

保育実習は、2年次に行われ、1年次の保育実習の保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。

実習の内容としては、実習で行った観察・参加・助手実習および部分実習に加え、実際に一日の指導計画を立案し、保育を行う全日実習を行います。全日実習を通して、乳幼児の実態を捉え、そこからねらいや内容を導き出すこと、計画の立案、環境設定や必要な準備、計画と実践とのかかわりと相違点の実感、臨機応変な対応の必要性などを体験的に理解します。学科が示す、専門的知識や技能及び実践的能力をやしないます。

保育所保育指針では、今日的な視点を踏まえて保育士の専門性を発揮することが求められています。保育学科のめざす保育者像に一步でも近づけることができるよう、保育の現場でさらに深めていただきたい。

【到達目標】

全日実習を最終目標とし、子どもの発達にかかわるということに関してトータルに学び実践力を身につける。家庭や地域とかかわりも理解し保育園と保育者の役割、社会的責任を果たすことができる。

【授業計画】

「実習前に履修される保育実習指導・事後指導」

2年次に開講されます。必ず全てを受講しなければなりません。

「観察実習」

2回目の実習であるので、これには最短の期間を充てる。

「参加、助手実習」

保育士の助手的な役割を果たしながら、実際に保育にかかわる。

「部分実習」

保育実習同様、数回の部分実習を経験し、最終的な全日実習につなげる。

「全日実習」

事前に指導案を作成し、実習生自身が保育者となり、一日の保育を行うことを通して、保育の責務を自覚する。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

実習で学んだ内容を毎日、実習日誌にまとめを行い、次の日の課題を明確にしておくこと。

【成績の評価】

実習園での評価に基づき、行います。ただし、2年次における保育実習を対象とした保育実習指導・事後指導を全て受講しなければ、単位は認定されません。

なお、「保育実習」「保育実習指導」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

事後指導やオフィスアワー時に具体的に解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

本学保育学科作成『保育実習の手引き』

厚生労働省編『保育所保育指針解説』

科目名： 保育実習指導

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

【授業の紹介】

この授業は「保育実習」を受講する前に保育実習にあたっての知識・技能・態度を学ぶファーストステップであり、保育士資格を取得するための必須科目です。保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、保育所の役割、保育の内容の改善、保育の質について明確になっており、それを理論的に実践的に理解しなければなりません。保育学科の目ざす保育者像にさらに近づいた形で実習に取り組むことができる基礎となる授業です。

具体的には、保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。観察や記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技能を習得します。また、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、保育所や施設の機能、保育者の役割や職務内容などを総合的に学んでいきます。

【到達目標】

1. 実習の意義・目的・内容を理解し保育実習の心得を深め保育者として誠実に向き合うことができる。
2. 実習において自らの達成すべき課題を明確にさせ、保育者として豊かな人間性をめざす。
3. 信頼される保育の資質・知識技術などの能力が身に着くことをめざす。
4. 子どもの最善の利益を学び、子ども・保護者・同僚とのコミュニケーション能力を身につけ実践力を養い、家庭や地域を理解する。さらに特別保育メニューの種類とその役割を理解し実践できる。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション 保育実習における保育所の機能の理解 |
| 第2回 | 保育課程 保育課程の理解・実習園の保育課程 |
| 第3回 | 保育所の危機管理・リスクマネジメント・ヒヤリハット |
| 第4回 | 特別保育・早番を経験・遅番を経験・土曜保育を経験 |
| 第5回 | 保育所実習と障害児保育・障害児保育・巡回相談 |
| 第6回 | 保育実習と地域・子育て支援活動への参加・小学校との連携・保育と食育 |
| 第7回 | 実習における話し言葉～敬語表現 |
| 第8回 | 実習における話し言葉～応用編 |
| 第9回 | 実習における書き言葉～日誌・記録にふさわしい表現 |
| 第10回 | 文書を用いた連絡 |
| 第11回 | 実習の保育日誌をなぜ書くのか？ |
| 第12回 | 部分実習指導計画案 |
| 第13回 | 責任実習指導計画案 |
| 第14回 | 子どもの活動を予想する |
| 第15回 | 授業のまとめと質疑応答（実習直前のチェック指導） |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

関連するトピックについて教科書を予めよく読んでおいてください。

【成績の評価】

授業中の態度10%、提出物20%、学習シートの記述内容と定期試験70%で評価します。ただし、欠席・遅刻が多い者、また実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先との交渉上、実習を取りやめることがあるので、授業には緊張感を持ってのぞんでください。

また、この科目はカリキュラム編成上、「保育実習」と同時期に単位認定をします。さらに「保育実習」「保育実習指導 - 」「保育実習指導 - 」の単位認定がされていることが条件です。

なお、「保育実習」「保育実習指導」は、形式上、それぞれ個別に単位認定されます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

定期試験の結果は、オフィスアワー時に解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

1年次に使用したテキストを再度使用します。

本学作成の『保育実習の手引き』

【参考文献】

厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）

その他、適宜紹介します。

科目名： 保育実習

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

【授業の紹介】

保育実習は、2年次に行われ、1年次の保育実習の保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。

実習の内容としては、実習で行った観察・参加・助手実習および部分実習に加え、実際に一日の指導計画を立案し、保育を行う全日実習を行います。全日実習を通して、乳幼児の実態を捉え、そこからねらいや内容を導き出すこと、計画の立案、環境設定や必要な準備、計画と実践とのかかわりと相違点の実感、臨機応変な対応の必要性などを体験的に理解します。学科が示す、専門的知識や技能及び実践的能力をやしないます。

保育所保育指針では、今日的な視点を踏まえて保育士の専門性を発揮することが求められています。保育学科のめざす保育者像に一歩でも近づくことができるよう、保育の現場でさらに深めていただきたい。

【到達目標】

全日実習を最終目標とし、子どもの発達にかかわるということに関してトータルに学び実践力を身につける。家庭や地域とかかわりも理解し保育園と保育者の役割、社会的責任を果たすことができる。

【授業計画】

「実習前に履修される保育実習指導・事後指導」
2年次に開講されます。必ず全てを受講しなければなりません。

「観察実習」
2回目の実習であるので、これには最短の期間を充てる。

「参加、助手実習」
保育士の助手的な役割を果たしながら、実際に保育にかかわる。

「部分実習」
保育実習同様、数回の部分実習を経験し、最終的な全日実習につなげる。

「全日実習」

事前に指導案を作成し、実習生自身が保育者となり、一日の保育を行うことを通して、保育の責務を自覚する。

定期試験付は実施しない。

【授業時間外の学習】

実習で学んだ内容を毎日、実習日誌にまとめを行い、次の日の課題を明確にしておくこと。

【成績の評価】

実習園での評価に基づき、行います。ただし、2年次における保育実習を対象とした保育実習指導・事後指導を全て受講しなければ、単位は認定されません。

なお、「保育実習」「保育実習指導」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

事後指導やオフィスアワー時に具体的に解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

本学保育学科作成『保育実習の手引き』
厚生労働省編『保育所保育指針解説』

専門科目：実践的指導力の総合的涵養

科目	掲載ページ
保育学研究法	95
保育職基礎演習Ⅰ	96
保育職基礎演習Ⅱ	97
卒業研究	98
保育学特別研究	99
保育・教職実践演習(保・幼)	100

科目名： 保育学研究法

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本科目は、保育者としての資質能力を総合的に高める科目であり、保育学科の卒業必修科目に位置付けられています。前半は、「研究」とはどういうものかについて学習を行います。後半は、研究グループごとにフィードバックを受けつつ研究をまとめ、報告会を開催します。全体を通して、次年度の卒業研究へと繋がっていく研究能力の基礎を培うことを目的とします。

本授業は、授業時間外での積極的な活動を要求します。また、授業後半はPC上での作業が増えますので、アプリケーション（Wordなど）を使った文章作成やメールの送受信など、きちんと行えるようにしておいて下さい。

【到達目標】

- 「保育学科のめざす保育者像」に基づき、次の4点を到達目標とします。
- ・子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観を高めることができる。
 - ・自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性を育むことができる。
 - ・高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力を身につけることができる。
 - ・多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力の土台を養うことができる。

【授業計画】

- 第1回 本科目の目的、授業の進め方、評価方法を理解する。また、論文やレポートがどういうものか理解する。
- 第2回 論文の構成を理解して、まずはレポートを書いてみる。
- 第3回 研究における「問い」の役割を理解し、再びレポートを書いてみる。
- 第4回 保育実践や保育学の世界における「問い」について調べてみる。
- 第5回 保育の諸問題に対する様々な意見について、批判的に考えてみる。
- 第6回 保育の諸問題について、ディスカッションを行ってみる。
- 第7回 研究グループに分かれて、研究の方向性について考える。
- 第8回 中間報告会に向けて、研究報告書の作成を進める。また、発表の作法を習得する。
- 第9回 研究中間報告会で発表を行なう。
- 第10回 研究報告書の課題を確認し、改善する。
- 第11回 コメントを踏まえて研究報告書を推敲し、改善する。
- 第12回 コメントを踏まえて研究報告書を推敲し、改善する。
- 第13回 保育学研究報告会で発表を行う。または、他の発表を聞き、評価する。
- 第14回 前講に引き続き、保育学研究報告会で発表を行う。または、他の発表を聞き、評価する。
- 第15回 報告会の振り返りを行なう。
- 定期試験は実施しません。

【授業時間外の学習】

レポートやワークシートの提出を求めます。授業外の時間にも図書館やメディアを活用して、作成に励んで下さい。後半は、研究報告書の作成がメインの課題となります。グループで作成しますので、メンバー内でスケジュールを調整し、役割を正當に分担し、それぞれの責任で報告書の作成を進めて下さい。

【成績の評価】

- ・研究報告書以外の評価（40%）：授業時間内の着席および立ち居振る舞い、研究レポート等の適切な記入や提出、口述課題や記述課題を総合的に判断し評価します。
- ・研究報告書の評価（50%）：研究報告書の完成度を評価し、成績の一部とします。
- ・報告書作成における貢献度（10%）：グループメンバー内で、貢献度の相互評価を行い、成績の一部とします。

詳細は第1講で連絡します。履修意思のある人は、第1講を必ず出席してください。無断欠席者には履修を認めません。

研究報告書の作成は共同作業になりますので、研究グループのメンバーや他の学生・教員らに対して著しく不快・迷惑な振る舞いをする者は、途中であっても受講を禁止します。

なお、最終回に、前期を通しての学習活動に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

適宜、授業中に配布します。

【参考文献】

平成29年3月告示 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名： 保育職基礎演習

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo), 柴田 玲子(SHIBATA Reiko), 池内 裕二(IKEUCHI Yuji), 出木浦 孝(DEKIURA Takashi), 中村 多見(NAKAMURA Tami), 田中 弓子(TANAKA Yumiko), 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi), 佐々木 利子(SASAKI Toshiko), 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

「保育者（先生）になること」を単なる「あこがれ」から確かな「目標」へと切り換え入学した1年次生のみならず、「保育者（先生）」として必ず求められるものについて考え・体得する。これが保育職基礎演習です。そのために本科目は卒業必修に位置づけられます。保育者になるための専門的知識・技能に関する授業だけでは学び得ない内容も多く、グループワークやディスカッションも取り入れながらそれらを多面的に学んでいくことで、保育者としての資質能力の基礎を養っていきます。こうした基礎的内容は、とりわけ実習科目群と連動し、「保育・教職実践演習」につながっていきます。この授業では、実習生として保育現場等に赴きます。授業で提示される規程やマナーが守れない場合、受け入れていただく園の信用を傷つけ、何より園の子どもたちや保護者に迷惑をかけるため、受講を禁止する場合があります。

【到達目標】

1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観を高めることができる。
2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性を育むことができる。
3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力を身につけることができる。
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力を養うことができる。

【授業計画】

- 第1回 保育者になるためのラーニング・ティップスを受講する
- 第2回 保育現場を学ぶための「ボランティア」の意義を理解する
- 第3回 保育者を目指す自分を振り返り、これからの課題を立てる
- 第4回 信頼される保育者に必須の立ち居振る舞いを習慣化する
- 第5回 保育者をめざす実習生として保育所を訪問し、見学課題に取り組む
- 第6回 保育者をめざす実習生として施設等を訪問し、見学課題に取り組む
- 第7回 保育技術を磨く「ほいくのくに」の意義を理解し、計画をたてる
- 第8回 子どもの成長に欠かせない児童文化を実践的に理解する
- 第9回 子どもが絵を描いたり表現する意味を知る 芸術士から子どもを学ぶ
- 第10回 前回の授業の話し合いと発表
- 第11回 夏の保育を意識した野外での活動の意義と留意点を理解する
- 第12回 保育現場で活躍する卒業生(現任保育者)との交流会に参加する
- 第13回 様々な表現活動を通して子どもの成長を支える保育を理解する
- 第14回 夏休みに取り組む保育ボランティアの計画をたてる
- 第15回 まとめ 保育者をめざした今期を振り返り、次期を展望する

【授業時間外の学習】

1. 授業において学んだ「保育学生としてふさわしい服装・言葉遣いや立ち居振る舞い」について考え、実践し続けてください。
2. 保育所や幼稚園等での保育補助ボランティアを積極的にを行い、保育・保育者・子ども・保護者等の理解を深めてください。
3. 後期開講の「保育職基礎演習」において運営する「ほいくのくに」の準備を進めておきましょう。

【成績の評価】

授業に取り組む意欲・関心・態度（50%）、学習ノート等の課題の記入や提出（40%）、まとめの課題（10%）で評価します。
課題の返却により振り返りを行うことでフィードバックします。

【使用テキスト】

授業ごとにプリントを配布します。

【参考文献】

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名： 保育職基礎演習

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo), 柴田 玲子(SHIBATA Reiko), 池内 裕二(IKEUCHI Yuji), 出木浦 孝(DEKIURA Takashi), 中村 多見(NAKAMURA Tami), 田中 弓子(TANAKA Yumiko), 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi), 佐々木 利子(SASAKI Toshiko), 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

「保育者（先生）になること」を単なる「あこがれ」から確かな「目標」へと切り換え入学した1年次生のみならず、「保育者（先生）」として必ず求められるものについて、保育職基礎演習 に引き続き考え・体得していきます。そのために本科目は卒業必修に位置づけられます。保育職基礎演習 では、グループワークやディスカッションを中心に保育者としての資質能力の基礎を養っていきます。こうした基礎的内容は、とりわけ実習科目群と連動し、「保育・教職実践演習」につながっていきます。

【到達目標】

1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観を高めることができる。
2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性を育むことができる。
3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力を身につけることができる。
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力を養うことができる。

【授業計画】

第1回 後期を迎えるにあたって自己を省察する

第2回 保育実践活動「ほいくのくに」を準備する

第3回 保育実践活動「ほいくのくに」を運営する

第4-8回 実践的保育講座(5回連続)を受講する

第9-13回 実践的保育講座(5回連続)を受講する

実践的保育講座のねらいと特徴 通常の授業を補完・発展させる内容で講座内容を構成し、保育に関する知識・技能を深める 保育学科専任教員の各専門によって講座が編成(理論系と実践系から成る9講座)

学生は自身の興味関心に基づき理論系と実践系から一つずつ講座を選択し、受講 学生は各講座を通して学習成果を作成し、ポートフォリオへ集約

第14回 就職活動オリエンテーションを受講し就職活動への意識を高める

第15回 総括 保育者をめざした1年間を振り返り、次期を展望する

【授業時間外の学習】

1. 授業において学んだ「保育学生としてふさわしい服装・言葉遣いや立ち居振る舞い」について考え、実践し続けてください。
2. 保育所や幼稚園等での保育補助ボランティアを積極的に行い、保育・保育者・子ども・保護者等の理解を深めてください。

【成績の評価】

授業に取り組む意欲・関心・態度(50%)、学習ノート等の課題の記入や提出(40%)、まとめの課題(10%)で評価します。
課題の返却により振り返りを行うことでフィードバックします。

【使用テキスト】

授業ごとにプリントを配布します。

【参考文献】

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名： 卒業研究

担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

保育学科での2年間の学びを総まとめする卒業必修科目に位置づきます。1年次の保育学研究法で培った研究手法等を用いて卒業論文と卒業研究レジュメを作成し、発表会での審査を受けることによって、保育者に求められる専門性を総合的に涵養します。

【到達目標】

1. 研究態度を身につけることができる。
2. テーマに関連する資料を的確に検索することができる。
3. 資料に基づき、論理的に主張を構成することができる。
4. 研究成果をわかりやすく発表することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、資料の検索
- 第2回～第10回：資料検索および発表内容の構成、発表用レジュメ作成
- 第11回～第12回：発表用レジュメ仕上げ
- 第13回：発表の練習および全体のまとめ
- 第14回：卒業研究発表会における発表および質疑
- 第15回：卒業研究発表会の振り返り

【授業時間外の学習】

図書館等で資料を積極的に収集し、整理することで論点を明確にしておいてください。

【成績の評価】

各回の進捗状況（30%）、取り組みの姿勢（30%）、発表会における発表および質疑（40%）卒業研究発表会にて講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

授業の都度プリントを配布します。

【参考文献】

なし

科目名： 保育学特別研究

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi)

【授業の紹介】

自分の見解を他人にわかりやすく伝えることは非常に大切なことです。そのためには「なぜ」そのような見解、あるいは結論に至ったのかを確実な根拠を示しながら説明できなければなりません。私たちは保育の実践者であると同時に保育の研究者でもあります。卒業研究とも関連する本授業では、ディプロマポリシーにも掲げられている高度な専門的知識と思考力に重点を置き、テーマを決めて研究を進め、卒業研究よりも高度な研究内容の中・四国保育学生研究大会で発表することを目標として進めていきます。

【到達目標】

1. テーマに関連する資料を的確に検索することができる。
2. 資料に基づき、論理的に主張を構成することができる。
3. 研究成果を公の場でわかりやすく発表することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、資料の検索
- 第2回～第12回：資料検索および発表内容の構成、発表用レジュメ作成
- 第13回～第14回：発表用レジュメ仕上げ
- 第15回：発表の練習および全体の振り返り

【授業時間外の学習】

関連する資料を図書館等で積極的に収集し、整理することで論点を明確にしておいてください。

【成績の評価】

公の場での研究発表（60％）、取り組みの姿勢（25％）、各回の進捗状況（15％）

【使用テキスト】

毎回プリントを配布します。

【参考文献】

特にありません。

科目名： 保育・教職実践演習（保・幼）

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi), 柴田 玲子(SHIBATA Reiko), 池内 裕二(IKEUCHI Yuji), 中村 多見(NAKAMURA Tami), 田中 弓子(TANAKA Yumiko), 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo), 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi), 佐々木 利子(SASAKI Toshiko), 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

保育実習ならびに教育実習を終えた学生を対象に、保育者（先生）になるための2年間の学びを、これまでの学びの復習を含めて総括するとともに、足りない内容を補完する授業。また、さらなる資質能力の向上を多彩な観点からめざすことで、保育学科のめざす保育者像を実現する。

【到達目標】

1. 2年間の学びの総括として、これまで以上に保育を多角的に考えることができる。
2. 使命感や責任感をより高めることができる。
3. 豊かな人間性、社会性をより高めることができる。
4. 専門的知識をより深め、的確な洞察力や判断力をより高めることができる。
5. 保育実践力をより高めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション～本科目の目的と進め方～
 - 第2回 実習の振り返りに基づく保育像の再検討～資質向上に向けた討議～
 - 第3回 実習の振り返りに基づく保育像の再検討～課題認識～
 - 第4回 保育者・社会人として必要な心構えに関する理解
 - 第5回 保育者・社会人として必要な心構えに関する演習
 - 第6回 対人能力向上に関する理解
 - 第7回 対人能力向上に関する演習
 - 第8回 中堅保育者との意見交換会～保育者としての心構えに関する講話～
 - 第9回 中堅保育者との意見交換会～分科会形式による討議～
 - 第10回 乳幼児期の子どもをもつ保護者との意見交換会～子育てに関する講話～
 - 第11回 乳幼児期の子どもをもつ保護者との意見交換会～分科会形式による討議～
 - 第12回 教職倫理に基づく保育職の理解
 - 第13回 保育・教育行政の課題と展望に関する理解と演習
 - 第14回 乳幼児期の教育をめぐる特徴的实践に関する理解
 - 第15回 子育て支援に基づく保護者理解
 - 第16回 保育所や幼稚園等と小学校との連携に関する理解
 - 第17回 保育所や幼稚園等と小学校との連携に関する演習
 - 第18回 特別支援に基づく幼児・保護者理解
 - 第19回 特別支援に基づく幼児・保護者理解に関する演習
 - 第20回 保育現場が求める保育者像の理解～学級経営の観点～
 - 第21回 保育現場が求める保育者像の理解～保育内容の指導者として～
 - 第22回 心理学的視点に基づく幼児・保護者理解
 - 第23回 保育者のストレスの理解
 - 第24回 実地調査および保育実践に関する事前演習
 - 第25回 実地調査および保育実践～子ども理解をテーマに～
 - 第26回 実地調査と保育実践演習の省察演習
 - 第27回 実地調査および保育実践に関する事後演習
 - 第28回 保育者として社会人としての心構えに関する総括的演習
 - 第29回 2年間を総括する演習
 - 第30回 まとめ～これまでの2年間の学びを振り返る～
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

これまでの学びを復習するとともに、その学びを確認するためにも保育所や幼稚園等での保育補助ボランティア活動等を積極的に行うとともに、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、問題解決に対する意欲を高めておくこと。

【成績の評価】

授業に取り組む意欲・関心・態度（50%）、学習シート等の課題の記入や提出（40%）、まとめの課題（10%）で評価する。
課題の返却により振り返りを行うことでフィードバックする。

【使用テキスト】

その都度プリントを配布する

【参考文献】

保育所保育指針（平成29年3月、厚生労働省）、幼稚園教育要領（平成29年3月、文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月、内閣府、文部科学省、厚生労働省）